

## 第4章

高齢者の健康と生活状況調査結果  
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果)



## 第4章 高齢者の健康と生活状況調査結果 （介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果）

### 1 あなたのご家族や生活状況について

#### （1）家族構成及び日中独居者の状況

○家族構成をみると、一般高齢者は「息子・娘との2世帯」（35.3%）、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（31.1%）、事業対象者は「息子・娘との2世帯」（38.4%）、「1人暮らし」（34.8%）、要支援者は「息子・娘との2世帯」（37.8%）、「1人暮らし」（30.8%）となっています。

○日中独居の有無をみると、一般高齢者は「よくある」「たまにある」をあわせると68.9%、事業対象者は70.8%、要支援者は73.3%となっています。

図4.1 家族構成<問1-(1)>

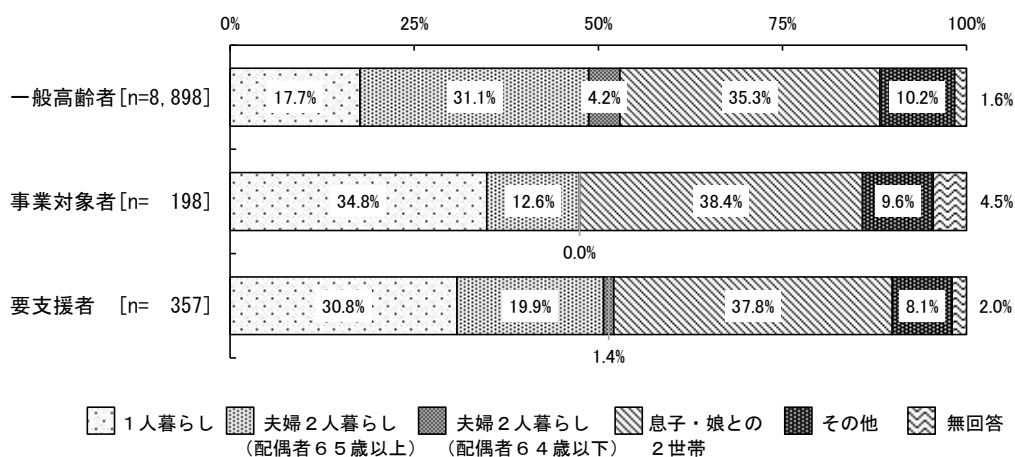
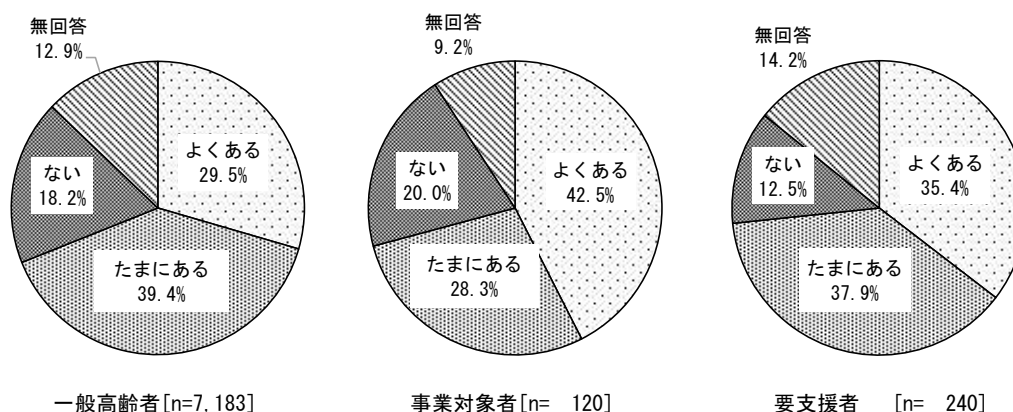


図4.2 日中独居の有無<問1-(1).①>



## (2) 日常生活における介護（介助）者の有無

- 普段の生活における介護・介助の状況をみると、一般高齢者・事業対象者は「介護・介助は必要ない」（86.6%・45.5%）が最も高くなっています。
- 要支援者は「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（52.9%）が最も高くなっています。
- 一般高齢者で介護を受けていると回答した方の介護・介助をしている人を見ると、「配偶者（夫・妻）」（39.2%）が最も高く、次いで「娘」（34.0%）、「息子」（25.2%）となっています。
- 事業対象者と要支援者では「介護サービスのヘルパー」（41.2%・34.9%）が最も高くなっています。

図4.3 普段の生活で介護・介助が必要か<問1-(2)>

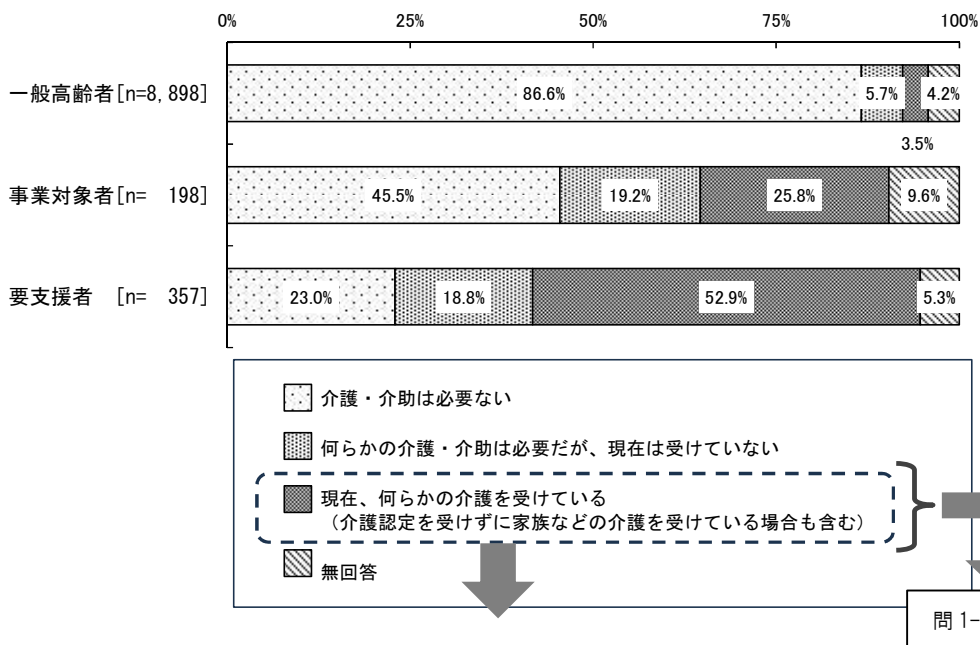
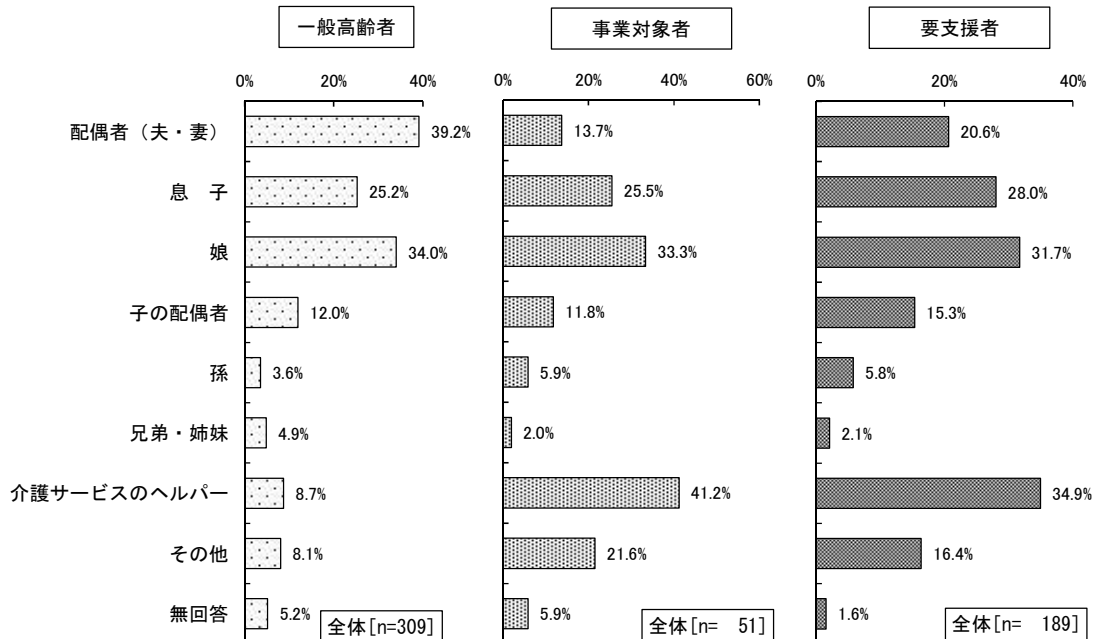
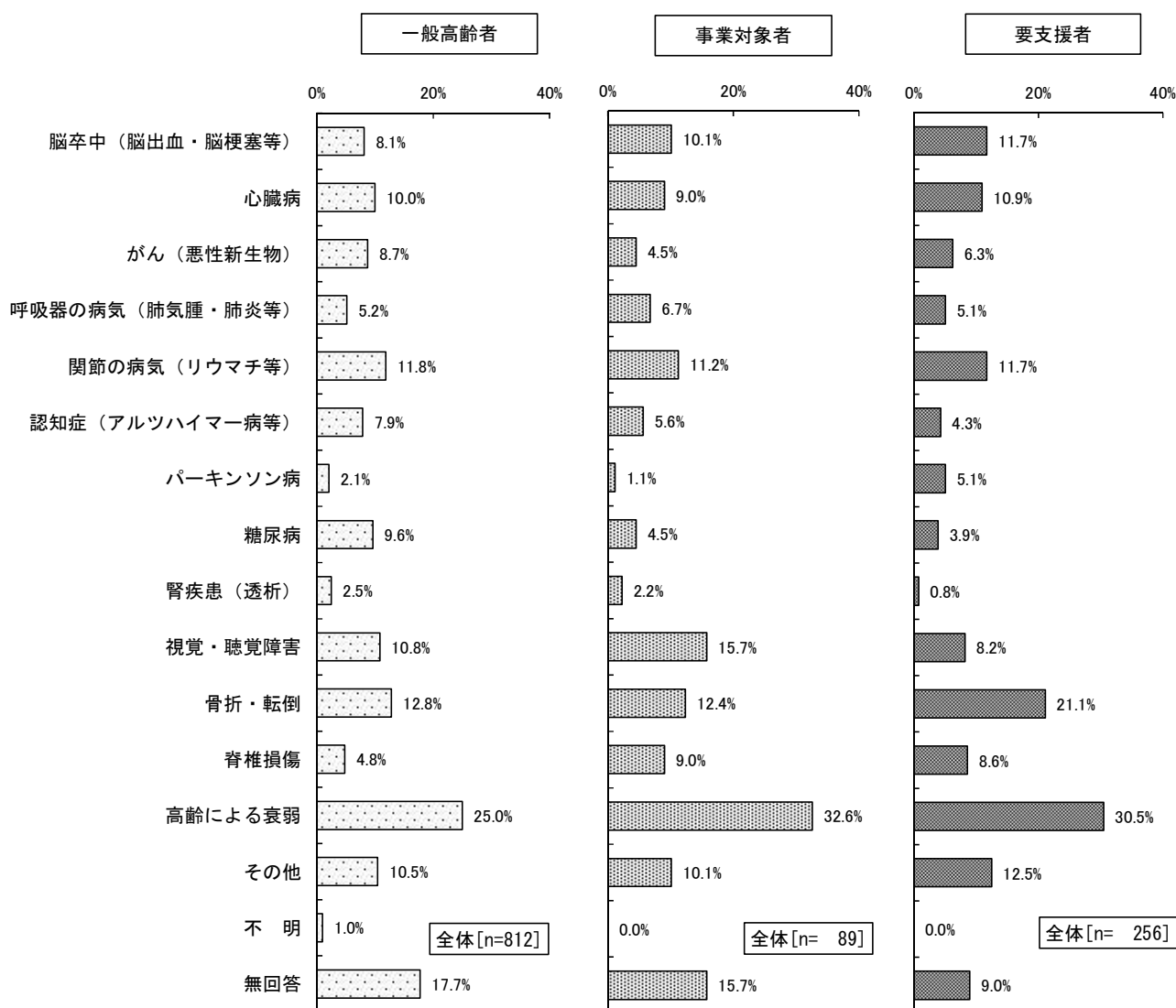


図4.4 介護・介助をしてもらっている人<問1-(2). ②>



○介護・介助が必要になった主な原因では、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「高齢による衰弱」（25.0%・32.6%・30.5%）が最も高くなっています。次いで一般高齢者・要支援者は「骨折・転倒」（12.8%・21.1%）、事業対象者は「視覚・聴覚障害」（15.7%）となっています。

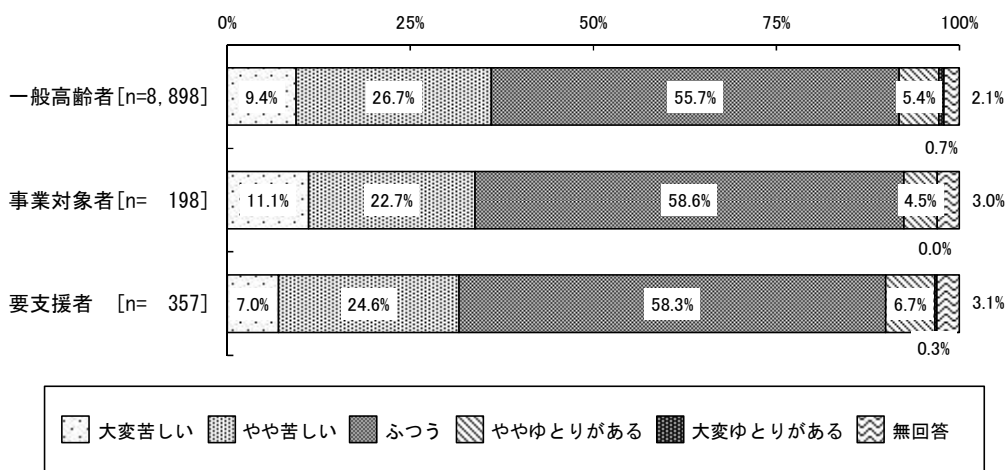
図4.5 介護・介助が必要になった主な原因<問1-(2). ①>



### (3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状況をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「ふつう」(55.7%・58.6%・58.3%)が最も高く、次いで「やや苦しい」(26.7%・22.7%・24.6%)となっています。

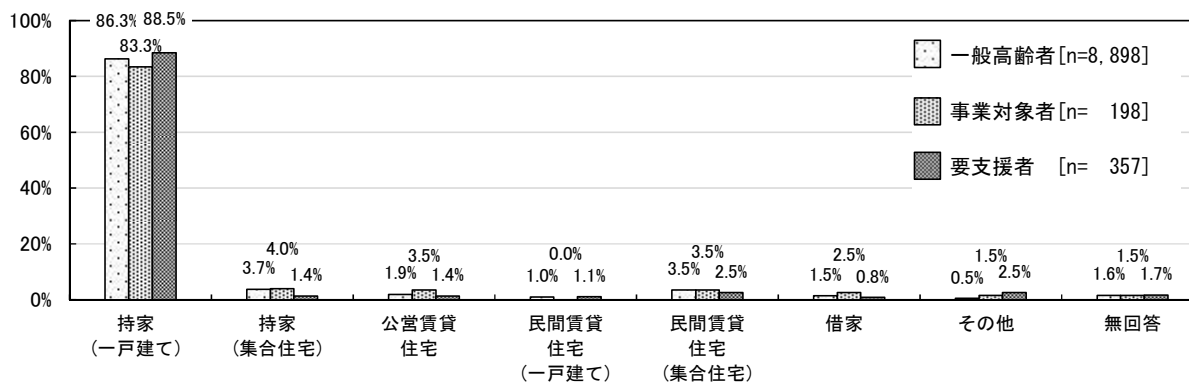
図4.6 現在の暮らしの状況を経済的にみて<問1-(3)>



### (4) 現在の住居環境

○現在暮らしている家の状況では、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「㊤持家（一戸建て）」(86.3%・83.3%・88.5%)が最も高くなっています。

図4.7 現在の暮らしている家の状況<問1-(4)>



## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動機能の状況

- 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、一般高齢者は「できない」が14.6%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は「できない」が半数を超えており、前者を大きく上回っています。
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、一般高齢者は「できない」が9.9%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、要支援者は「できない」が52.1%となっており、前者を大きく上回っています。

図4.8 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか<問2-(1)>

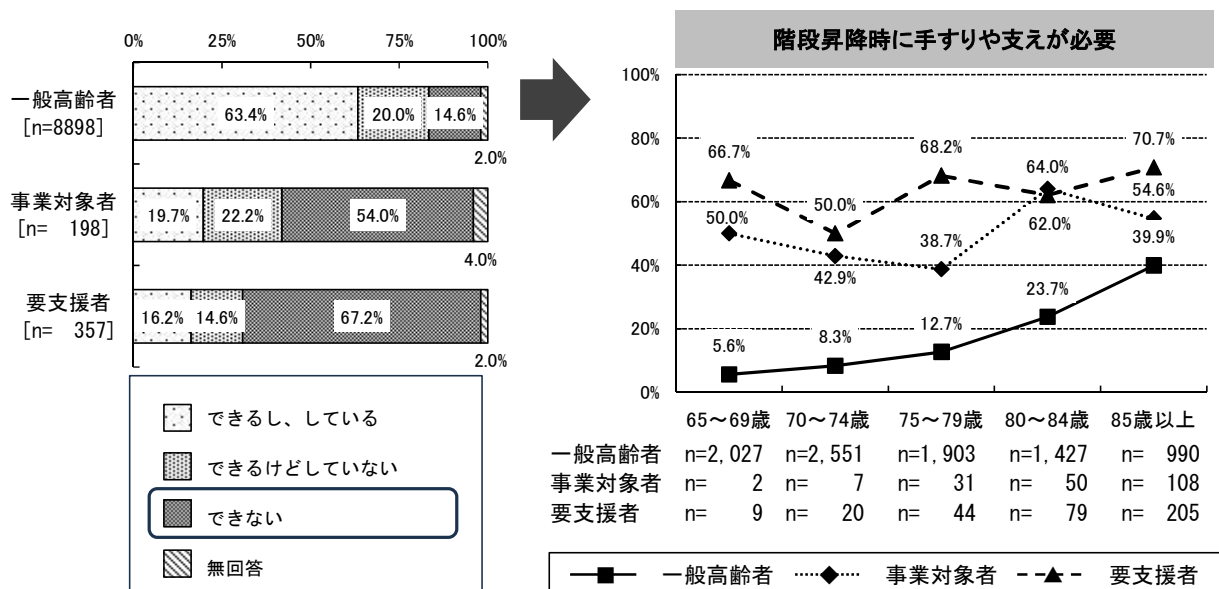
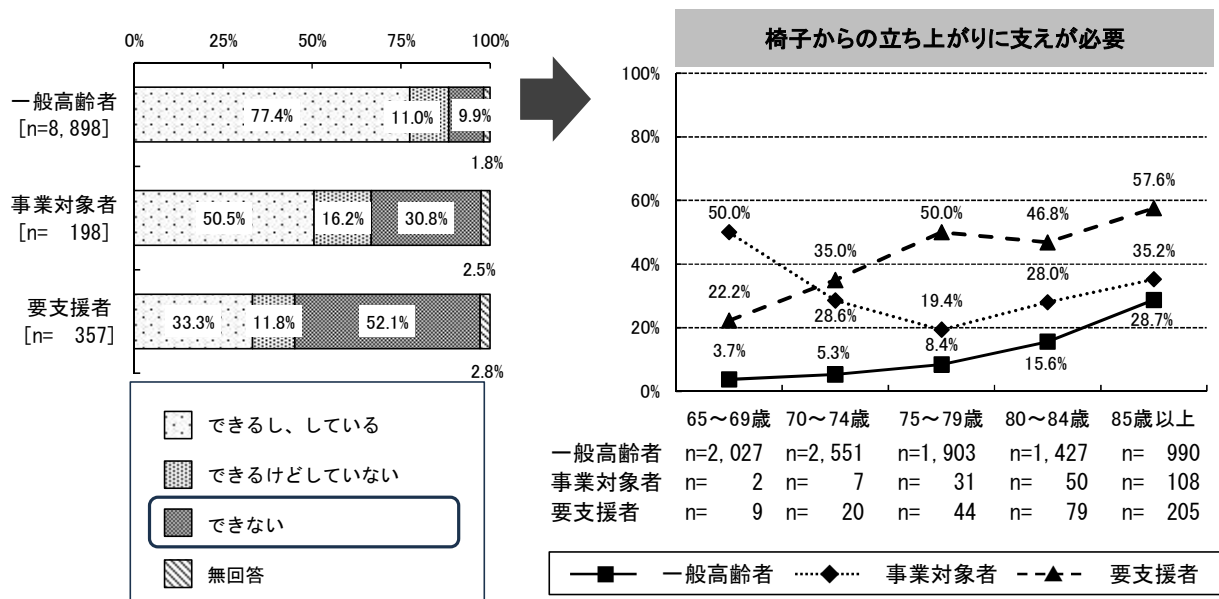


図4.9 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がるることができるか<問2-(2)>



- 15分位続けて歩くことができるかでは、一般高齢者は「できない」が8.1%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、要支援者は「できない」が48.5%となっており、前者を大きく上回っています。
- 過去1年間に転んだ経験の有無では、一般高齢者は「何度もある」(7.3%)と「1度ある」(23.7%)を合わせた31.0%が転んだ経験があると答えています。
- 一方、要支援者は「何度もある」(25.2%)と「1度ある」(33.6%)を合わせた58.8%が転倒経験者となっており、前者を上回っています。

図4.10 15分位続けて歩くことができるか<問2-(3)>

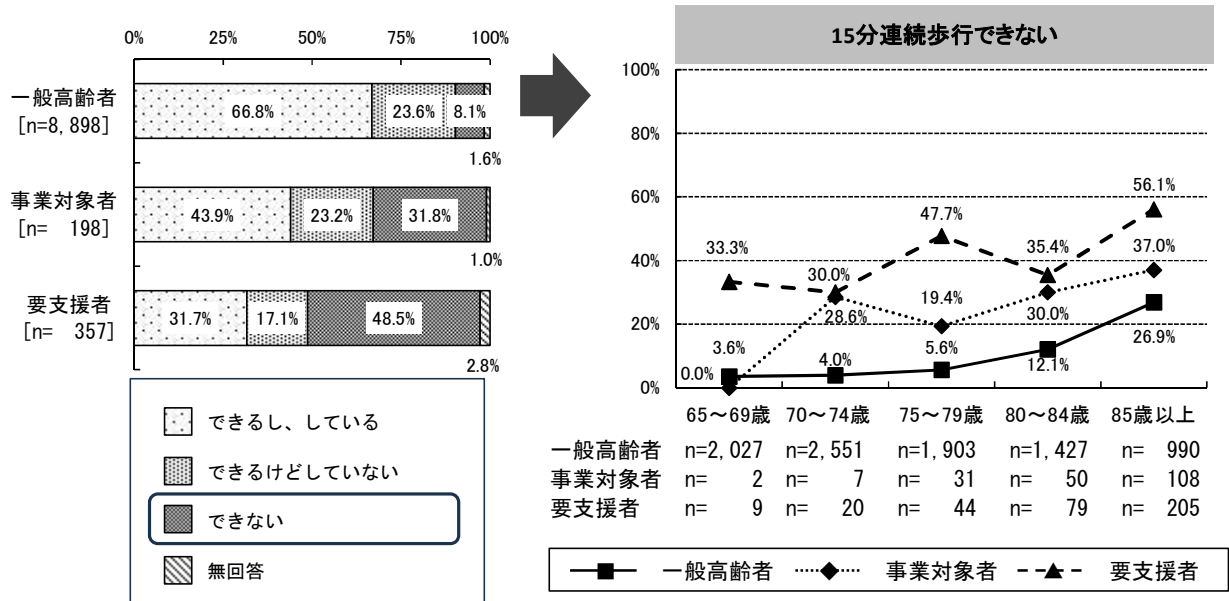
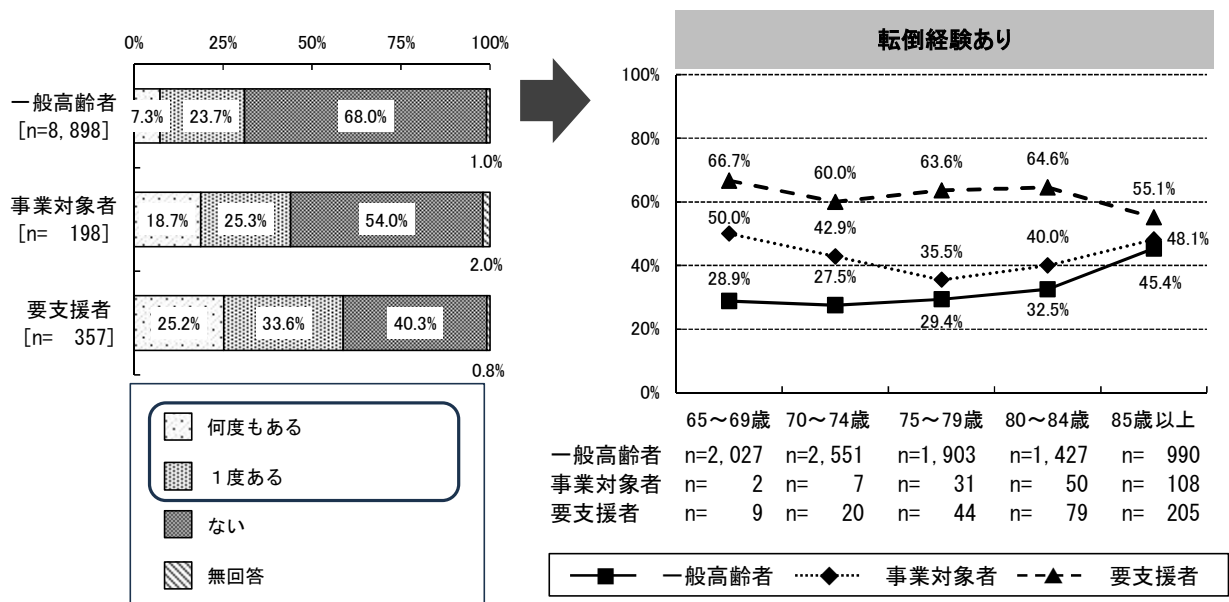


図4.11 過去1年間に転んだ経験の有無<問2-(4)>

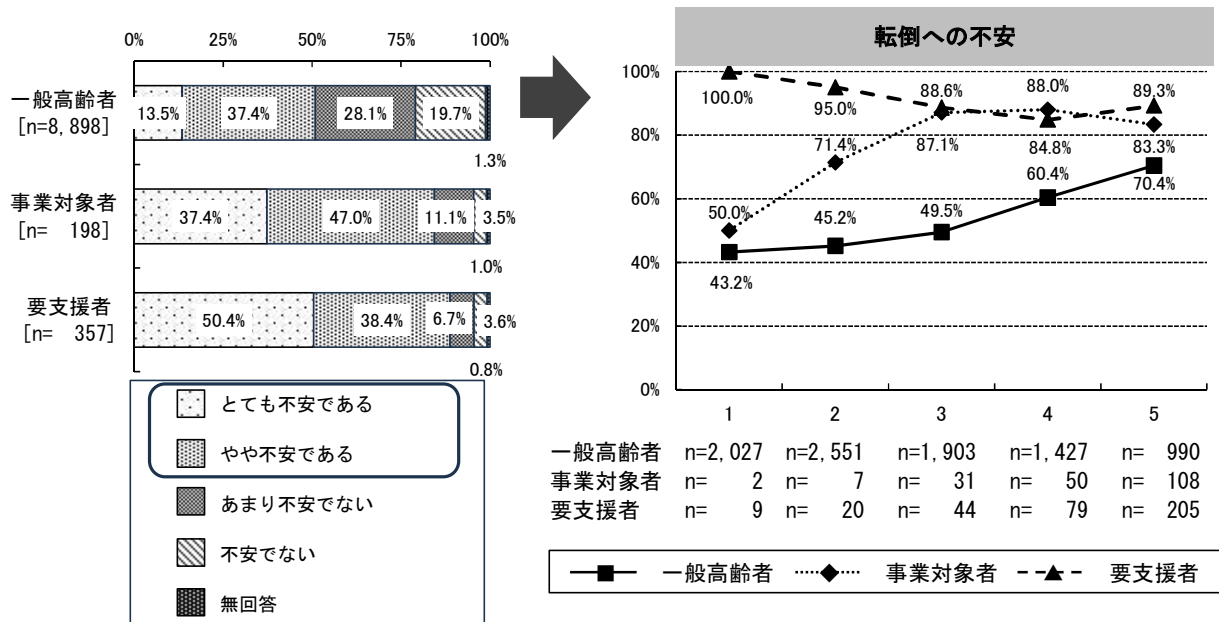




○転倒に対する不安の有無では、一般高齢者は「とても不安である」（13.5%）と「やや不安である」（37.4%）を合わせた50.9%で不安があり、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、事業対象者・要支援者いずれも「とても不安である」（37.4%・50.4%）と「やや不安である」（47.0%・38.4%）を合わせると8割以上となっています。

図4.12 転倒に対して不安はあるか<問2-(5)>

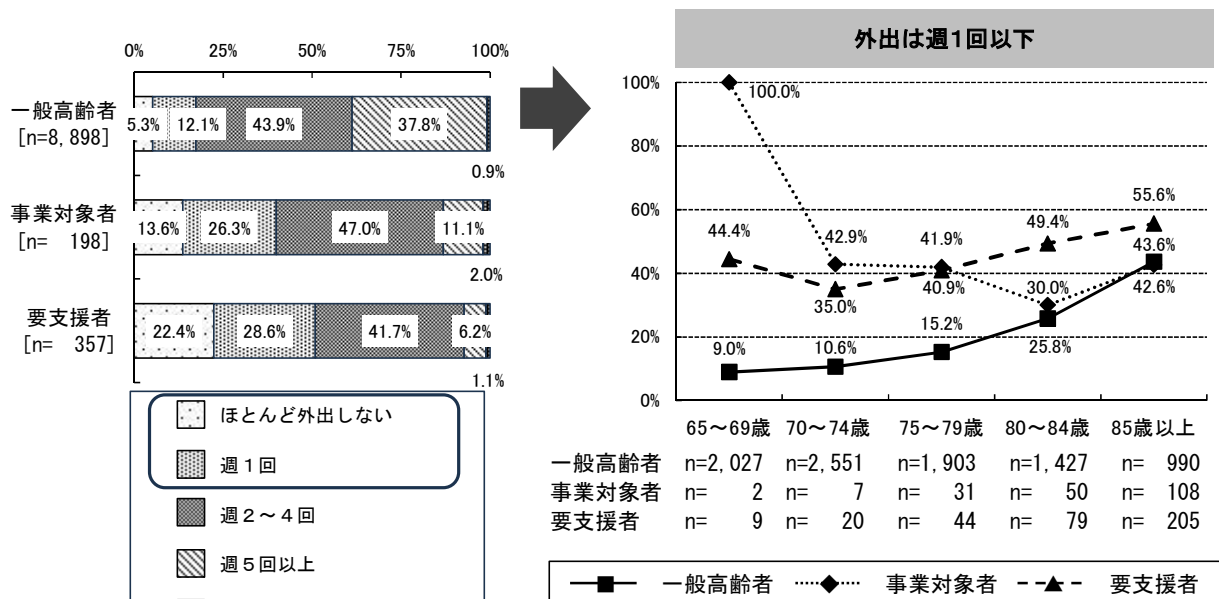


## (2) 外出の状況

○週に1回以上の外出の有無では、一般高齢者は「ほとんど外出しない」（5.3%）と「週1回」（12.1%）を合わせた17.4%が外出は週1回以下となっており、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

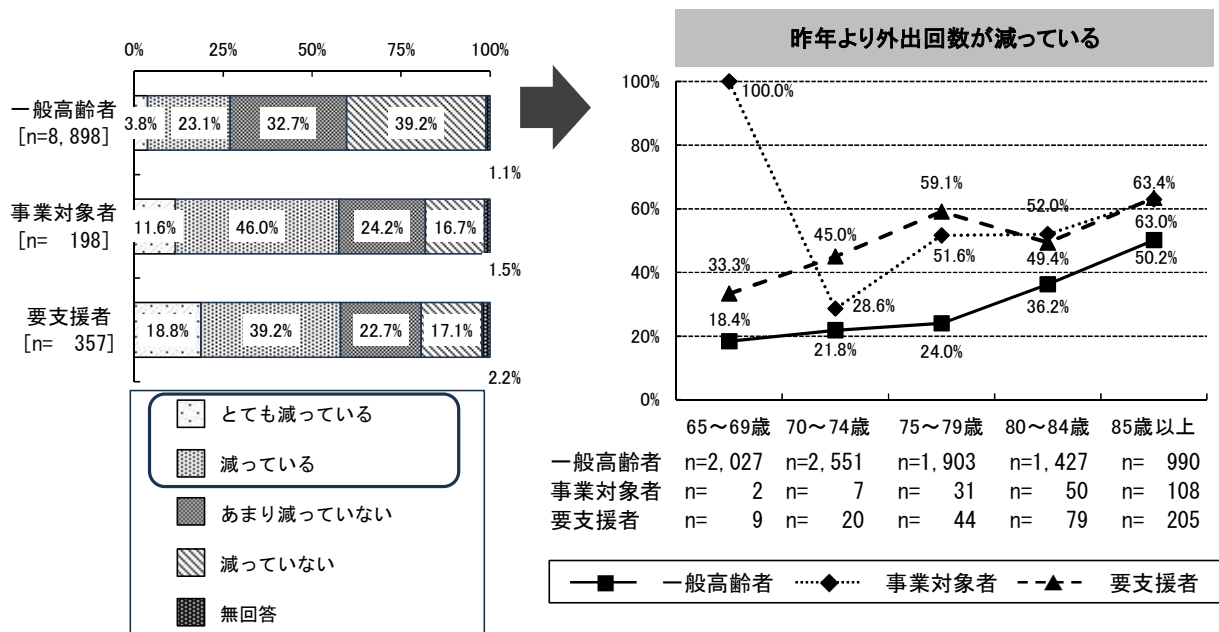
○一方、事業対象者・要支援者ともに「ほとんど外出しない」（13.6%・22.4%）と「週1回」（26.3%・28.6%）を合わせると3割以上となっており、前者を上回っています。

図4.13 週に1回以上は外出しているか<問2-(6)>



- 昨年と比べた外出の頻度では、一般高齢者は「とても減っている」(3.8%)と「減っている」(23.1%)を合わせた26.9%が昨年より外出が減っており、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者ともに「とても減っている」(11.6%・18.8%)と「減っている」(46.0%・39.2%)を合わせると5割以上となっており、前者を上回っています。

図4.14 昨年と比べた外出の頻度<問2-(7)>



- 外出を控えているかをみると、一般高齢者は「はい」が25.9%います。
- 一方、事業対象者・要支援者は「はい」が57.1%・65.5%で、前者と比べ31.2<sup>ポイント</sup>・39.6<sup>ポイント</sup>高くなっています。
- 外出を控えている理由では、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「足腰などの痛み」(38.2%・60.2%・67.5%)が最も高く、次いで一般高齢者が「外での楽しみがない」(18.8%)、事業対象者・要支援者が「交通手段がない」(27.4%・28.6%)となっています。

図4.15 外出を控えているか<問2-(8)>

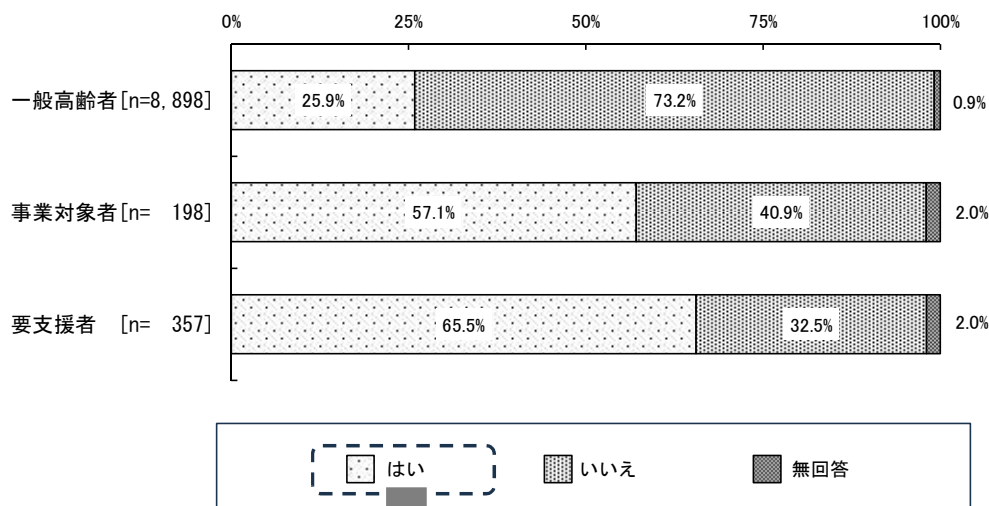
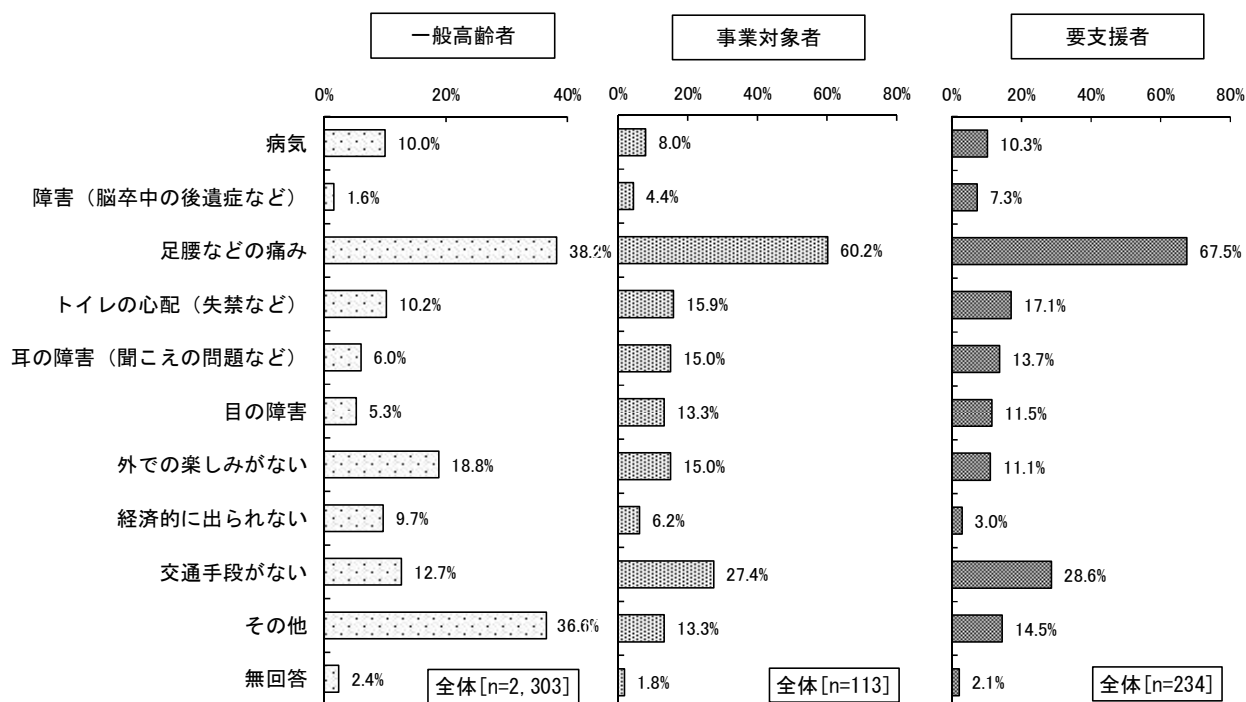


図4.16 外出を控えている理由<問2-(8).①>

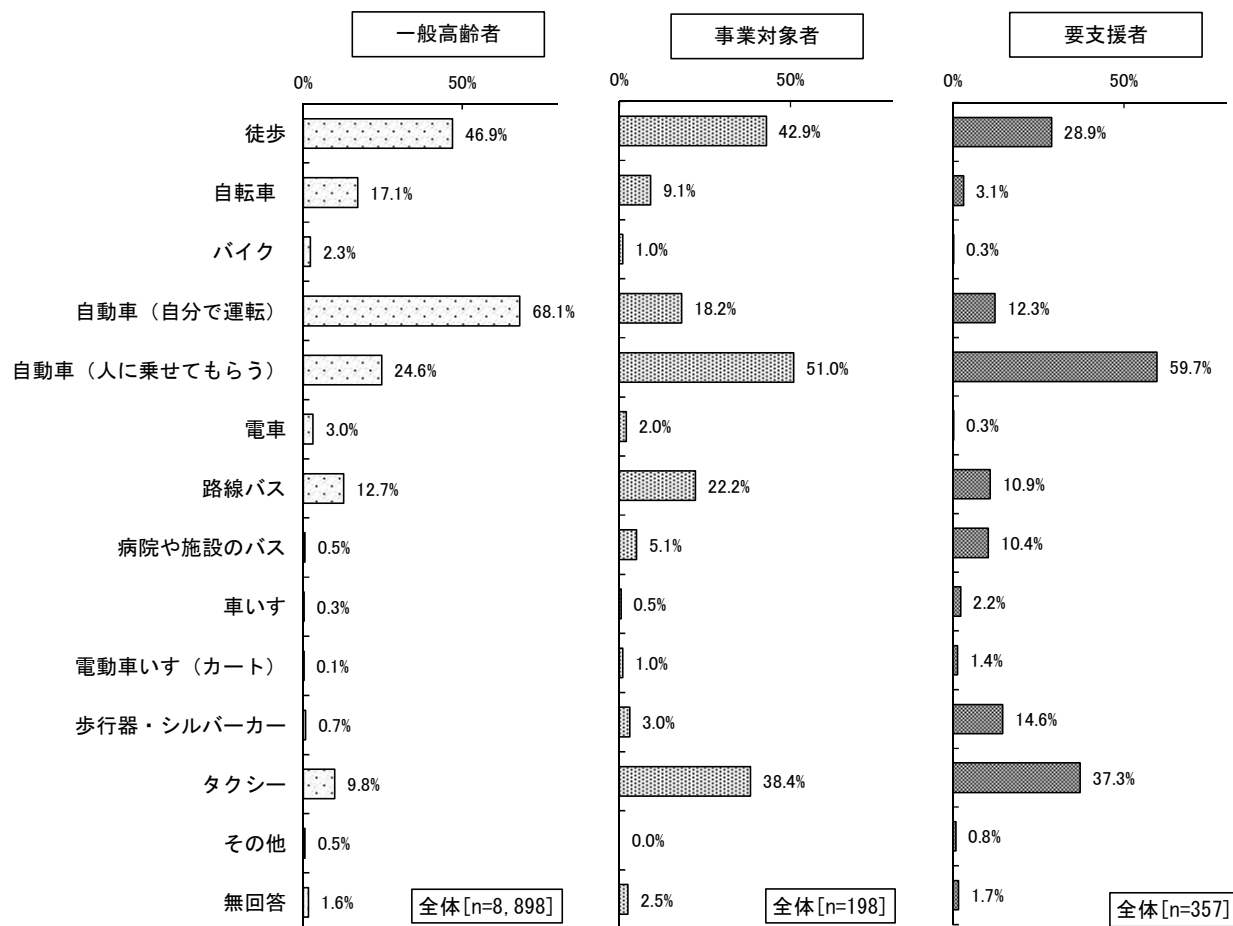


○外出する際の移動手段では、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」(68.1%)が最も高く、次いで「徒歩」(46.9%)となっています。

○一方、事業対象者と要支援者では「自動車（人に乗せてもらう）」(51.0%・59.7%)が最も高くなっています。

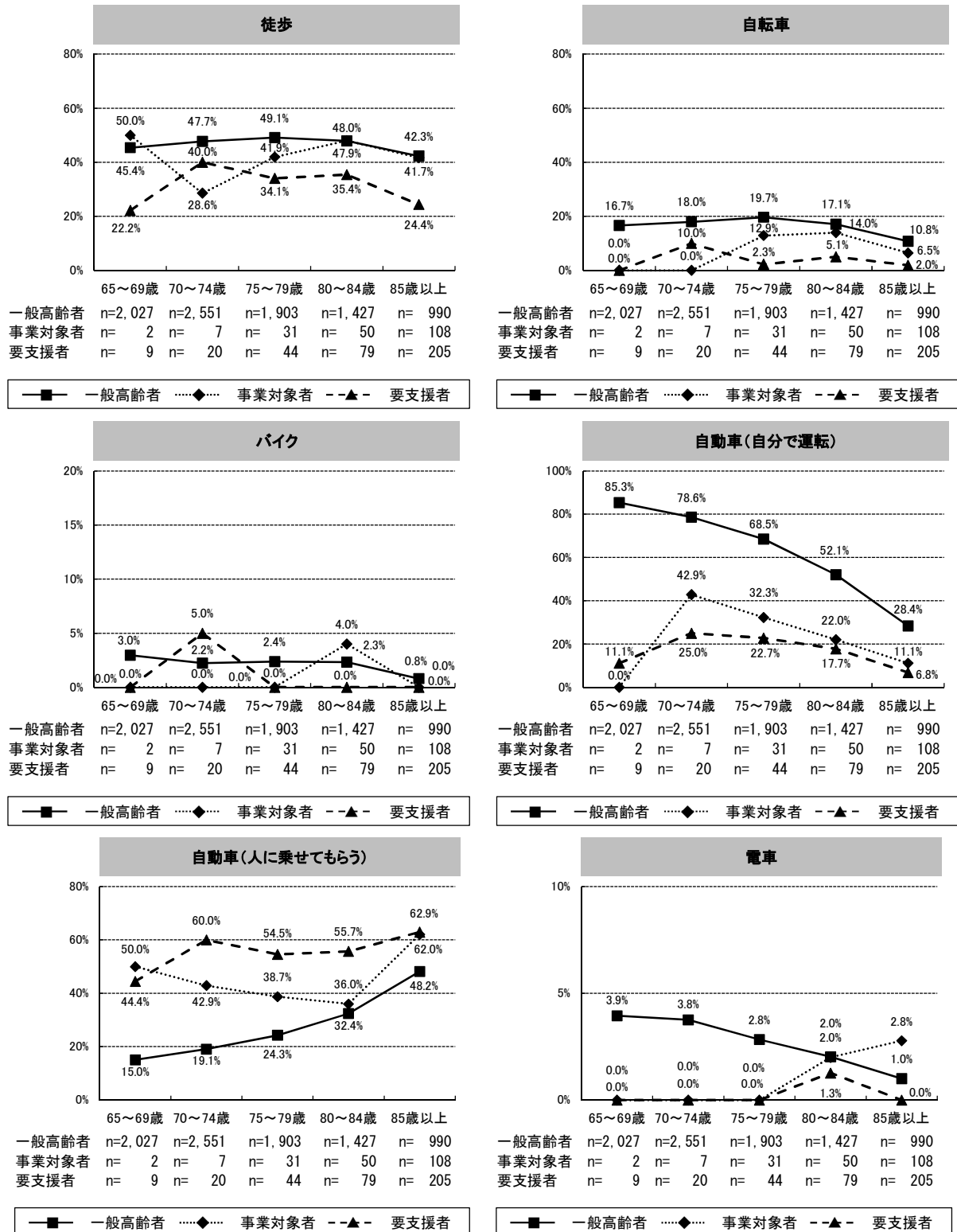
○次いで、事業対象者では「徒歩」(42.9%)が、要支援者では「タクシー」(37.3%)となっています。

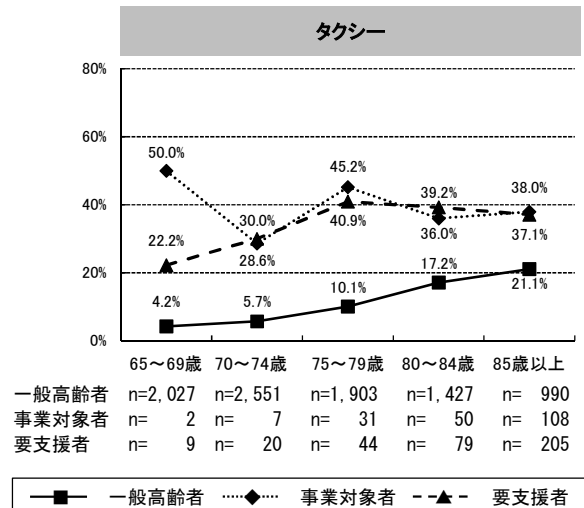
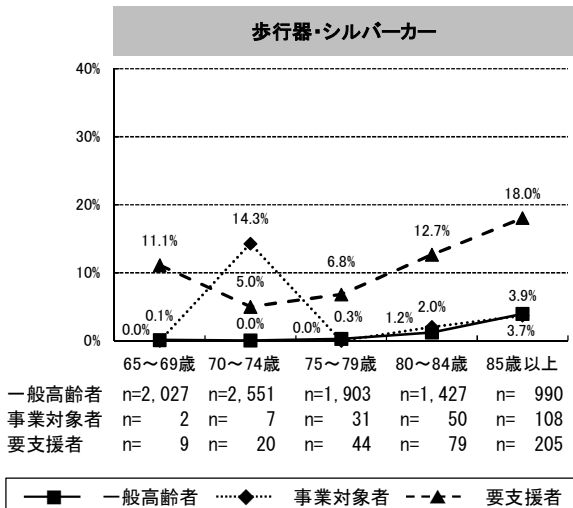
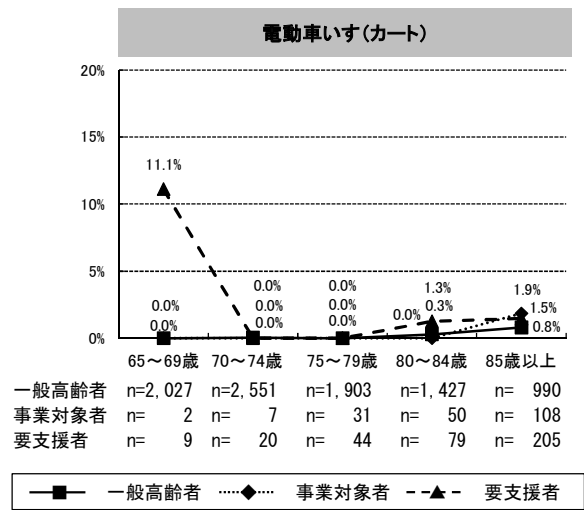
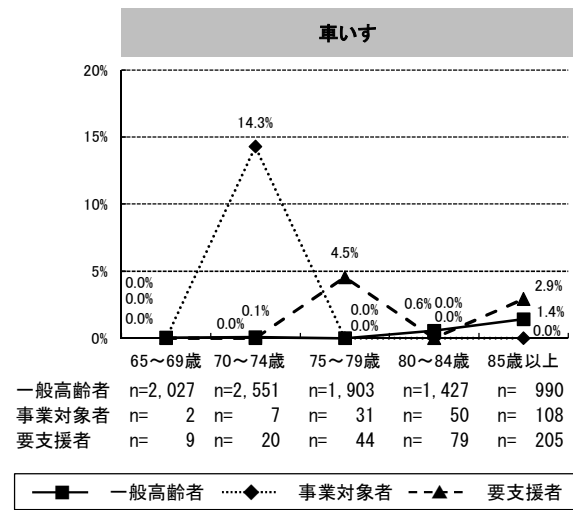
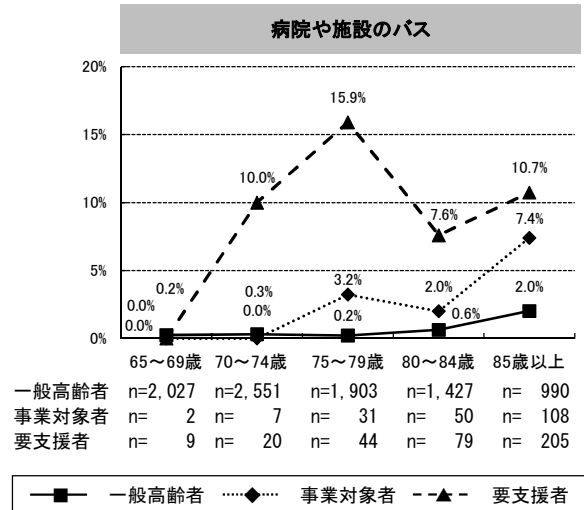
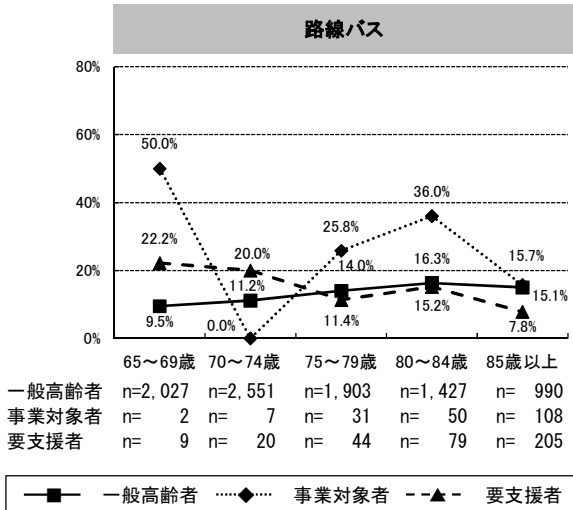
図4.17 外出する際の移動手段<問2-(9)>



- 一般高齢者の外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「徒歩」は5割以下で推移しています。
- 「自動車（自分で運転）」では加齢とともに利用割合が低くなり、80～84歳で約5割となり、加齢とともに大きく低下します。
- 一方、「自動車（人に乗せてもらう）」では、加齢とともに割合が高くなる傾向にあります。

図4.18 年齢階級別移動手段＜問2-(9)＞





### 3 食べることについて

#### (1) 現在の肥満（BMI）状況

○高齢者の肥満状況をBMI指数で見ると、一般高齢者は「やせ（18.5未満）」は6.3%で、該当者を年齢階級別にみると85歳以上では9.3%となっています。事業対象者は11.1%、要支援者は10.9%となっています。

○6か月間で2～3kg以上の体重減少があった一般高齢者は10.2%となり、事業対象者は13.1%、要支援者は21.6%となっています。

図4.19 BMI <問3-(1)>

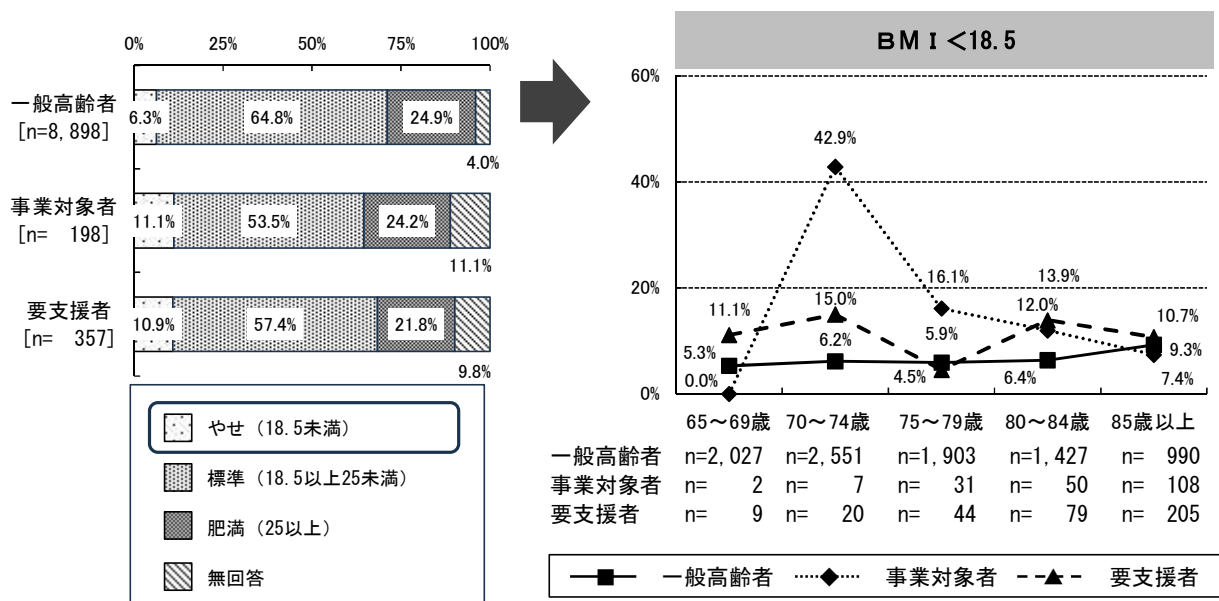
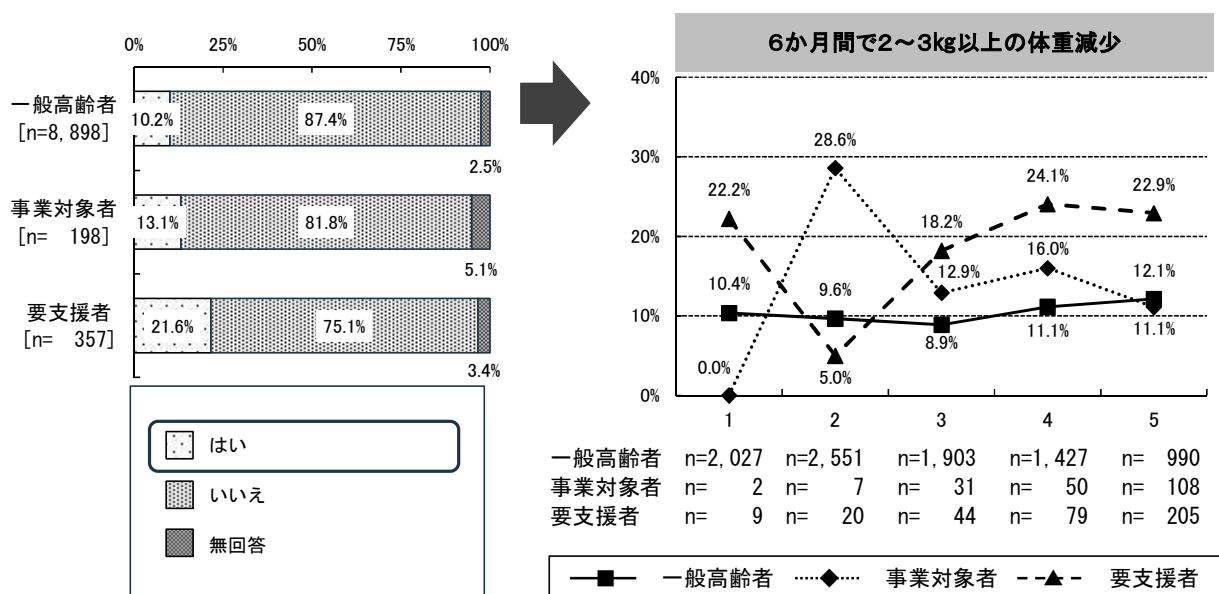


図4.20 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか<問3-(7)>



## (2) 歯・口腔の状況

- 歯の数と入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(14.6%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(32.7%)を合わせて47.3%となっています。
- 事業対象者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(11.6%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(41.9%)を合わせて53.5%となっています。
- 要支援者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.1%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(42.9%)を合わせて60.0%となっています。
- 毎日入れ歯の手入れをしている方は、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも8割以上となっています。

図4.21 歯の数と入れ歯の利用状況<問3-(6)>

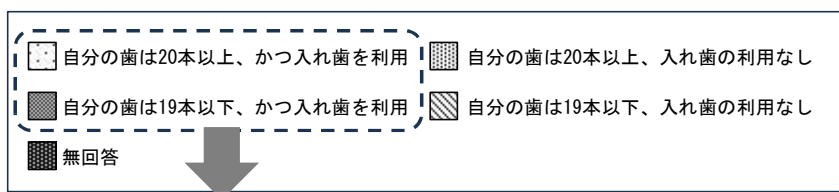
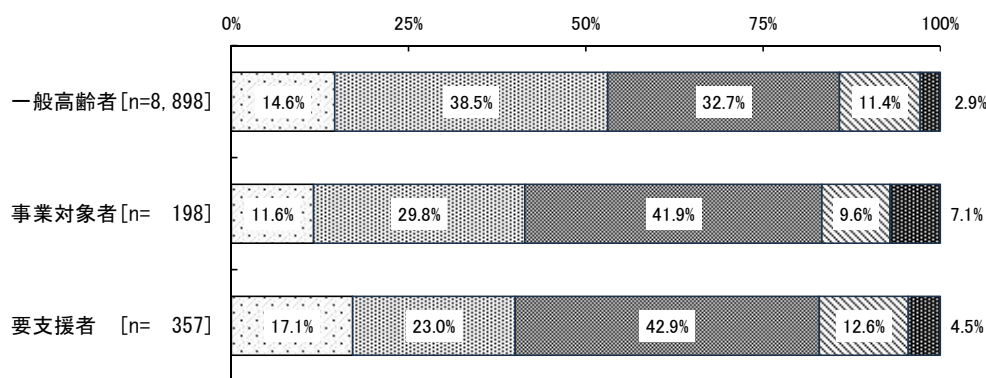
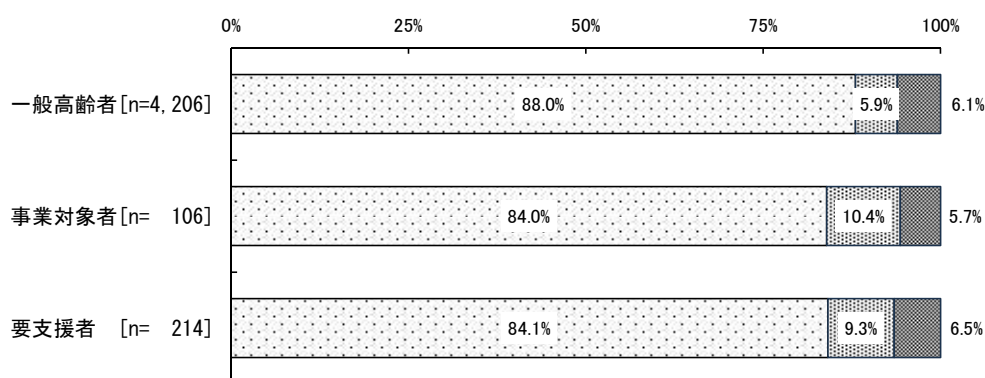


図4.22 毎日入れ歯の手入れをしているか<問3-(6).②>





○噛み合わせが良い一般高齢者は 78.9%、事業対象者は 75.3%、要支援者は 69.7%となっています。

○歯磨きを毎日している一般高齢者は 91.9%、事業対象者は 84.8%、要支援者は 86.3%となっています。

図4.23 噛み合わせは良いか<問3-(6).①>

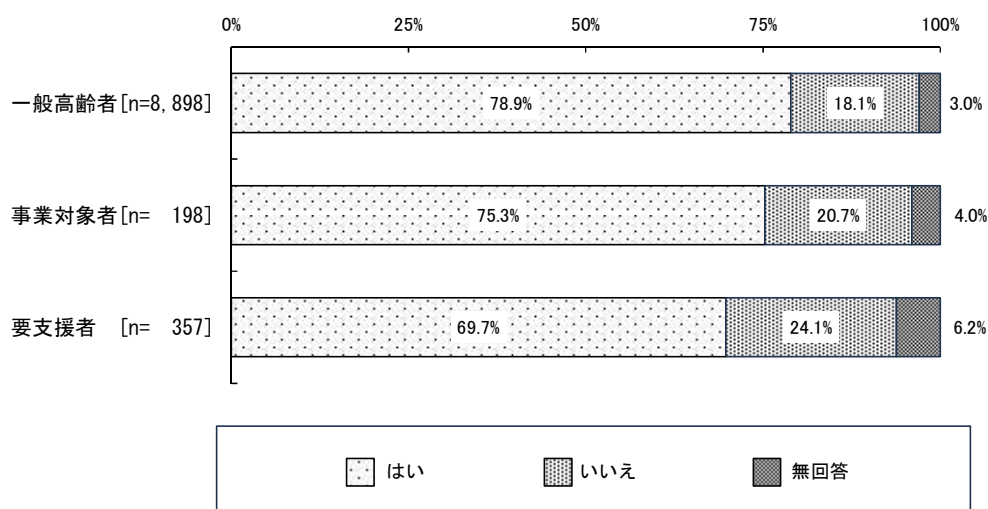
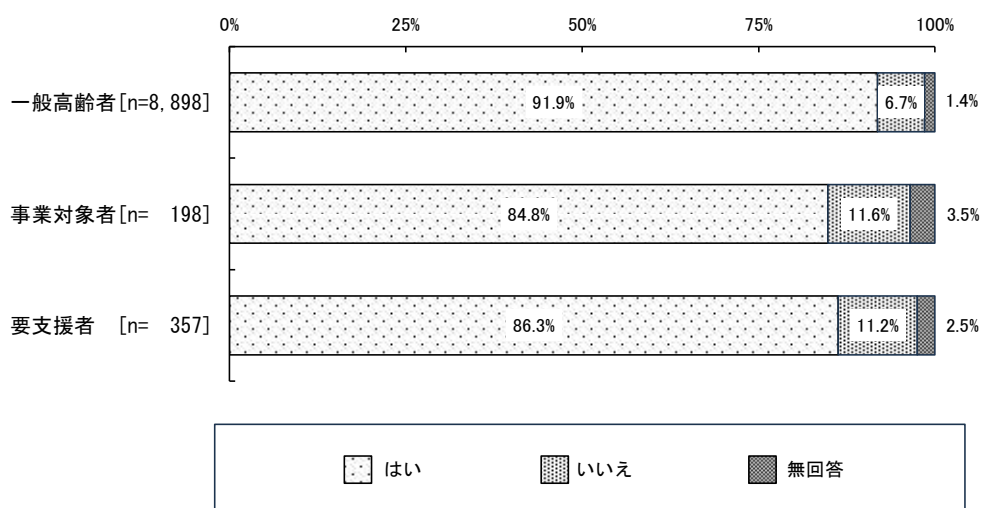


図4.24 歯磨きを毎日しているか<問3-(5)>



- 半年前に比べて固いものが食べにくくなった一般高齢者は 30.0%で、85 歳以上では約 5 割となっています。
- 事業対象者・要支援者では固いものが食べにくくなった方が 47.0%・48.7%と半数近くになっています。
- お茶や汁物等でむせることがある一般高齢者は 25.5%で、年齢階級別にみるとほぼ横ばいとなっています。
- 事業対象者・要支援者ではむせることがある方は 33.8%・39.8%となっています。

図4.25 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか<問3-(2)>

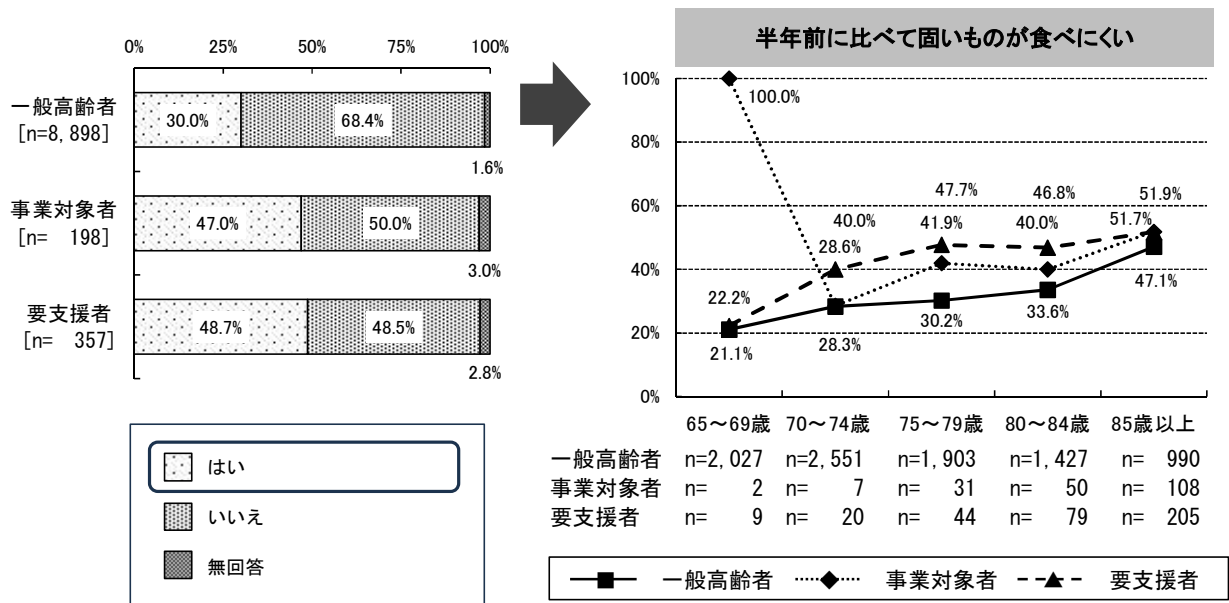
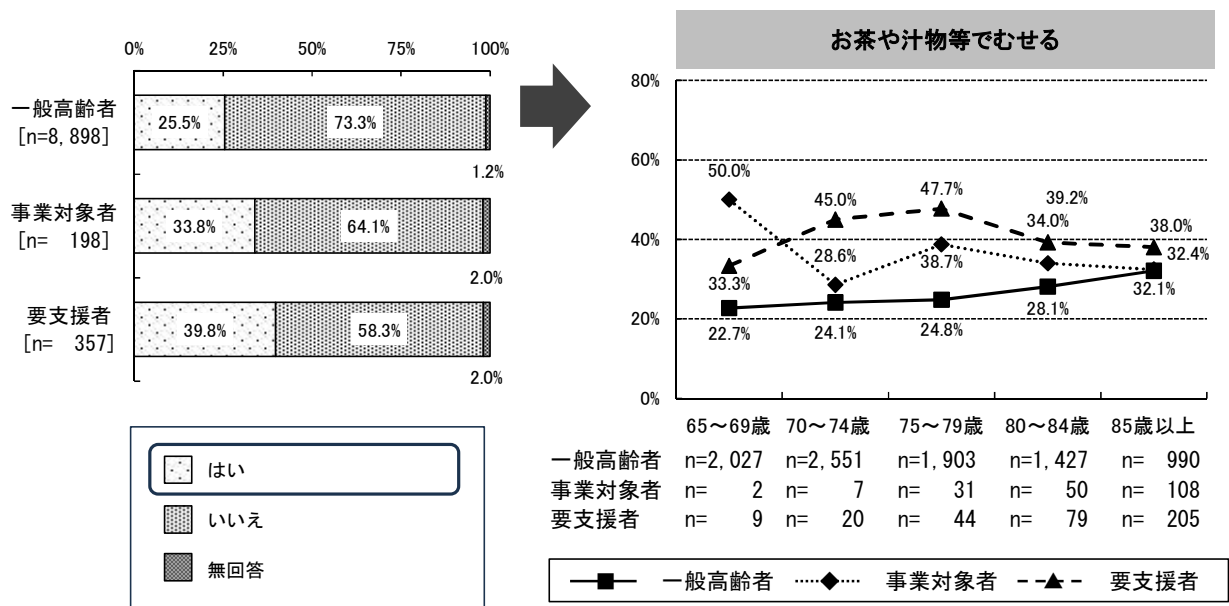
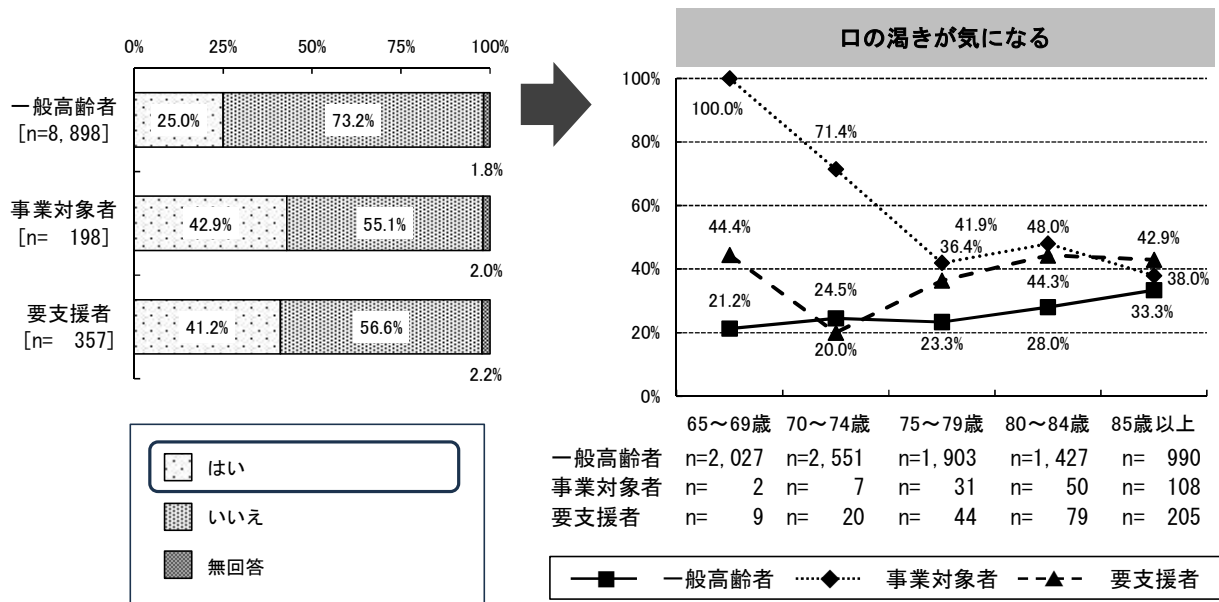


図4.26 お茶や汁物等でむせることがあるか<問3-(3)>



- 口の渇きが気になる一般高齢者は 25.0%で、各年齢階級で2～3割台となっています。
- 事業対象者・要支援者では気になる方が 42.9%・41.2%で、4割強の方が気になるという回答しています。

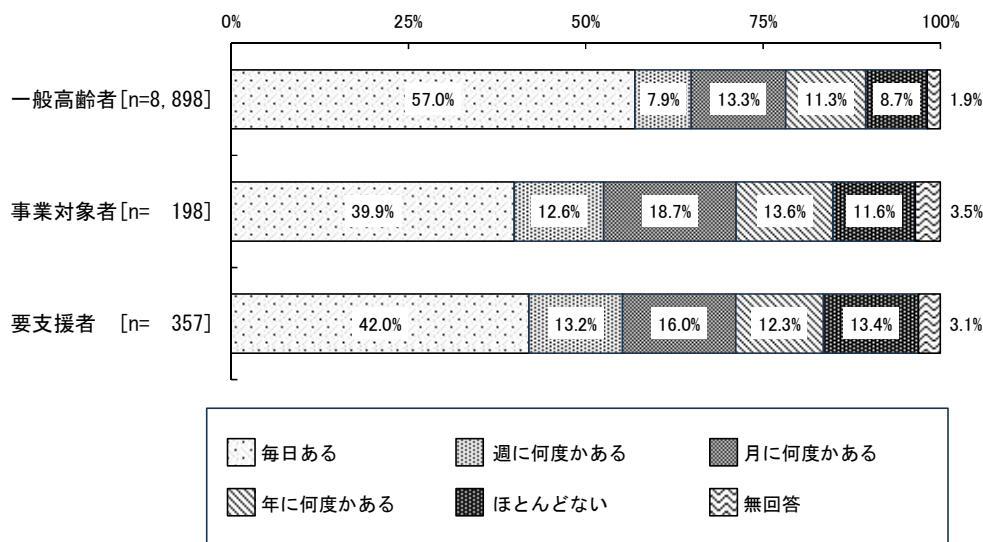
図4.27 口の渇きが気になるか<問3-(4)>



### (3) 食事の状況

- どなたかと食事をとる機会をみると、一般高齢者は「毎日ある」(57.0%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(13.3%)、「年に何度かある」(11.3%)となっています。
- 事業対象者は「毎日ある」(39.9%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(18.7%)、「年に何度かある」(13.6%)となっています。
- 要支援者は「毎日ある」(42.0%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(16.0%)、「ほとんどない」(13.4%)となっています。

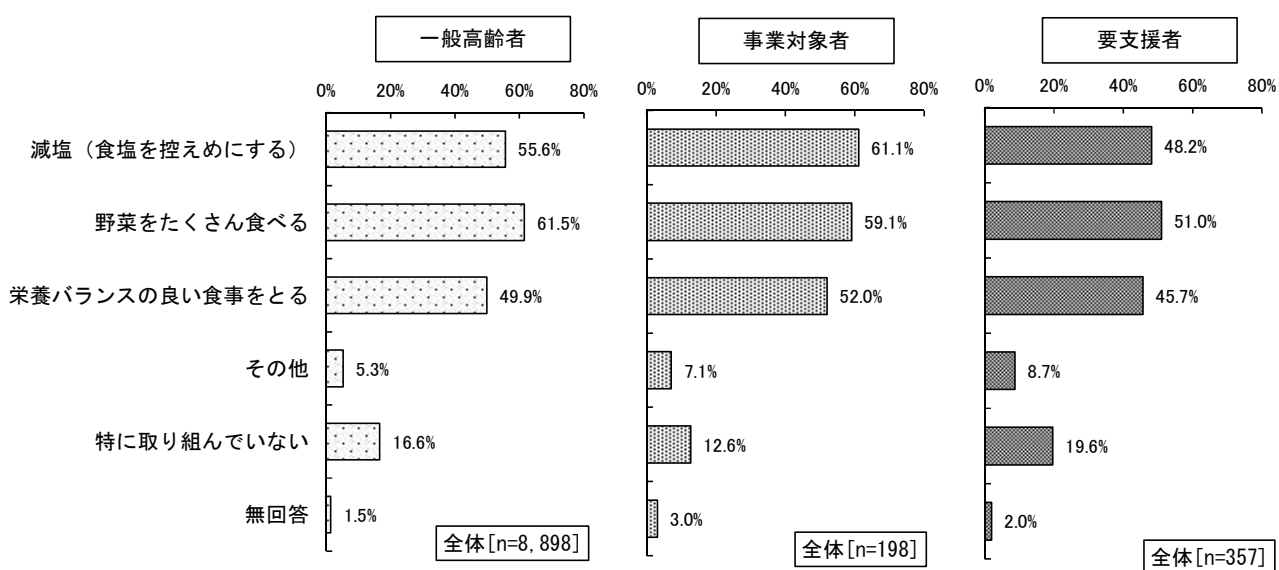
図4.28 どなたかと食事をとる機会<問3-(8)>



#### (4) 毎日の食事で取り組んでいること

- 毎日の食事で取り組んでいることをみると、一般高齢者は「野菜をたくさん食べる」(61.5%)が最も高く、次いで「減塩(食塩を控えめにする)」(55.6%)、「栄養バランスの良い食事をとる」(49.9%)となっています。
- 事業対象者は「減塩(食塩を控えめにする)」(61.1%)が最も高く、次いで「野菜をたくさん食べる」(59.1%)、「栄養バランスの良い食事をとる」(52.0%)となっています。
- 要支援者は「野菜をたくさん食べる」(51.0%)が最も高く、次いで「減塩(食塩を控えめにする)」(48.2%)、「栄養バランスの良い食事をとる」(45.7%)となっています。

図 4.29 毎日の食事で取り組んでいること<問 3-(9)>



## 4 毎日の生活について

### (1) IADL（手段的自立度）の状況

- バスや電車を使って1人で外出しているかをみると、一般高齢者は「できない」が6.6%で、該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が大きく上昇します。
- 一方、事業対象者・要支援者は「できない」が30.3%・53.2%となっており、前者を大きく上回っています。
- 1人での外出が困難な理由は、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「体力的に難しい」(58.3%・73.3%・80.5%)が最も高くなっています。

図4.29 バスや電車を使って1人で外出しているか<問4-(4)>

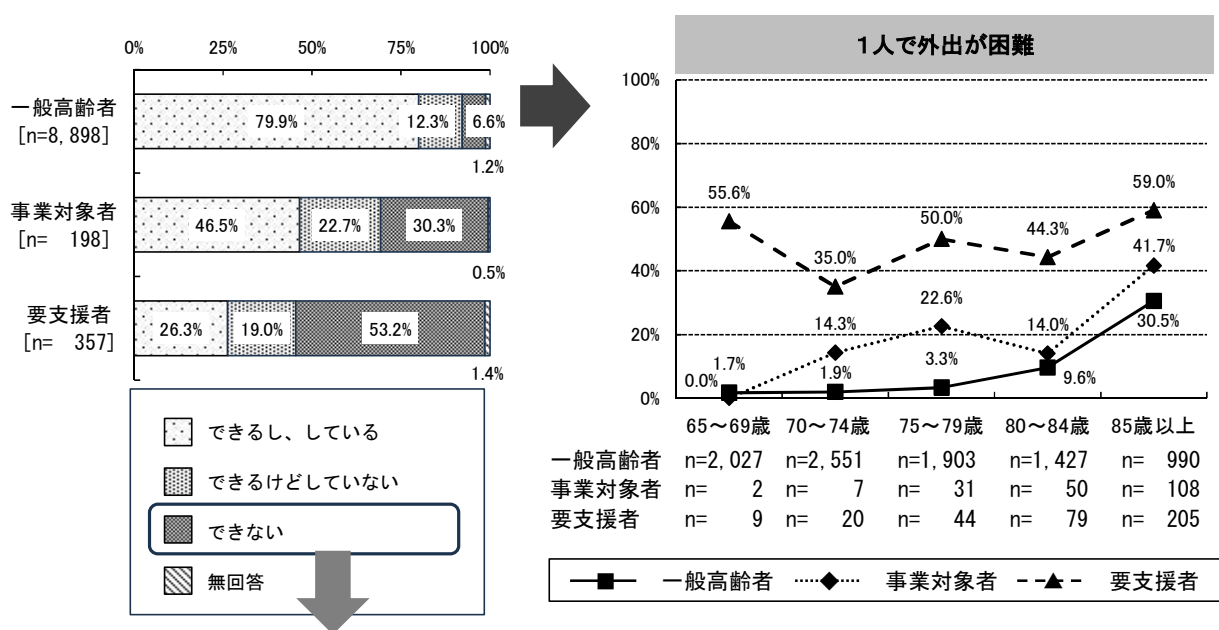
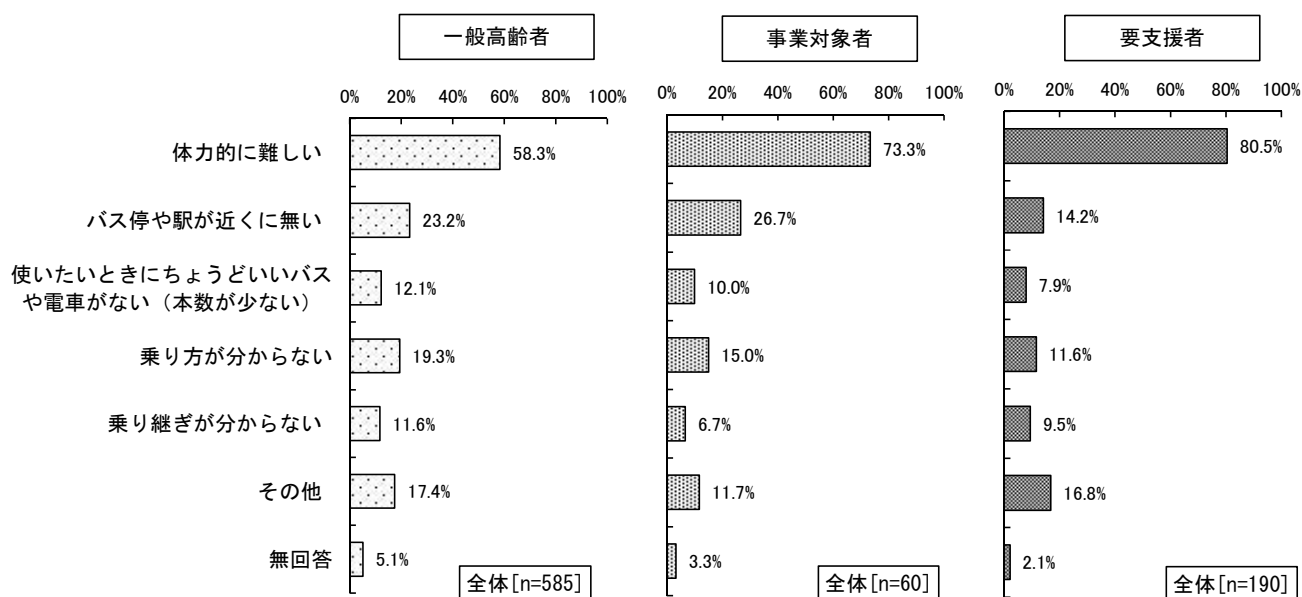


図4.30 1人での外出が困難な理由<問4-(4).①>



- 自分で食品・日用品の買物をしているかでは、一般高齢者は「できない」が3.9%で、該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が大きく上昇します。
- 一方、事業対象者・要支援者は「できない」が24.2%・38.7%となっており、前者を大きく上回っています。
- 食品や日用品の買物ができない理由をみると一般高齢者・要支援者は「買った物を持って帰るのが難しい」(39.9%・50.0%)、事業対象者は「店が近くにない」(39.6%)が最も高くなっています。

図4.31 自分で食品・日用品の買物をしているか<問4-(5)>

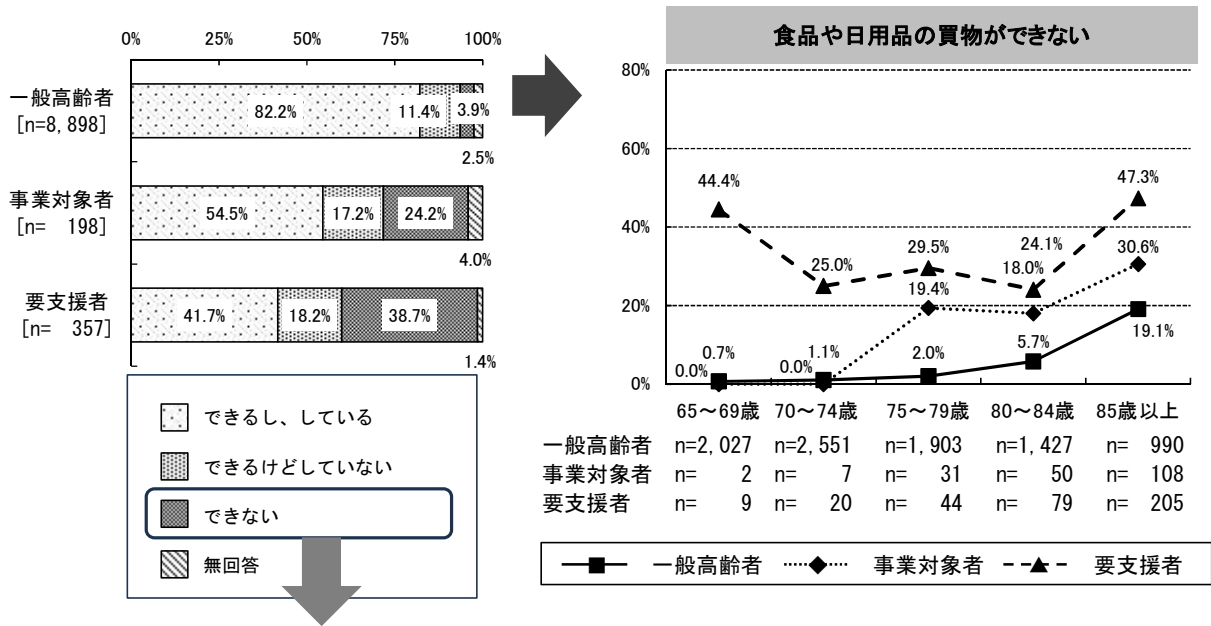
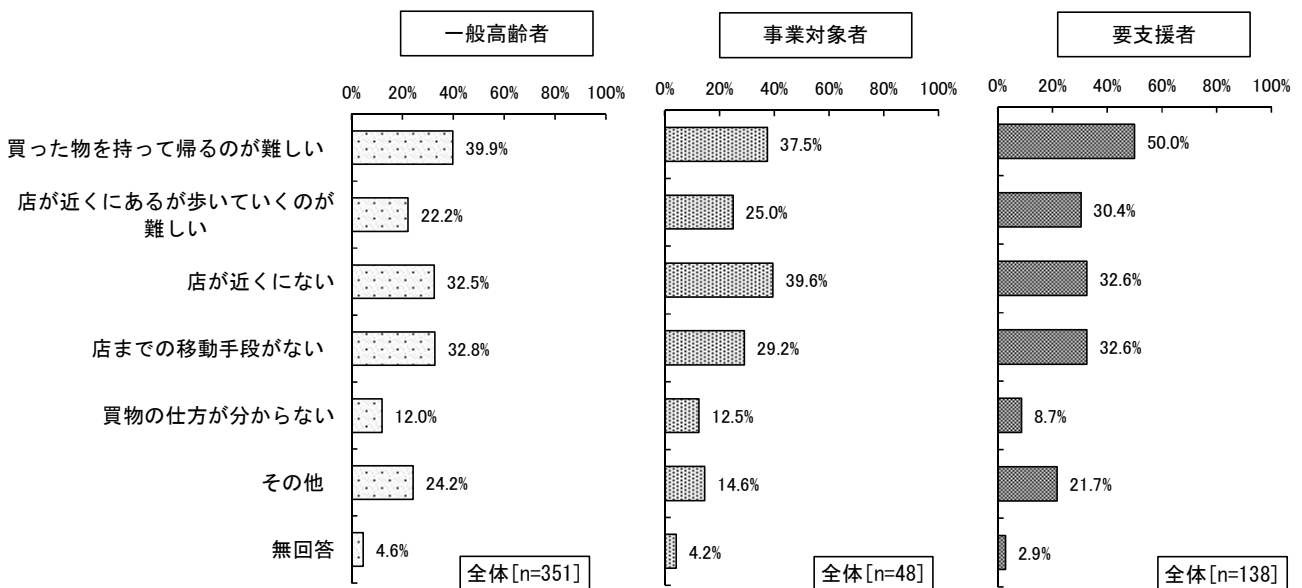
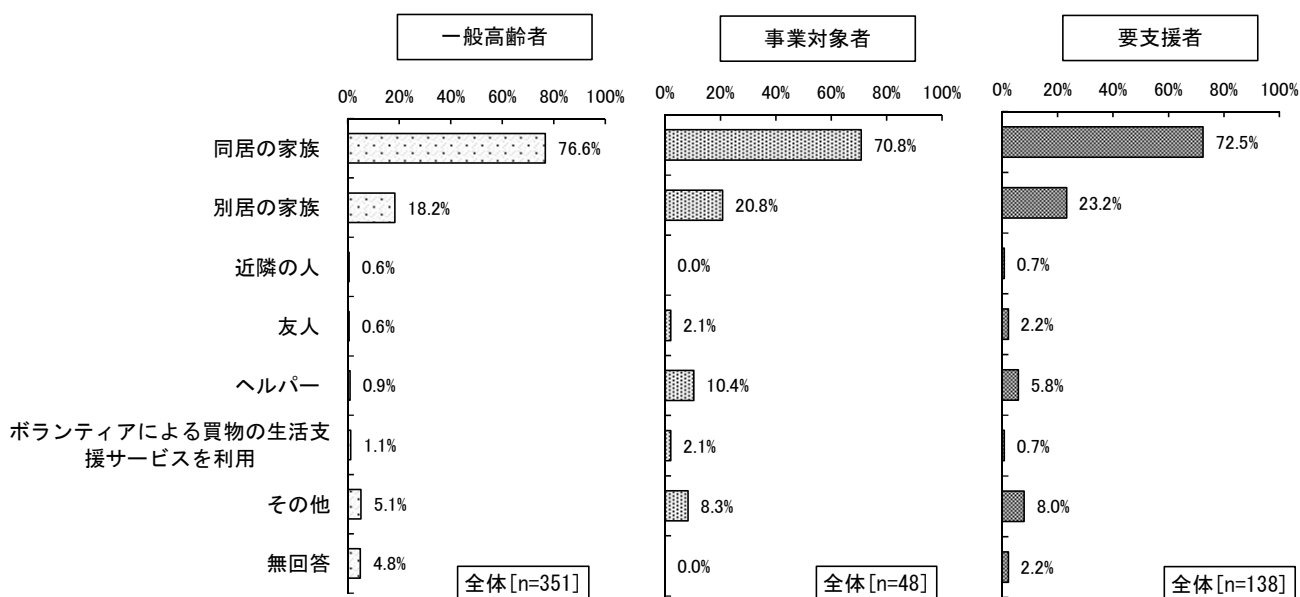


図4.32 食品や日用品の買物ができない理由<問4-(5). ①>



○主に食品・日用品の買い物をする人をみると一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」（76.6％・70.8％・72.5％）となっています。

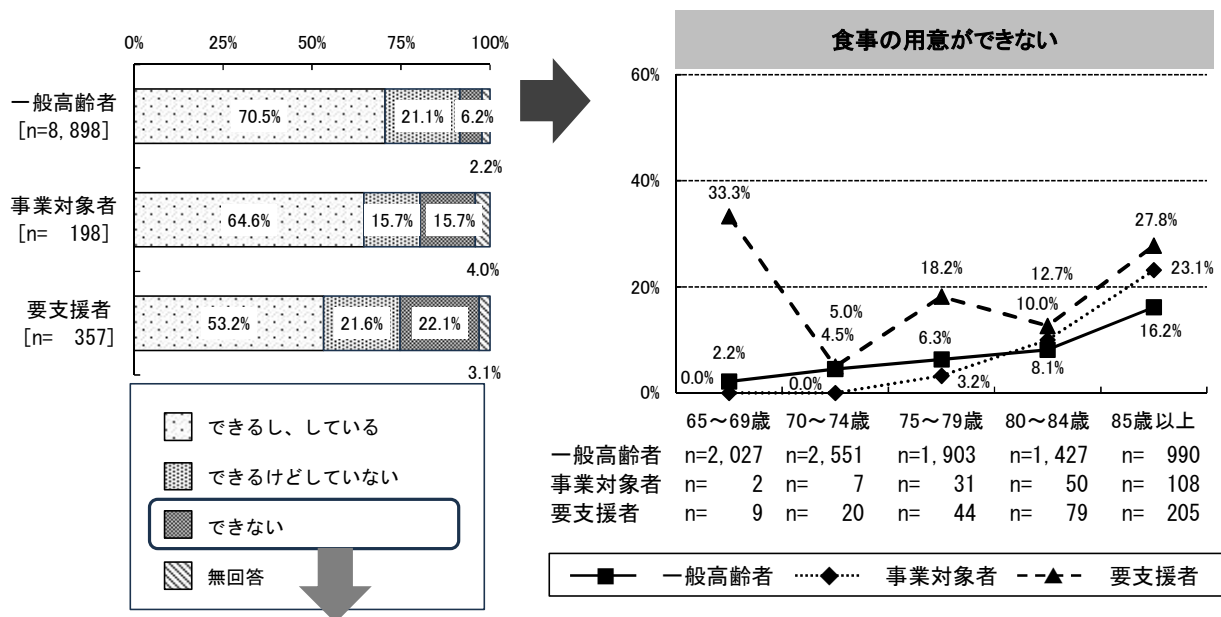
図4.33 主に食品・日用品の買い物をする人<問4-(5).②>



○自分で食事の用意をしているかでは、一般高齢者は「できない」が6.2％で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなる傾向にあります。

○一方、事業対象者・要支援者は「できない」が15.7％・22.1％となっており、前者を大きく上回っています。

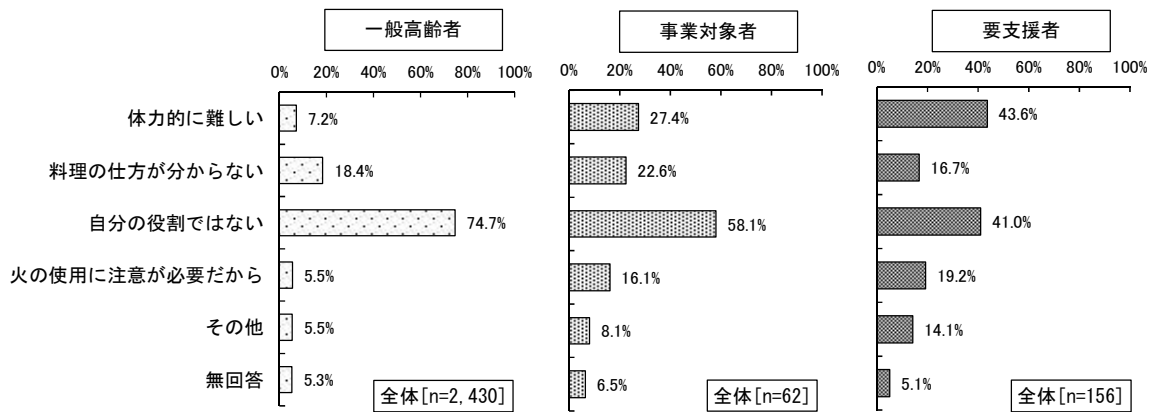
図4.34 自分で食事の用意をしているか<問4-(6)>



○食事の用意ができない理由をみると一般高齢者・事業対象者は「自分の役割ではない」（74.7％・58.1％）、事業対象者は「体力的に難しい」（43.6％）となっています。

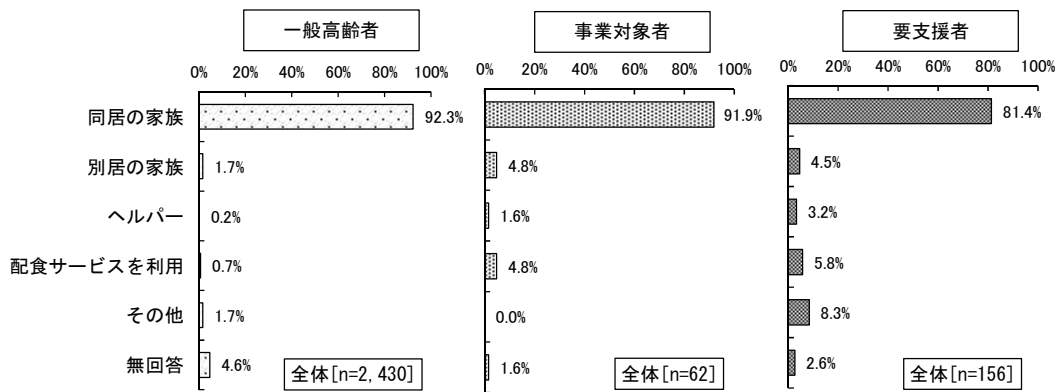


図4.35 食事の用意ができない理由<問4-(6).①>



○主に食事の用意をする人をみると一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」(92.3%・91.9%・81.4%)となっています。

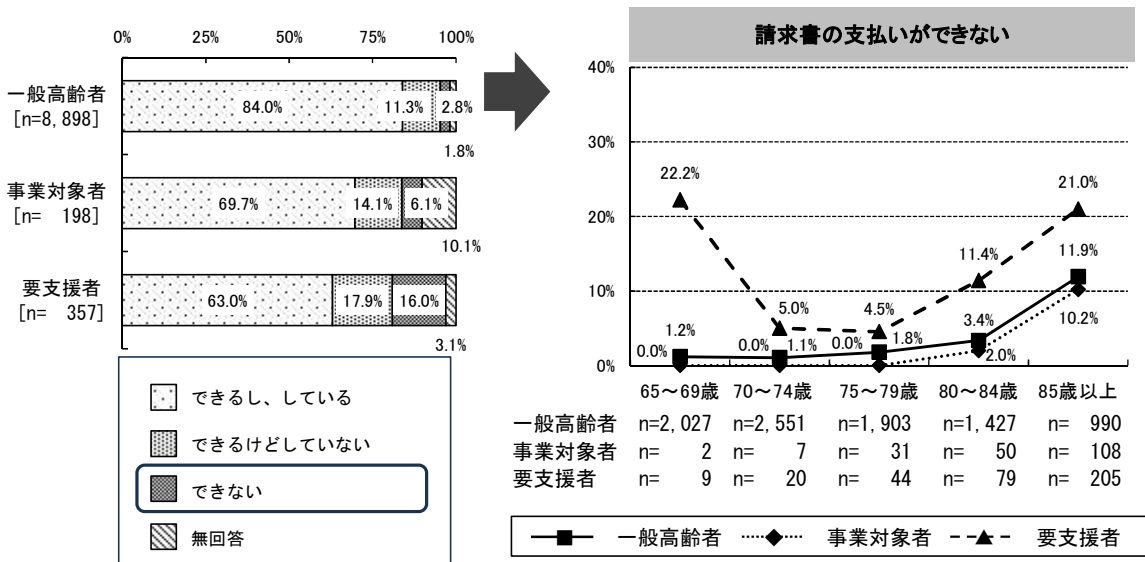
図4.36 主に食事の用意をする人<問4-(6).②>



○自分で請求書の支払いをしているかでは、一般高齢者は「できない」が2.8%で、該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が上昇します。

○一方、事業対象者・要支援者は「できない」が6.1%・16.0%となっており、前者を大きく上回っています。

図4.37 自分で請求書の支払いをしているか<問4-(7)>





- 自分で預貯金の出し入れをしているかでは、一般高齢者は「できない」が3.3%で、該当者を年齢階級別にみると85歳以上で割合が上昇します。
- 一方、事業対象者・要支援者は「できない」が10.1%・20.7%となっており、前者を大きく上回っています。
- 預貯金の出し入れができない理由をみると一般高齢者・事業対象者は「預貯金の出し入れ方が分からない」（47.6%・55.0%）、要支援者は「体力的に難しい」（59.5%）となっています。
- 主に預貯金の出し入れをする人をみると一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」（86.1%・80.0%・74.3%）となっています。

図4.38 自分で預貯金の出し入れをしているか<問4-(8)>

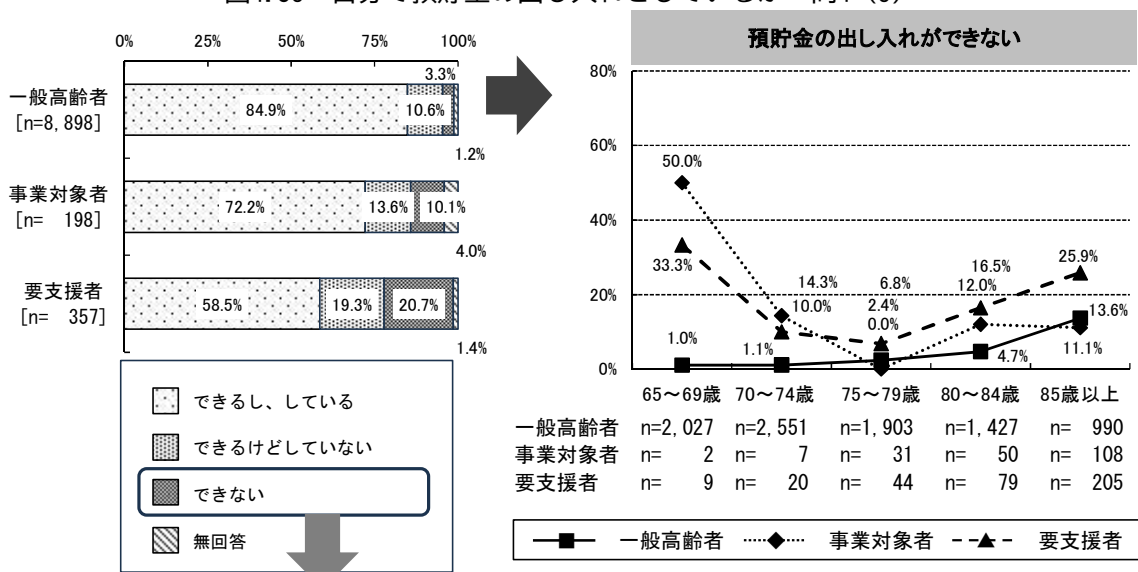


図4.39 預貯金の出し入れができない理由<問4-(8).①>

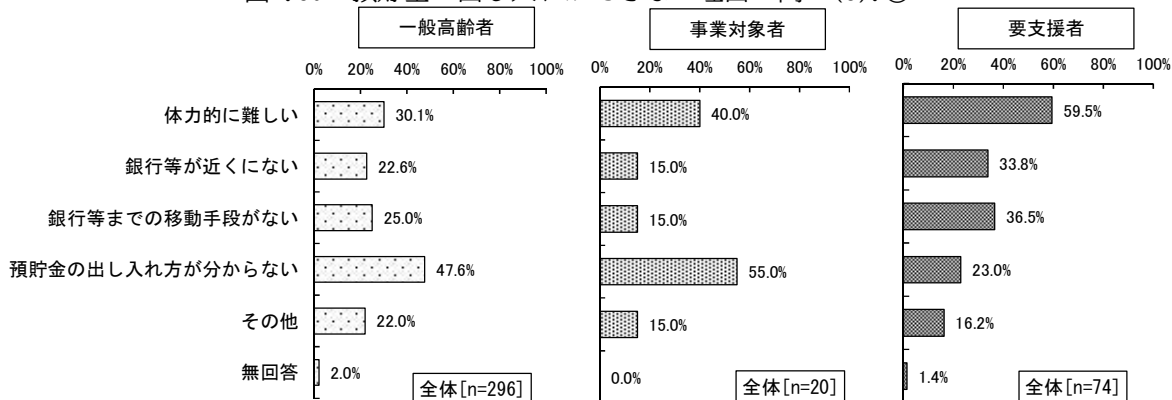
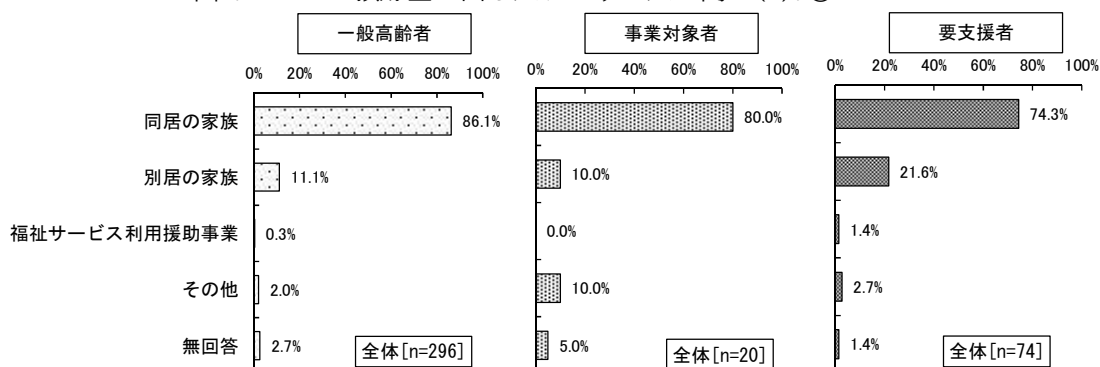


図4.40 主に預貯金の出し入れをする人<問4-(8).②>

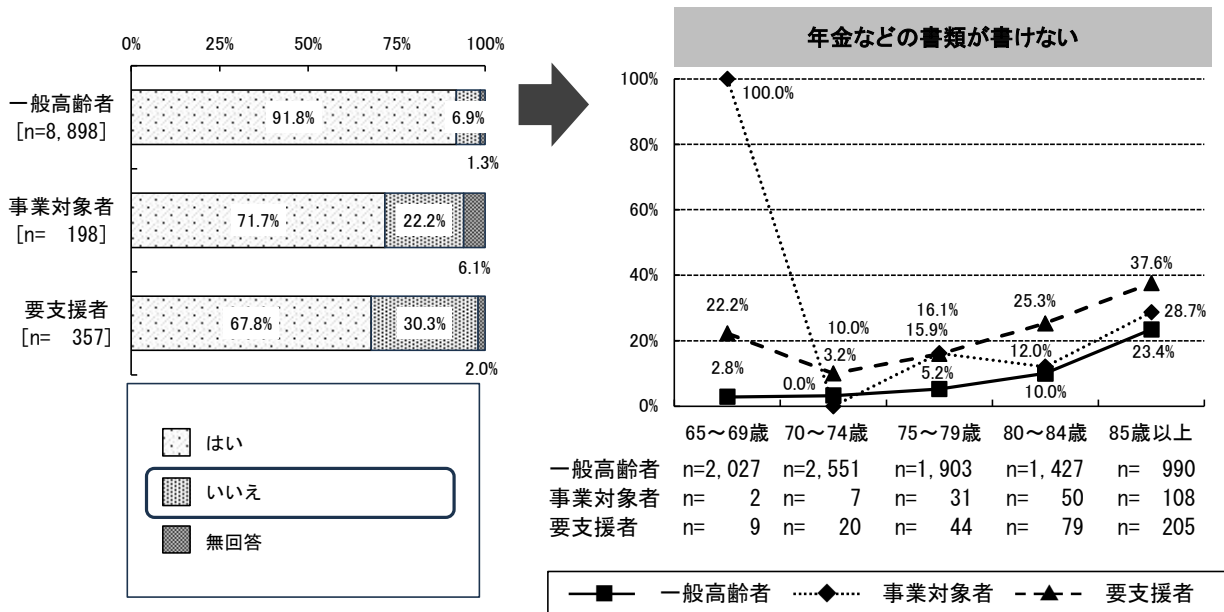


## (2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けるかでは、一般高齢者は「いいえ」が6.9%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が22.2%・30.3%となっており、前者を上回っています。

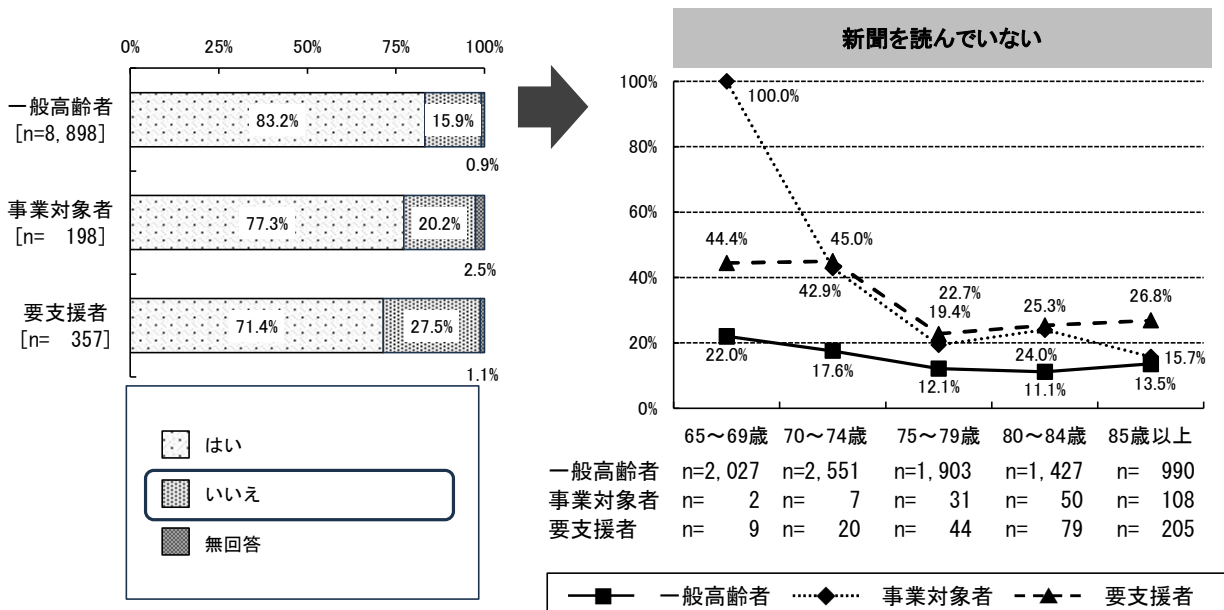
図4.42 年金などの書類が書けるか<問4-(9)>



○新聞を読んでいるかでは、一般高齢者は「いいえ」が15.9%で、該当者を年齢階級別にみるとほぼ横ばいとなっています。

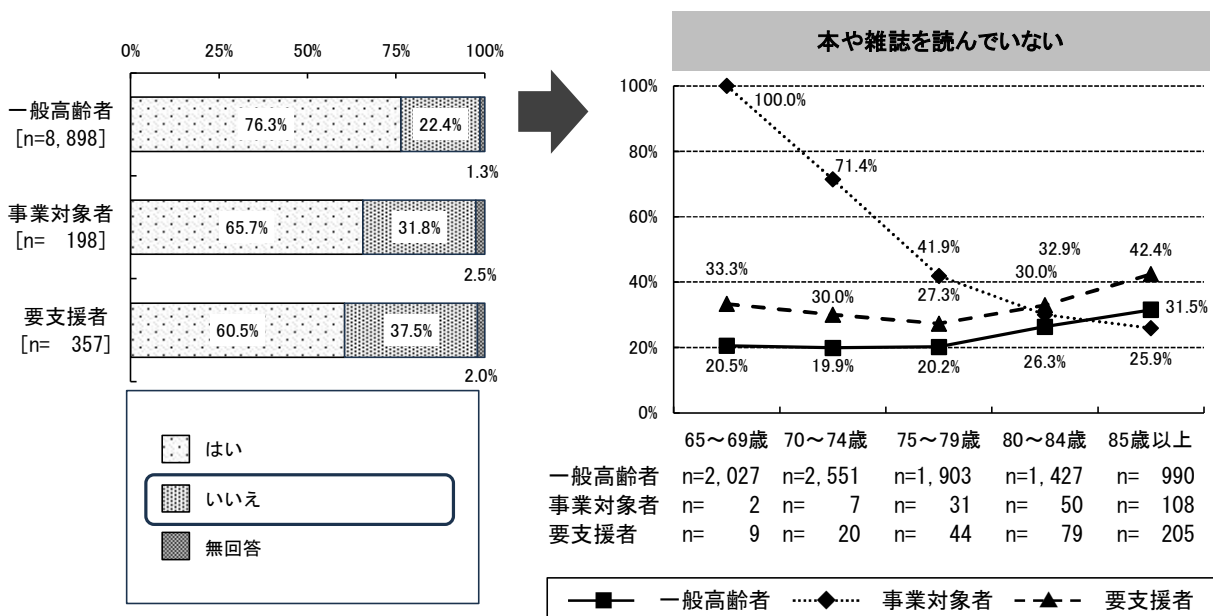
○一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が20.2%・27.5%となっており、前者を上回っています。

図4.43 新聞を読んでいるか<問4-(10)>



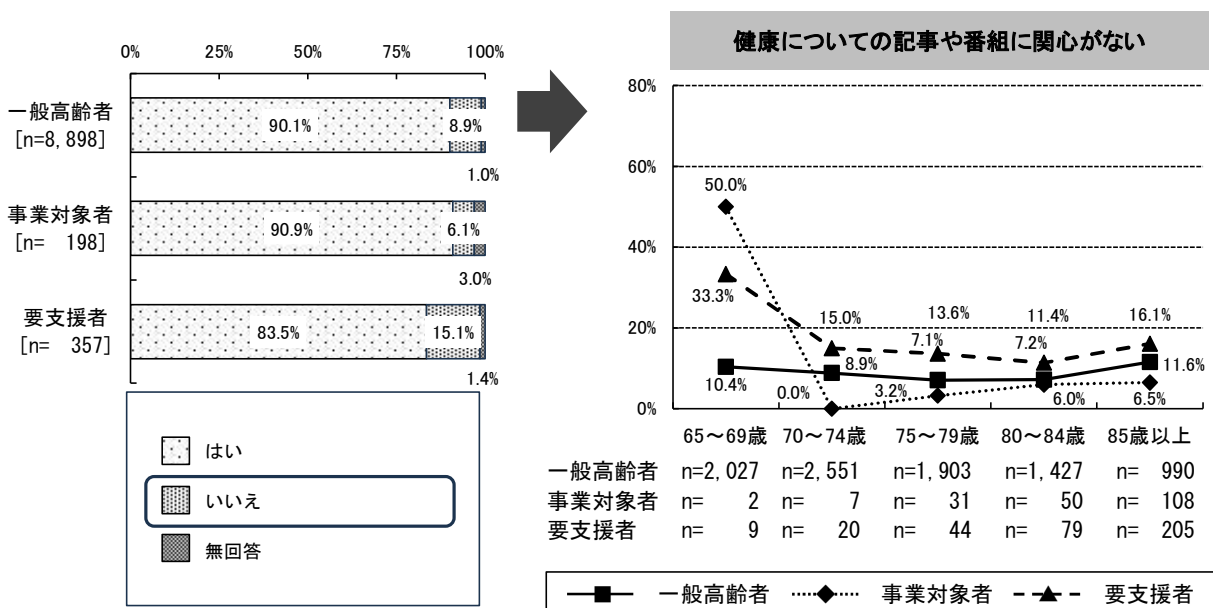
- 本や雑誌を読んでいるかをみると、一般高齢者は「いいえ」が 22.4%で、その該当者を年齢階級別にみると加齢とともにわずかながら割合が高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が 31.8%・37.5%となっており、前者を上回っています。

図4.44 本や雑誌を読んでいるか<問4-(11)>



- 健康についての記事や番組に関心があるかでは、一般高齢者は「いいえ」が 8.9%、その該当者を年齢階級別にみると全ての年齢階級で関心が低い状況です。
- 一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が 6.1%・15.1%となっており、要支援者は前者を上回っています。

図4.45 健康についての記事や番組に関心があるか<問4-(12)>

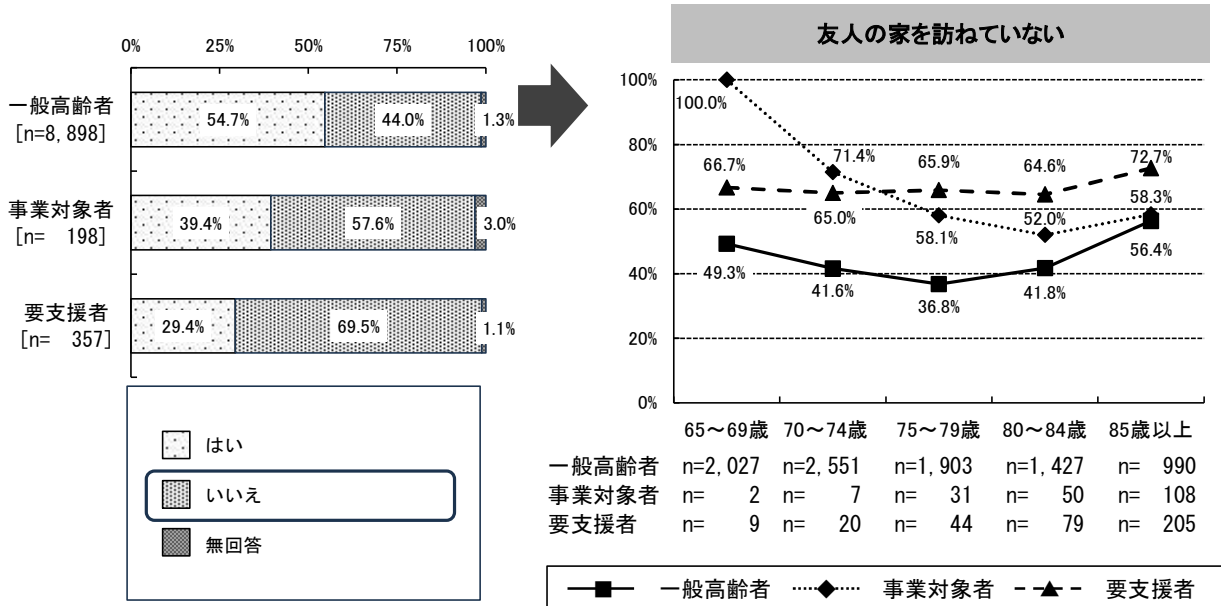


### (3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねているかでは、一般高齢者は「いいえ」が44.0%となっています。

○一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が57.6%・69.5%となっており、前者を上回っています。

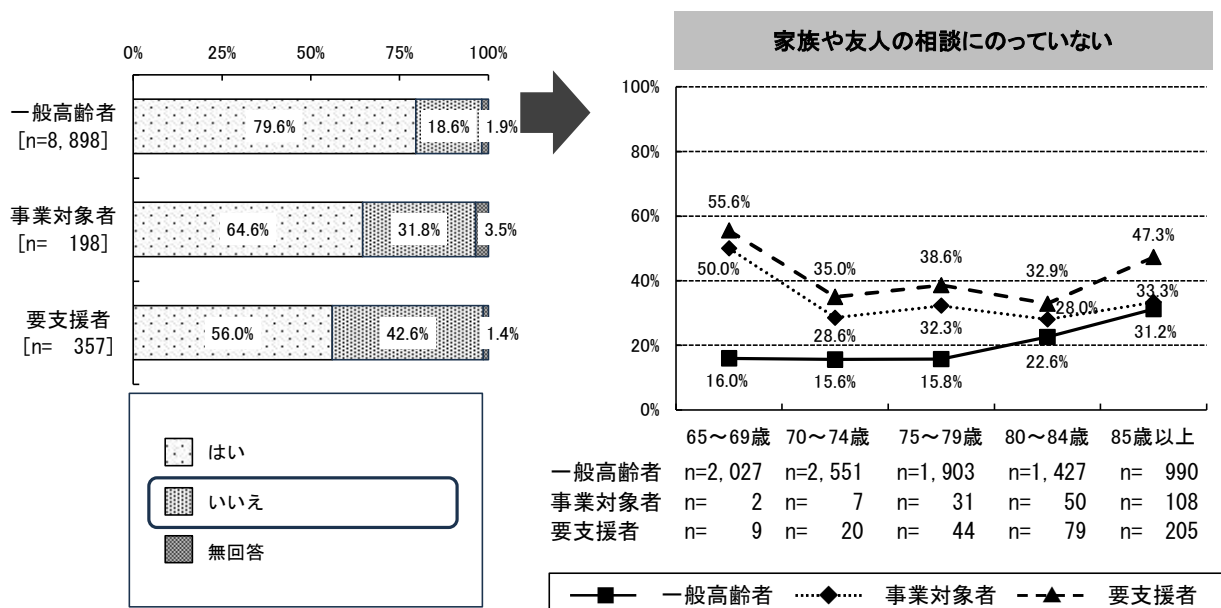
図4.46 友人の家を訪ねているか<問4-(13)>



○家族や友人の相談にのっているかでは、一般高齢者は「いいえ」が18.6%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

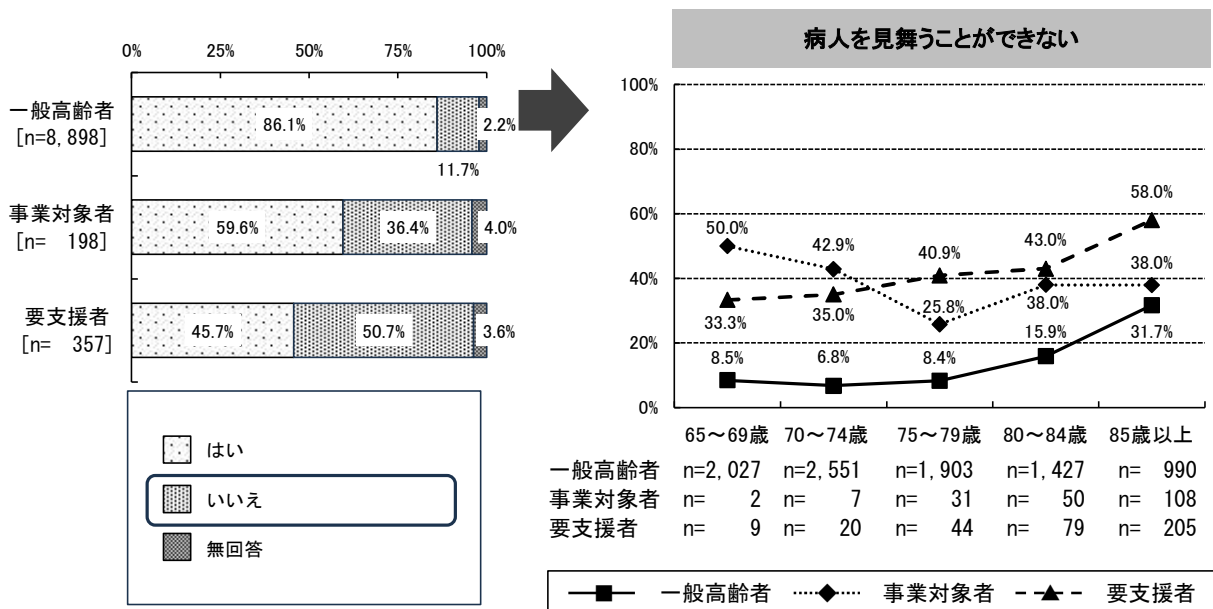
○一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が31.8%・42.6%となっており、前者を上回っています。

図4.47 家族や友人の相談にのっているか<問4-(14)>



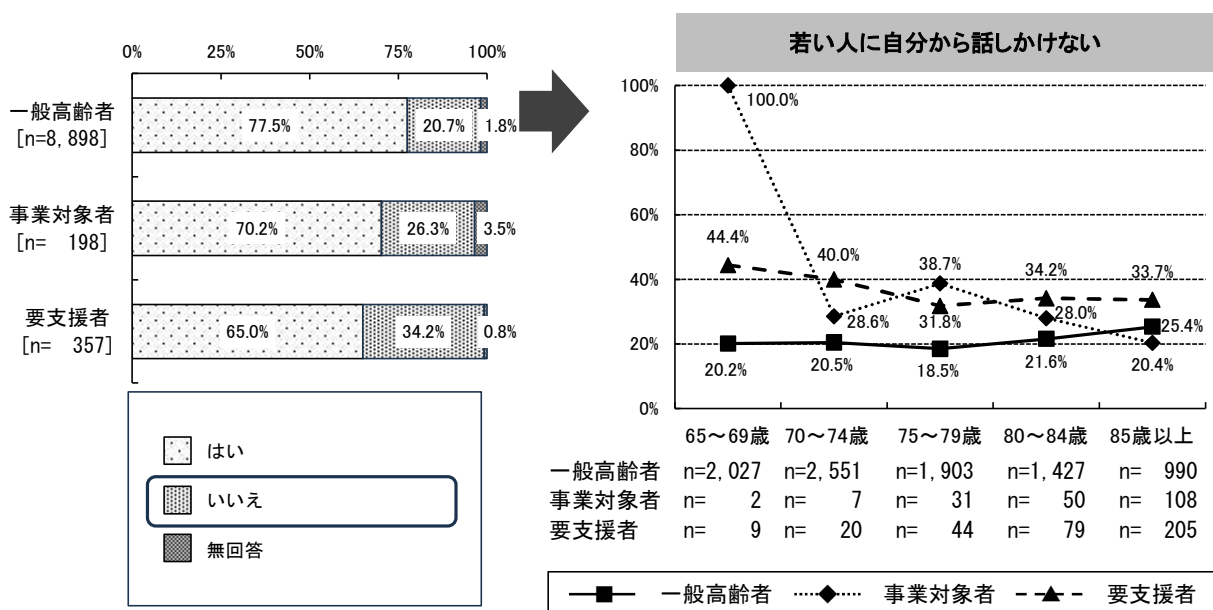
- 病人を見舞うことができるかでは、一般高齢者は「いいえ」が 11.7%で、該当者を年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が 36.4%・50.7%となっており、前者を大きく上回っています。

図4.48 病人を見舞うことができるか<問4-(15)>



- 若い人に自分から話しかけることはあるかでは、一般高齢者は「いいえ」が 20.7%で、該当者を年齢階級別にみるとほぼ横ばいとなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が 26.3%・34.2%となっており、前者を上回っています。

図4.49 若い人に自分から話しかけることはあるか<問4-(16)>



#### (4) 生きがいについて

○趣味の有無では、一般高齢者は74.0%、事業対象者は60.1%、要支援者は53.2%が「ある」と回答しています。

○生きがいの有無では、一般高齢者は61.1%、事業対象者は50.0%、要支援者は45.9%が「ある」と回答しています。また、要支援者の48.5%が「思いつかない」と回答しています。

図4.50 趣味はあるか<問4-(17)>

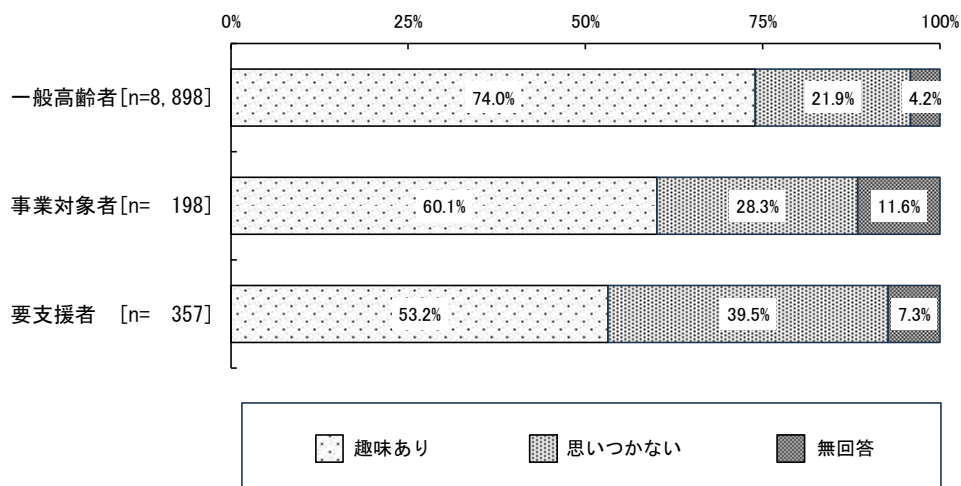
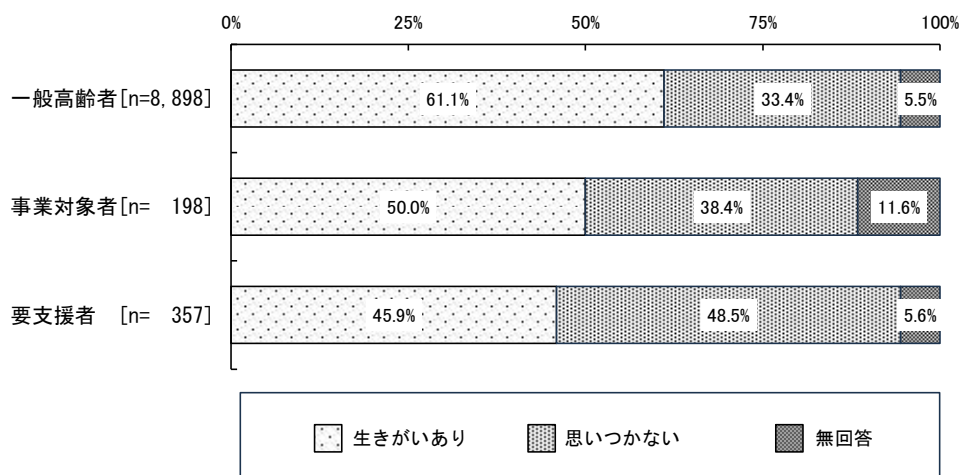


図4.51 生きがいはあるか<問4-(18)>

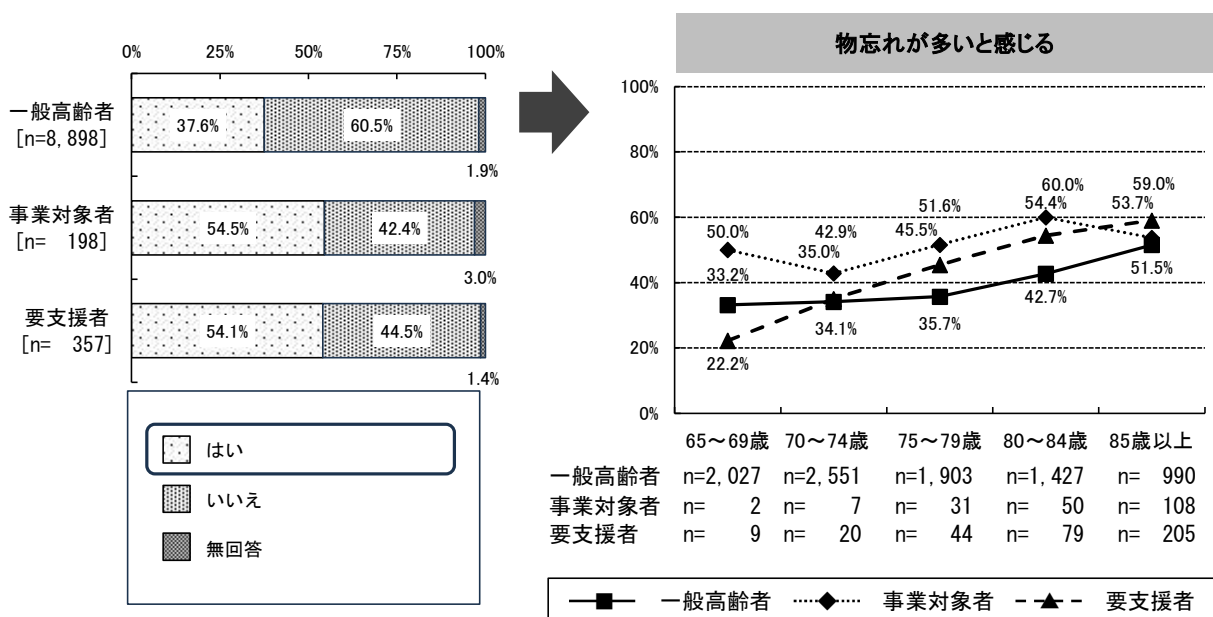




### (5) 物忘れの状況

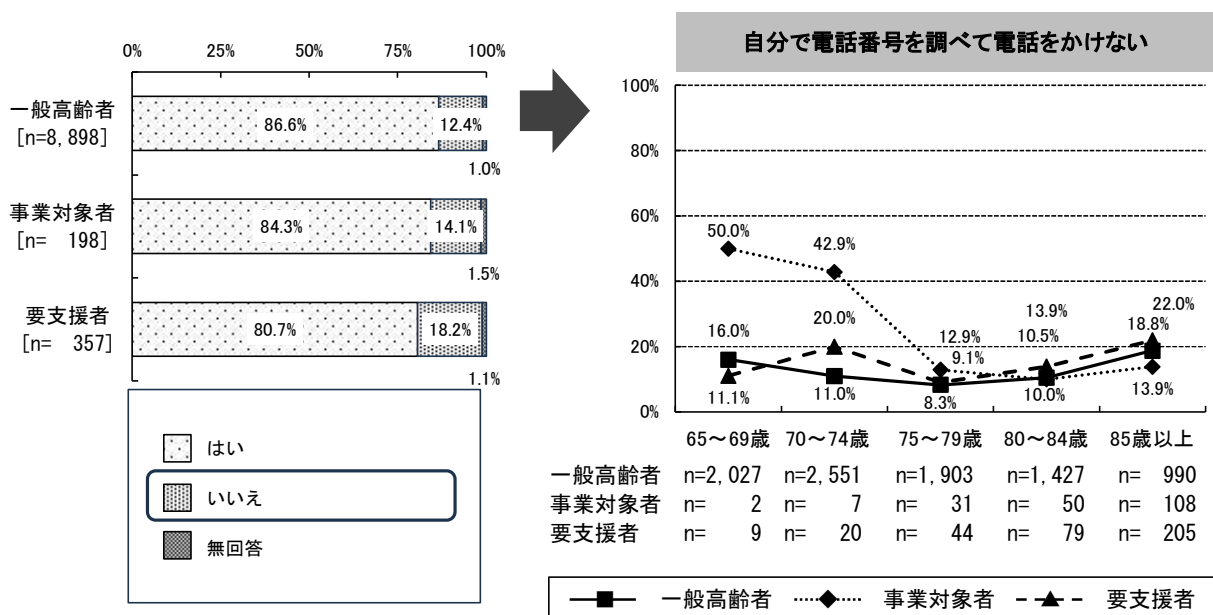
- 物忘れが多いと感じるかでは、一般高齢者は 37.6%が感じており、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は 54.5%・54.1%と半数以上の方が感じており、前者を上回っています。

図4.52 物忘れが多いと感じるか<問4-(1)>



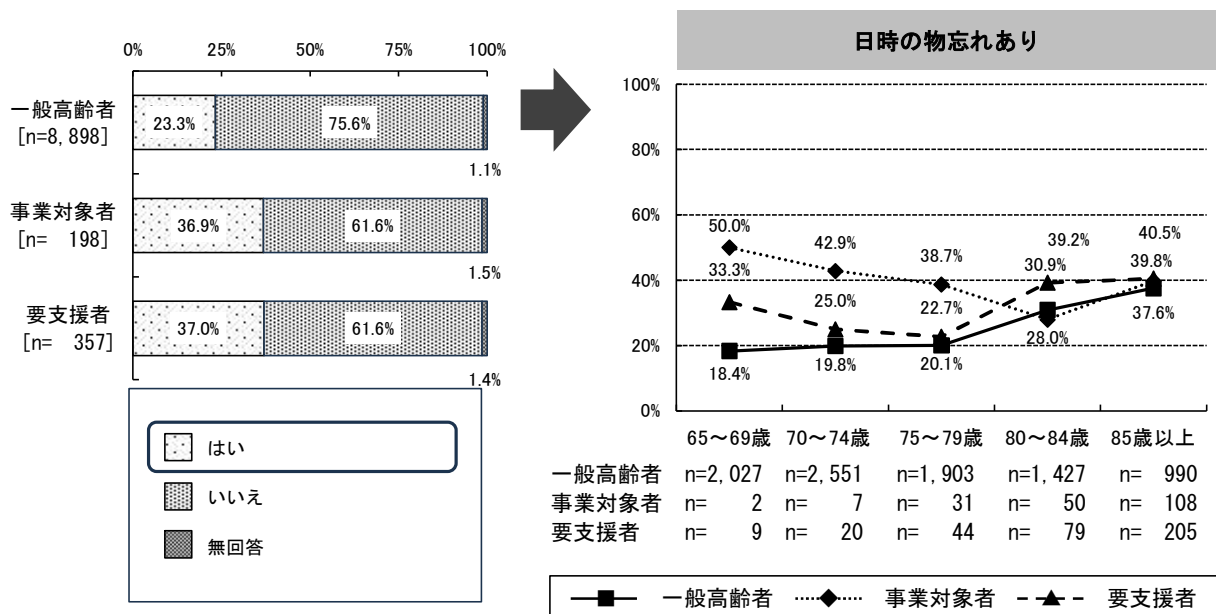
- 自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、一般高齢者は「いいえ」が 12.4%で、該当者を年齢階級別にみると 85 歳以上で割合がやや高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は「いいえ」が 14.1%・18.2%となっており、前者をわずかに上回っています。

図4.53 自分で電話番号を調べて電話をかけるか<問4-(2)>



- 今日が何月何日かわからない時があるかでは、一般高齢者は「はい」が 23.3%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が徐々に高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は 36.9%・37.0%で、前者を上回っています。

図4.54 今日が何月何日かわからない時があるか<問4-(3)>





(6) その他の生活状況

- 雪かきができるかでは、一般高齢者は「いいえ」が17.9%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が徐々に高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は58.1%・73.4%で、前者を大きく上回っています。
- 主に雪かきをする人をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」（74.7%・64.3%・61.8%）となっています。

図4.55 雪かきができるか<問4-(19)>

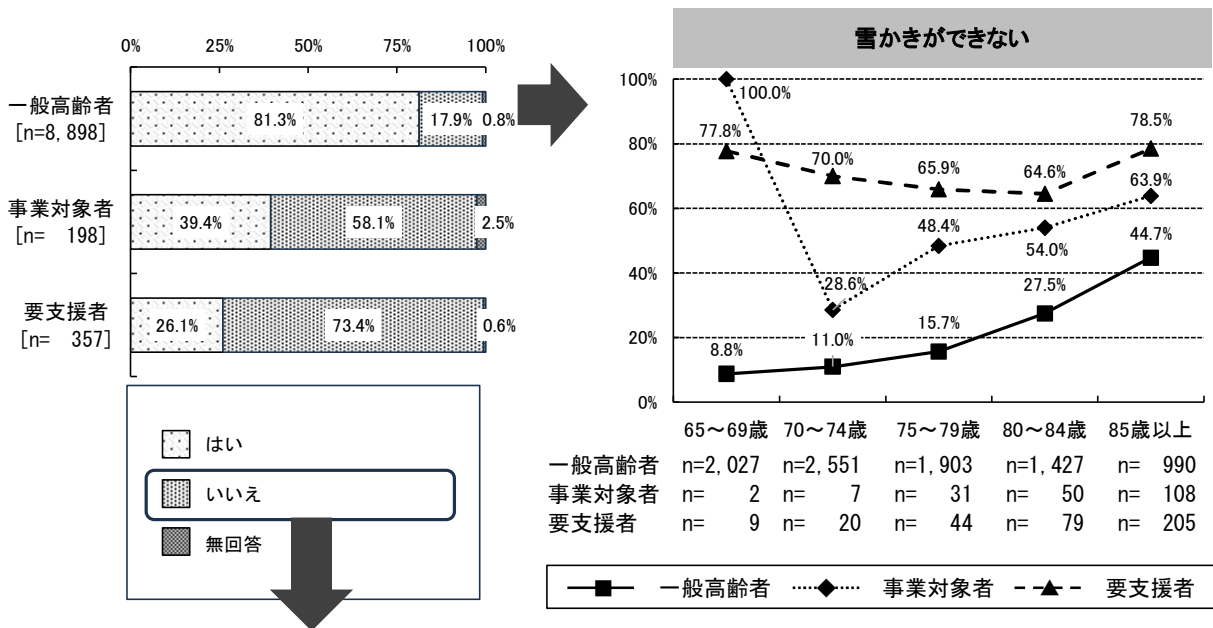
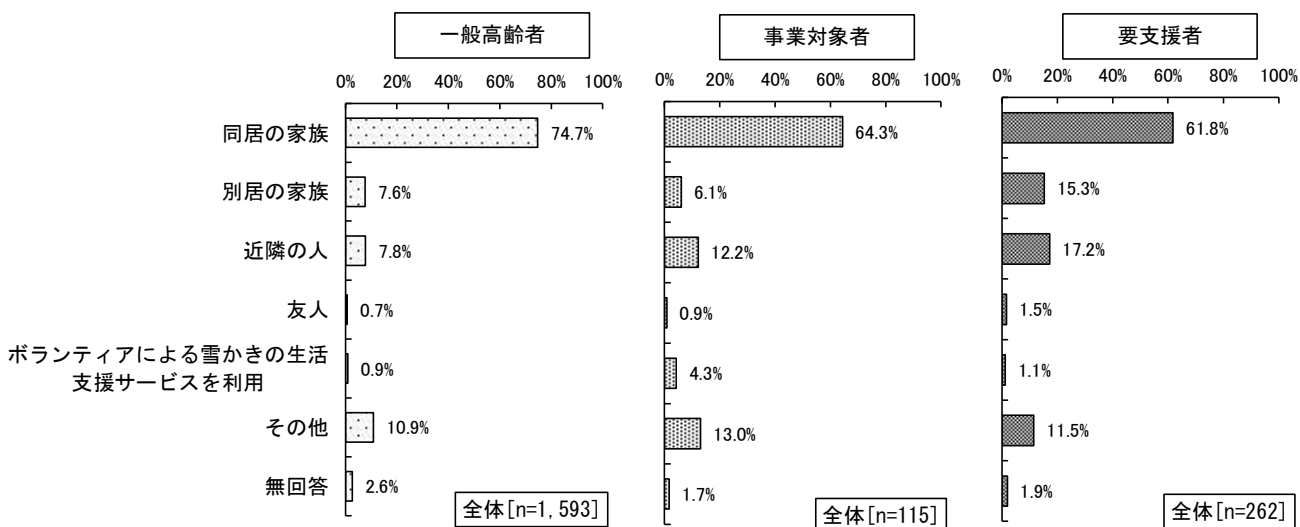


図4.56 主に雪かきをする人<問4-(19).①>



- ゴミ出しができるかでは、一般高齢者は「いいえ」が 14.5%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が徐々に高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は 36.9%・58.3%で、前者を大きく上回っています。
- 主にゴミ出しをする人をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」(94.2%・87.7%・78.4%)となっています。

図4.57 ゴミ出しができるか<問4-(20)>

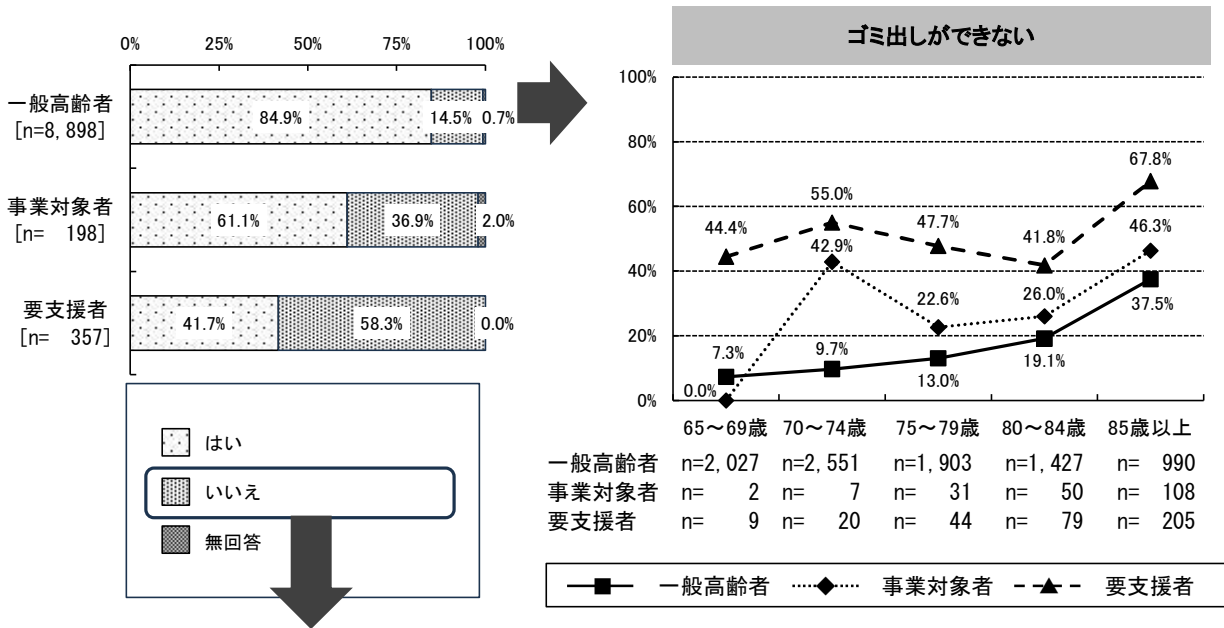
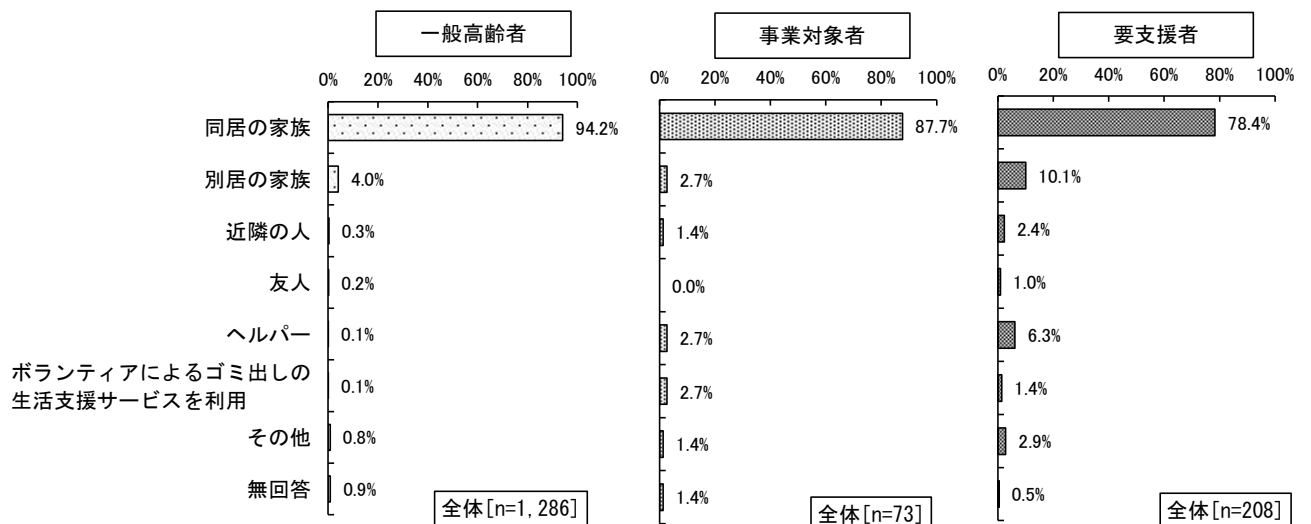


図4.58 主にゴミ出しをする人<問4-(20).①>



- 掃除ができるかでは、一般高齢者は「いいえ」が9.4%で、該当者を年齢階級別にみると加齢とともに割合が徐々に高くなっています。
- 一方、事業対象者・要支援者は26.3%・42.6%で、前者を大きく上回っています。
- 主に掃除をする人をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「同居の家族」（88.5%・67.3%・65.8%）が最も高くとなっています。
- 事業対象者・要支援者では「ヘルパー」（25.0%・21.1%）も高くなっています。

図4.59 掃除ができるか<問4-(21)>

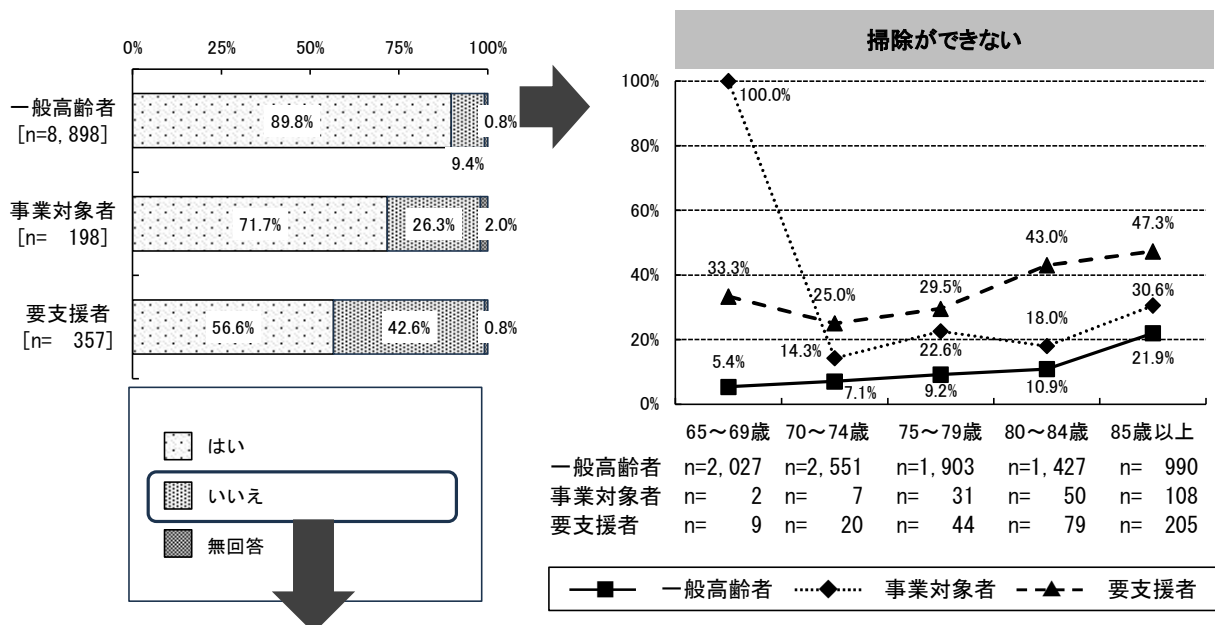
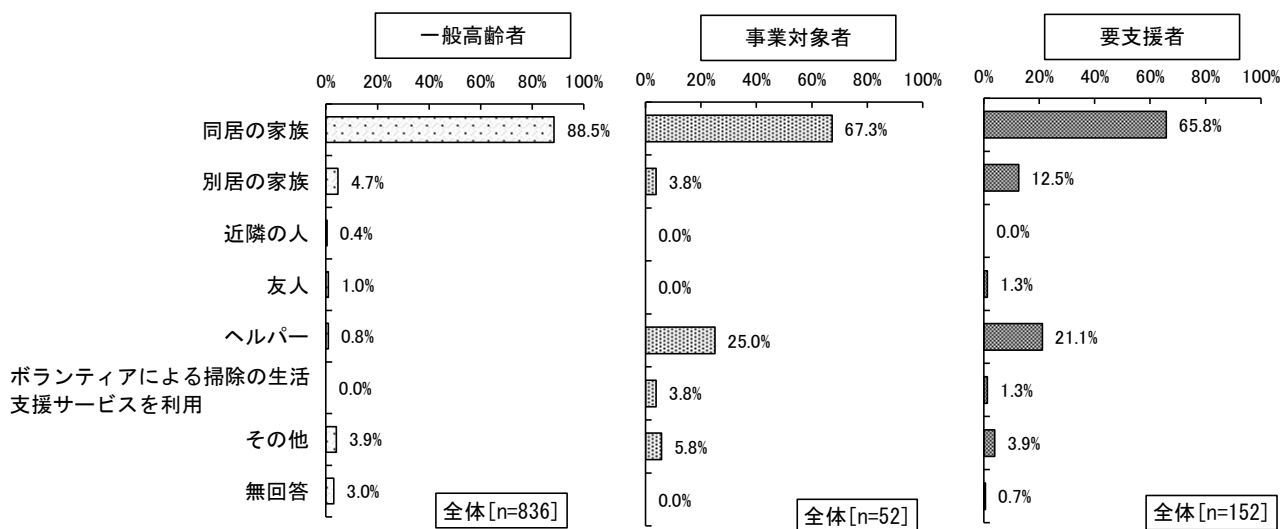


図4.60 主に掃除をする人<問4-(21).①>



○インターネットの利用有無では、一般高齢者は51.3%、事業対象者は15.2%、要支援者は17.1%が「利用している」と回答しています。

○インターネットの利用目的では、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「情報検索」(83.5%・50.0%・65.6%)、「LINE (ライン) の利用」(71.7%・53.3%・60.7%)、「電子メールの送受信」(61.5%・33.3%・50.8%)、が高くなっています。

図4.61 インターネットの利用有無<問4-(22)>

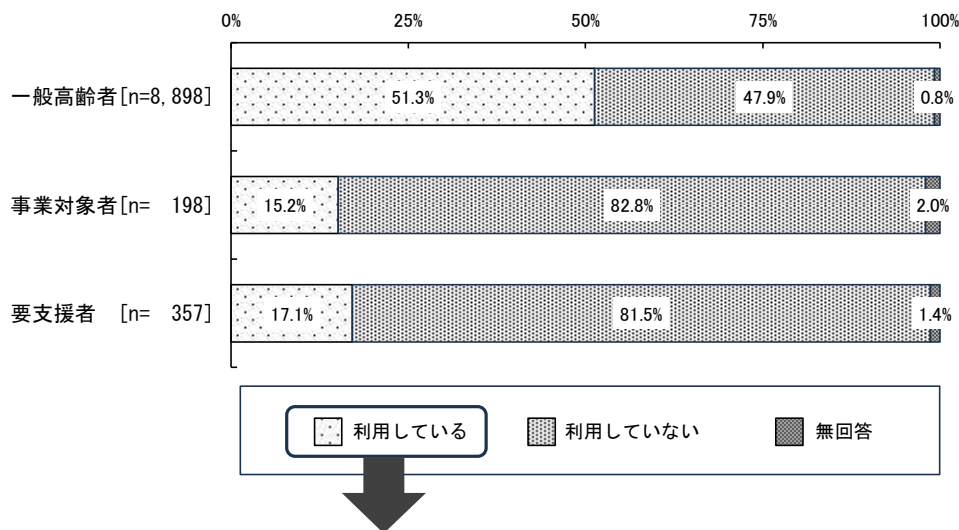
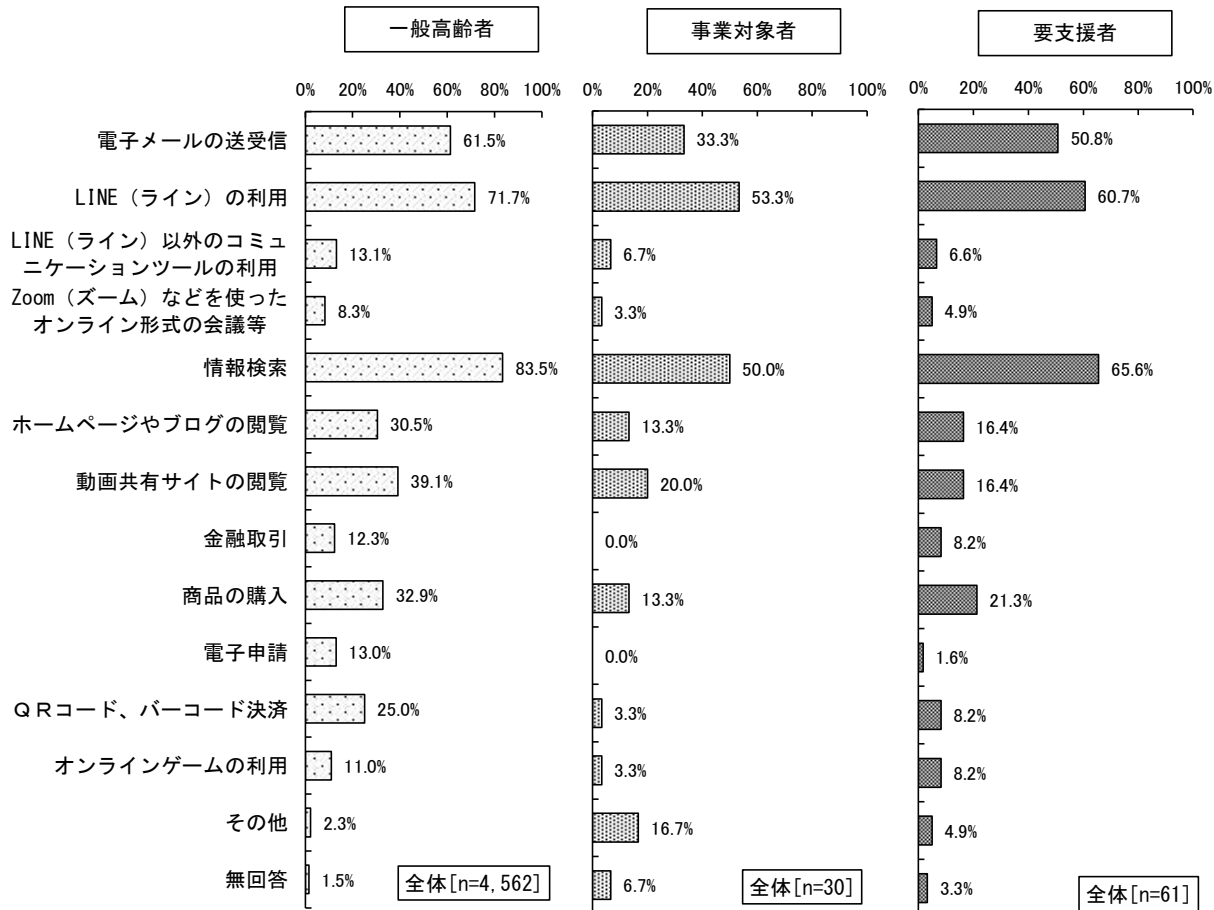


図4.62 インターネットの利用目的<問4-(22).①>



○自動車の運転免許証保持の有無では、一般高齢者は73.8%、事業対象者は23.7%、要支援者は18.2%が「持っている」と回答しています。

○免許返納をした場合の困りごとをみると、一般高齢者は「食品や日用品の買物」（85.7%）が最も高く、次いで「病院への通院」（79.3%）、「友人・親戚等との交流」（68.0%）となっており、事業対象者は「食品や日用品の買物」（85.1%）が最も高く、次いで「病院への通院」（78.7%）、「衣料品などの買物」（66.0%）となっています。要支援者は「食品や日用品の買物」「病院への通院」（各80.0%）が最も高く、次いで「金融機関の手続き」（55.4%）となっています。

図4.63 自動車の運転免許証保持の有無<問4-(23)>

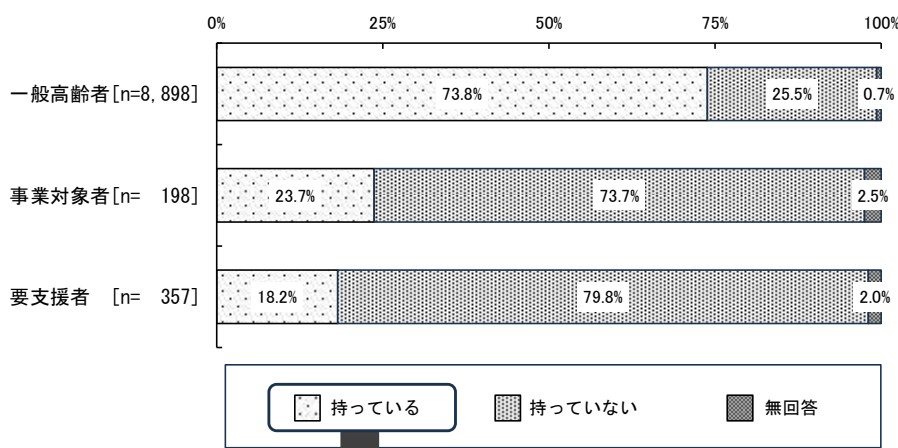
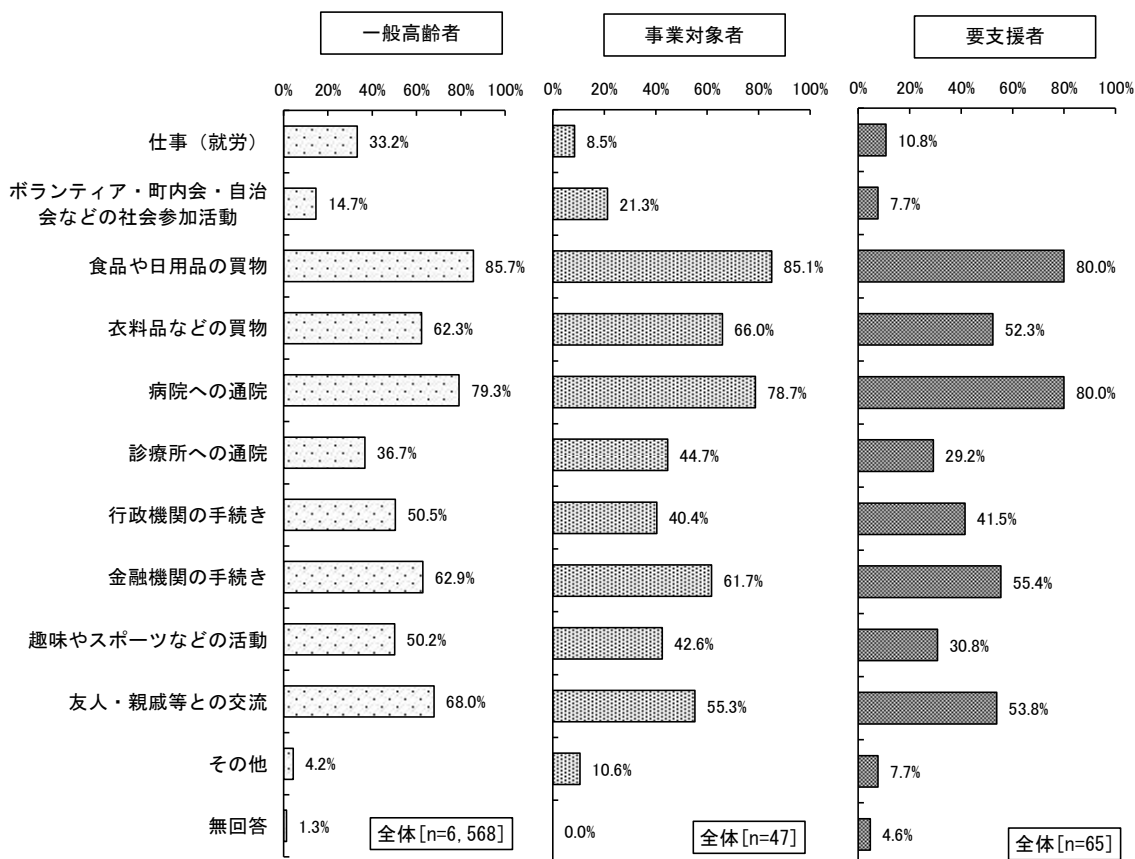


図4.64 免許返納をした場合の困りごと<問4-(23).①>



## 5 地域での活動について

### (1) グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度をみると、週1回以上の参加または就労している一般高齢者は「⑧収入のある仕事」(22.5%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(12.8%)、「③趣味関係のグループ」(9.5%)となっています。また、参加していない理由は「参加する意思が無い」(42.4%)が最も高くなっています。

図4.65 グループ等への参加頻度【一般高齢者】<問5-(1)>

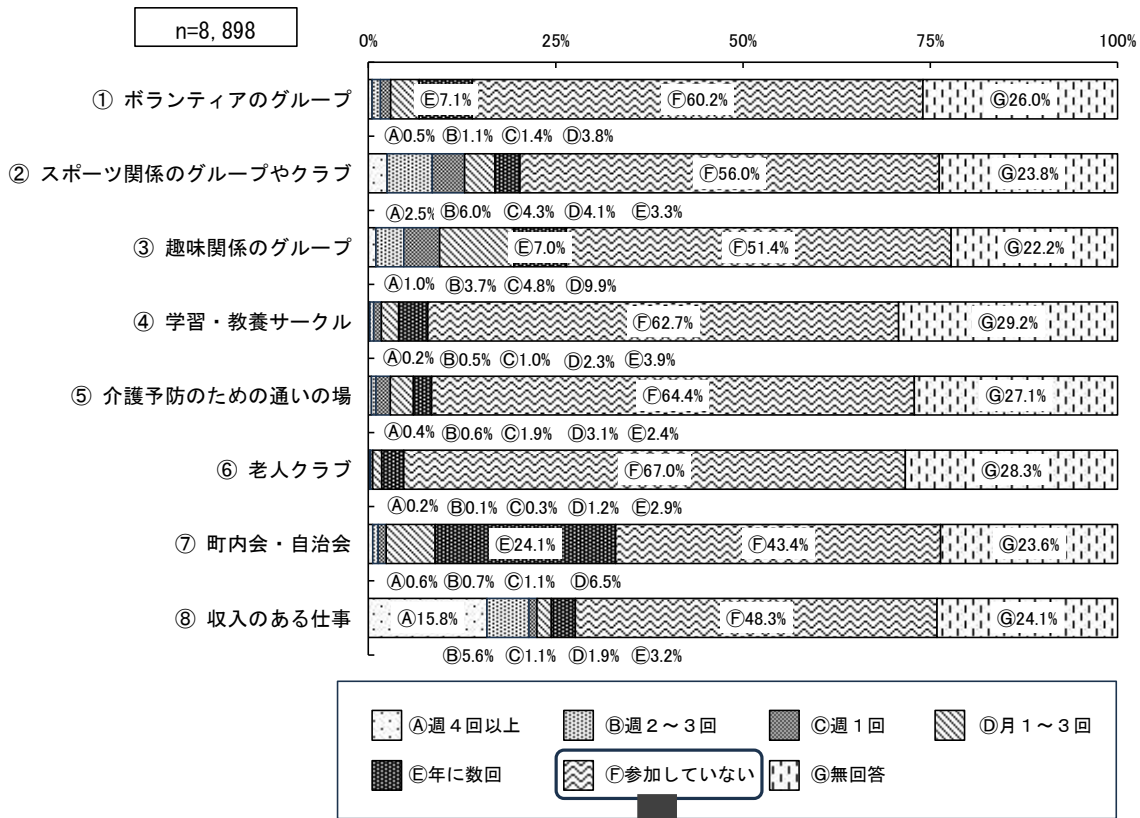
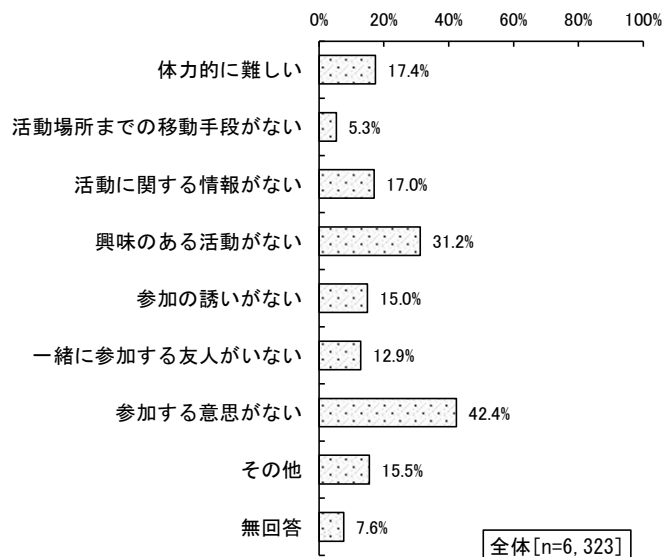


図4.66 参加していない理由【一般高齢者】<問5-(1).①>





○グループ等への参加頻度をみると、週1回以上の参加または就労している事業対象者は「⑤介護予防のための通いの場」(29.8%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(8.0%)、「③趣味関係のグループ」(4.5%)となっています。また、参加していない理由は「体力的に難しい」(47.7%)となっています。

図4.67 グループ等への参加頻度【事業対象者】 <問5-(1)>

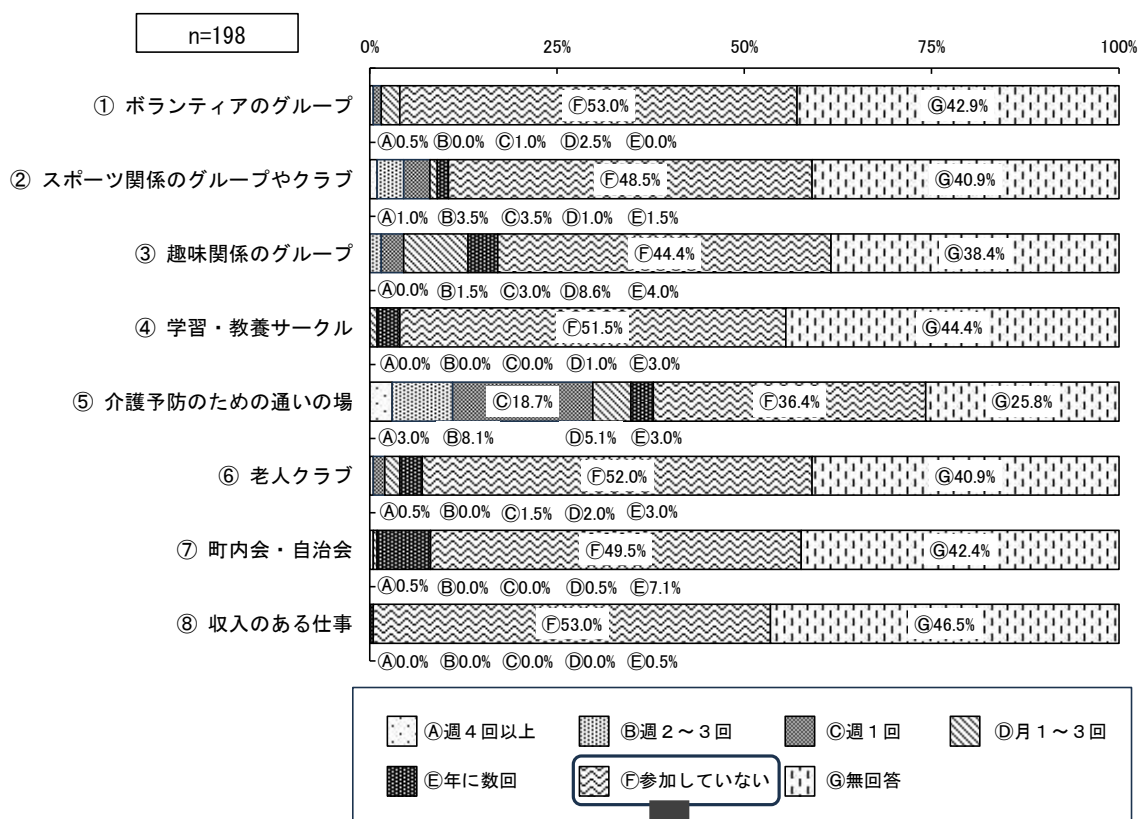
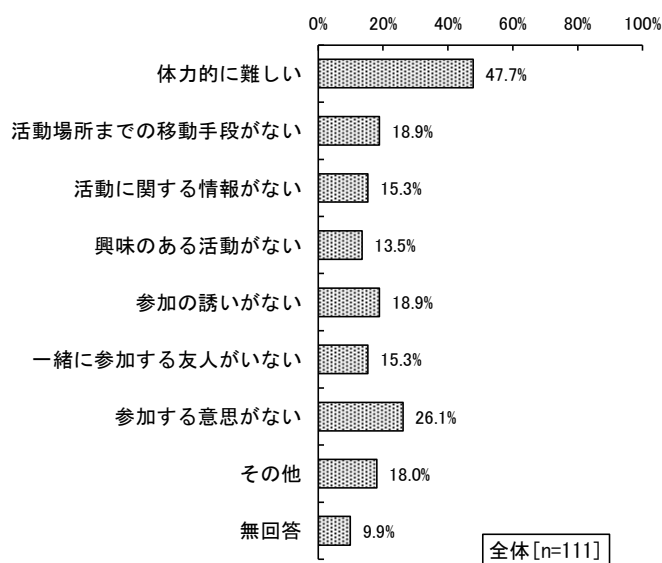


図4.68 参加していない理由【事業対象者】 <問5-(1). ①>



○グループ等への参加頻度をみると、週1回以上の参加または就労している要支援者は「⑤介護予防のための通いの場」(19.1%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(4.4%)、「③趣味関係のグループ」(3.1%)となっています。また、参加していない理由は「体力的に難しい」(71.5%)となっています。

図4.69 グループ等への参加頻度【要支援者】<問5-(1)>

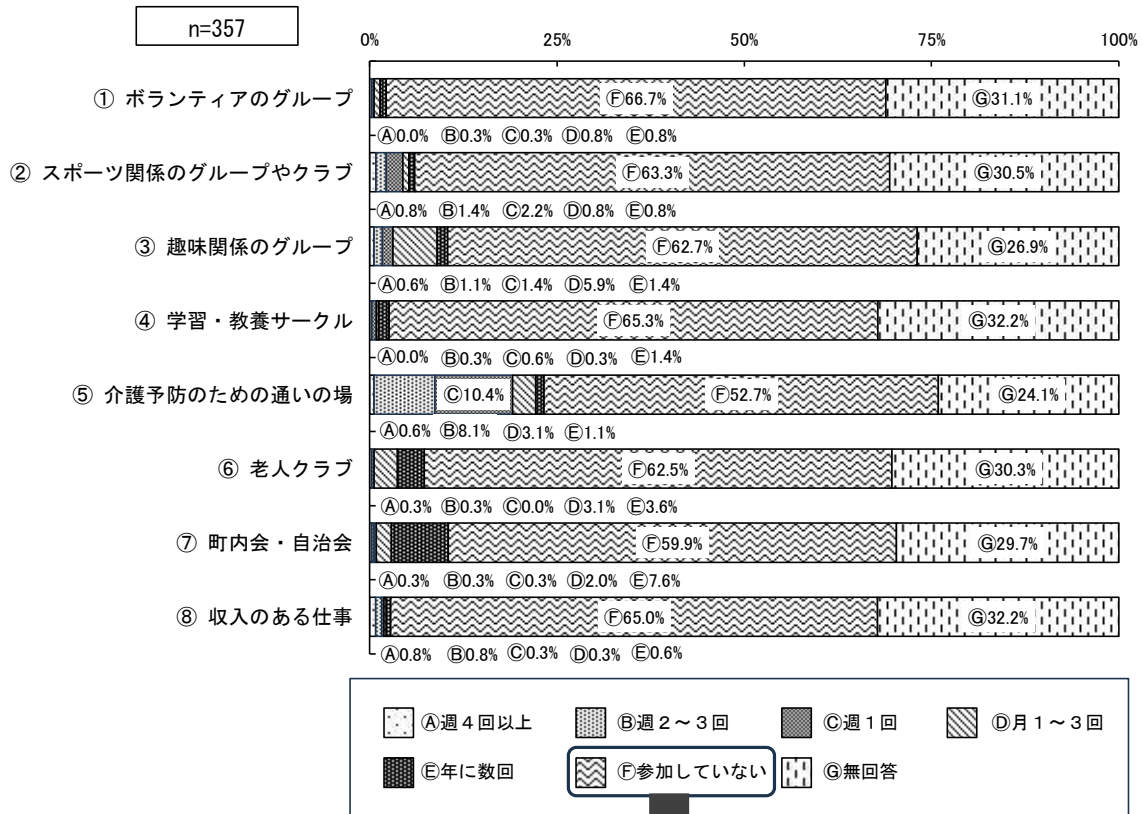
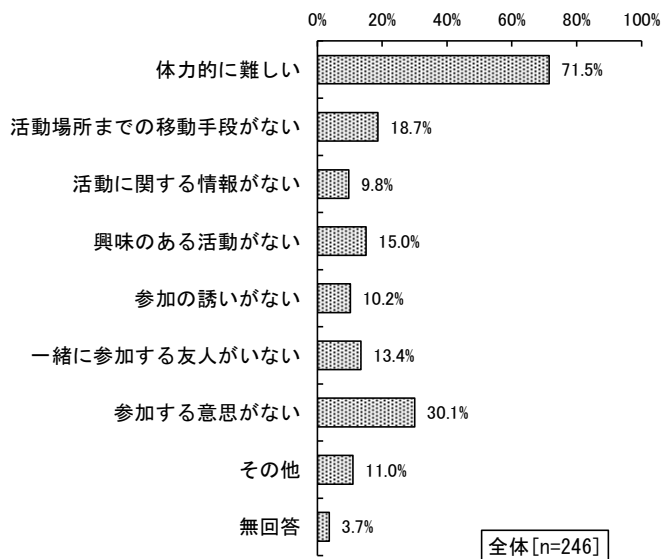


図4.70 参加していない理由【要支援者】<問5-(1).①>





## （2）地域づくりに対する参加意向

- 参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」（8.1%）と「参加してもよい」（48.0%）を合わせた56.1%が参加の意向です。
- 一方、事業対象者・要支援者は「是非参加したい」（11.6%・8.1%）と「参加してもよい」（38.9%・32.5%）を合わせた50.5%・40.6%となり、前者と比べて下回っています。
- 参加者としてグループ活動等に参加していない理由は、一般高齢者は「興味ある活動が無い」（39.7%）、事業対象者・要支援者は「体力的に難しい」（43.2%・61.9%）が最も高くなっています。

図4.71 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか<問5-(2)>

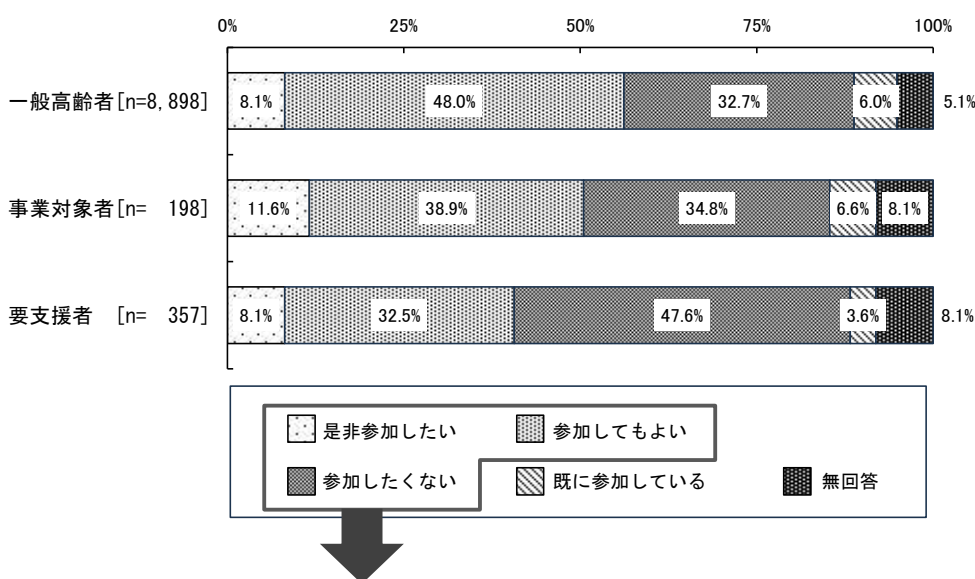
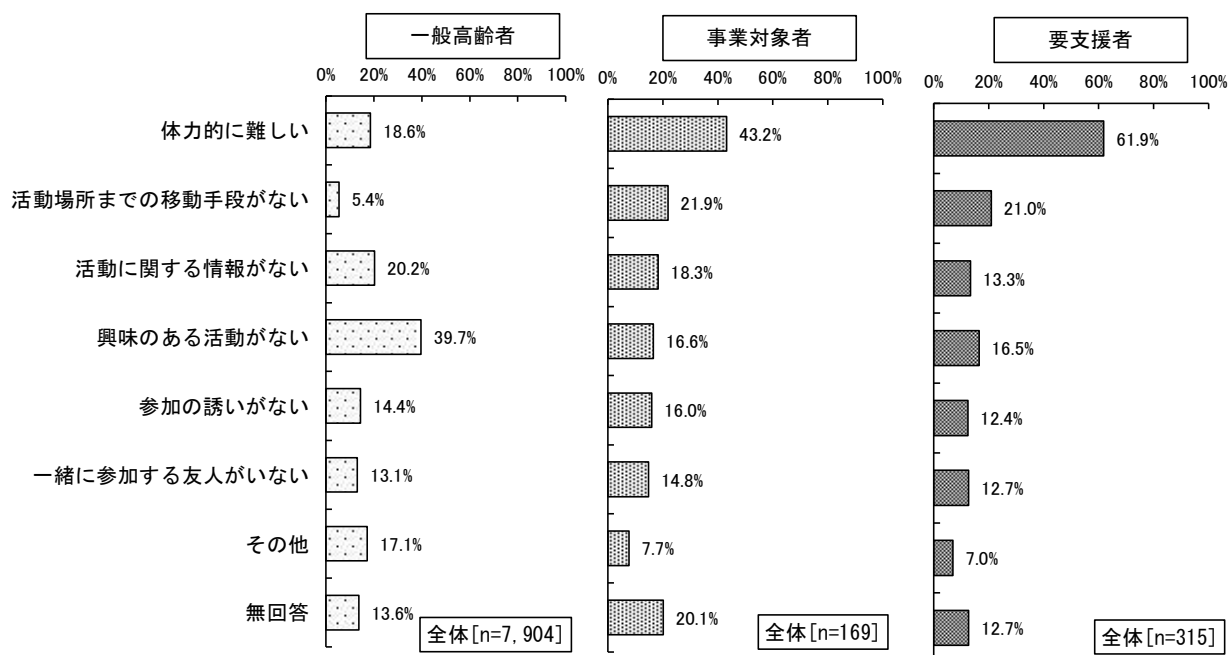


図4.72 参加者としてグループ活動等に参加していない理由<問5-(2).①>



○企画・運営（お世話役）としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」（3.0%）と「参加してもよい」（28.3%）を合わせた31.3%が参加の意向です。

○一方、事業対象者・要支援者は「是非参加したい」（2.5%・2.5%）と「参加してもよい」（18.2%・16.2%）を合わせて20.7%・18.7%となり、前者と比べて下回っています。

○企画・運営（お世話役）として参加していない理由をみると、一般高齢者は「興味ある活動がない」（37.2%）、事業対象者・要支援者は「体力的に難しい」（63.4%・71.7%）となっています。

図4.73 企画・運営（お世話役）としてグループ活動等に参加してみたいか<問5-(3)>

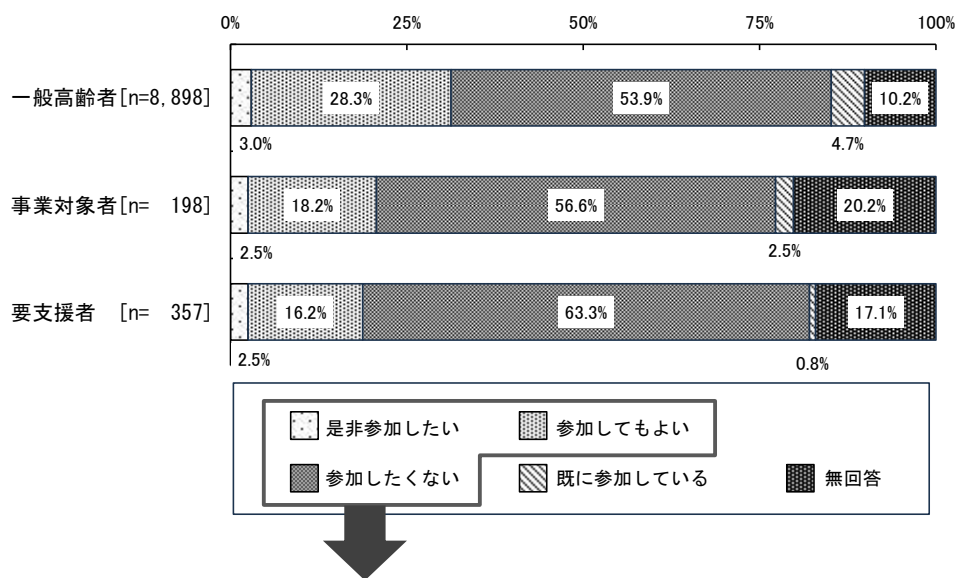
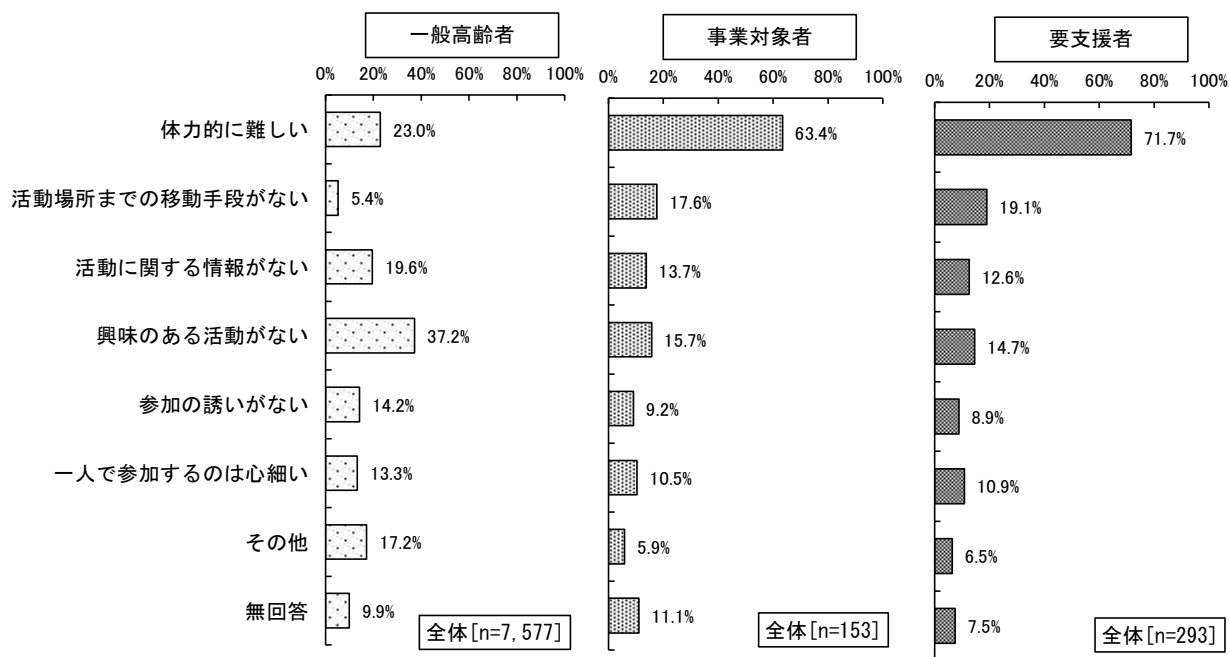


図4.74 企画・運営（お世話役）として参加していない理由<問5-(3).①>



○地域でできると思う支援では、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「声かけ」（37.6%・17.2%・13.2%）が最も高く、次いで「見守り」（31.7%・10.6%・7.8%）となっています。

○地域で支援できない理由をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「体力的に難しい」（57.7%・94.0%・94.3%）となっています。

図4.75 地域でできると思う支援<問5-(4)>

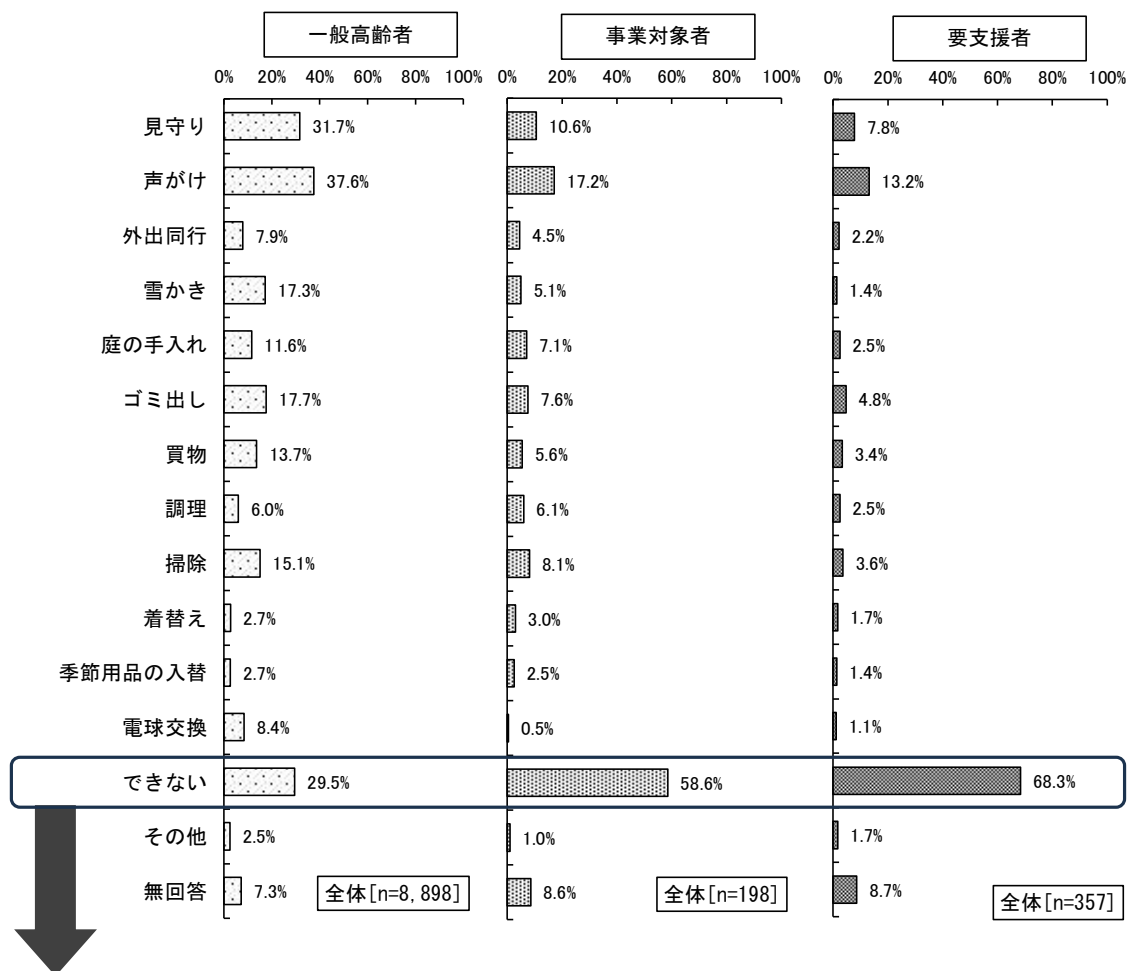
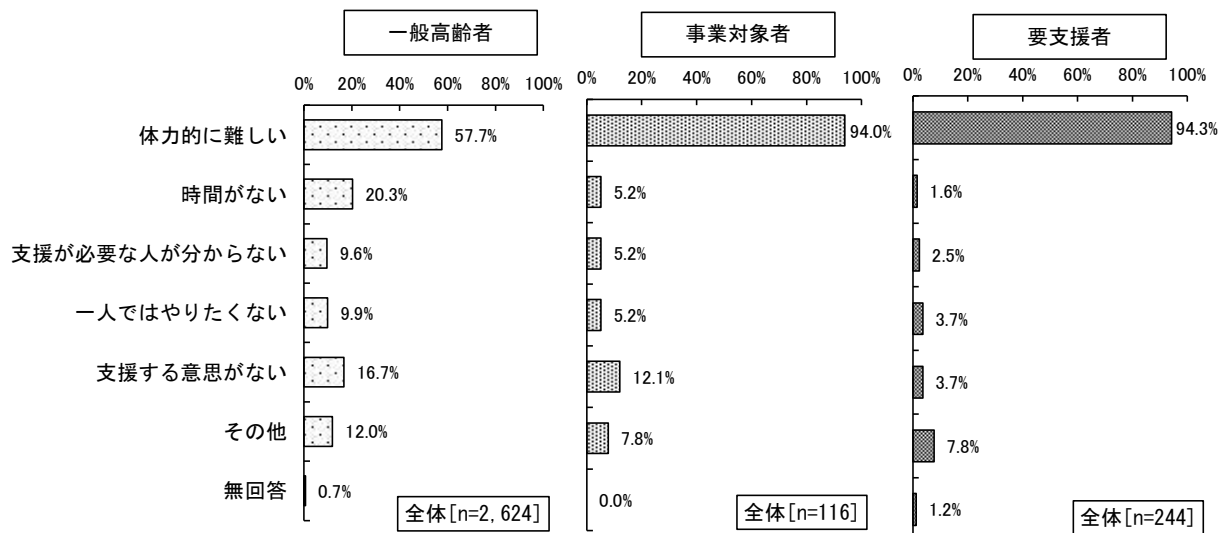


図4.76 地域で支援できない理由<問5-(4).①>



## 6 たすけあいについて

### (1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

- 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をみると、一般高齢者は「配偶者」（52.8％）が最も高く、次いで「友人」（43.1％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.4％）、「別居の子ども」（34.0％）、「同居の子ども」（24.7％）となっています。
- 一方、事業対象者は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（38.4％）が最も高く、次いで「別居の子ども」（37.9％）、「友人」（36.4％）、要支援者は「別居の子ども」（37.5％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（33.1％）、「友人」（32.8％）となっています。
- 反対に心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人では、一般高齢者は「配偶者」（50.8％）が最も高く、次いで「友人」（43.9％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（37.7％）、「別居の子ども」（34.2％）となっています。
- 一方、事業対象者は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（35.4％）が最も高く、次いで「友人」（33.3％）、要支援者は「友人」（32.8％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（29.7％）となっています。

図4.77 心配事や愚痴（ぐち）  
を聞いてくれる人<問6-(1)>

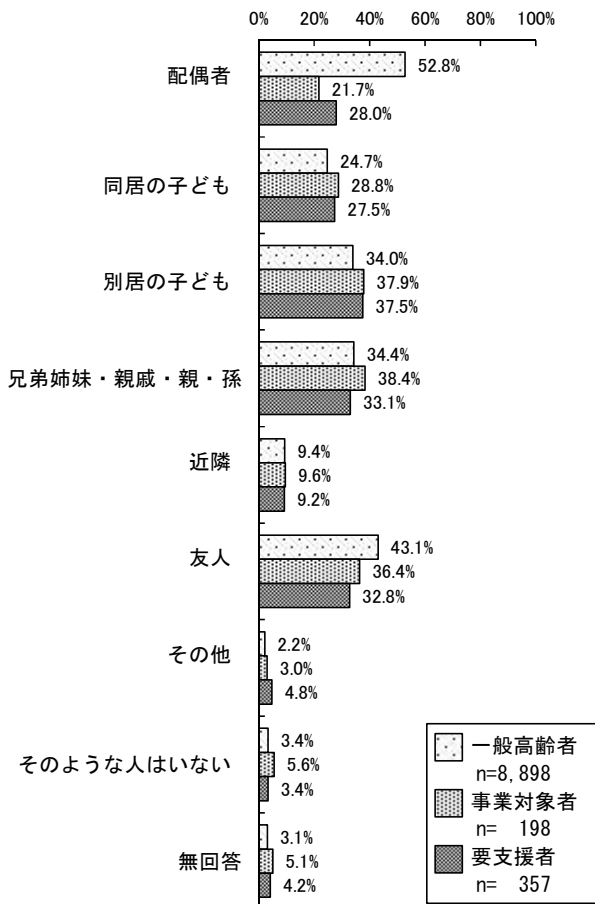
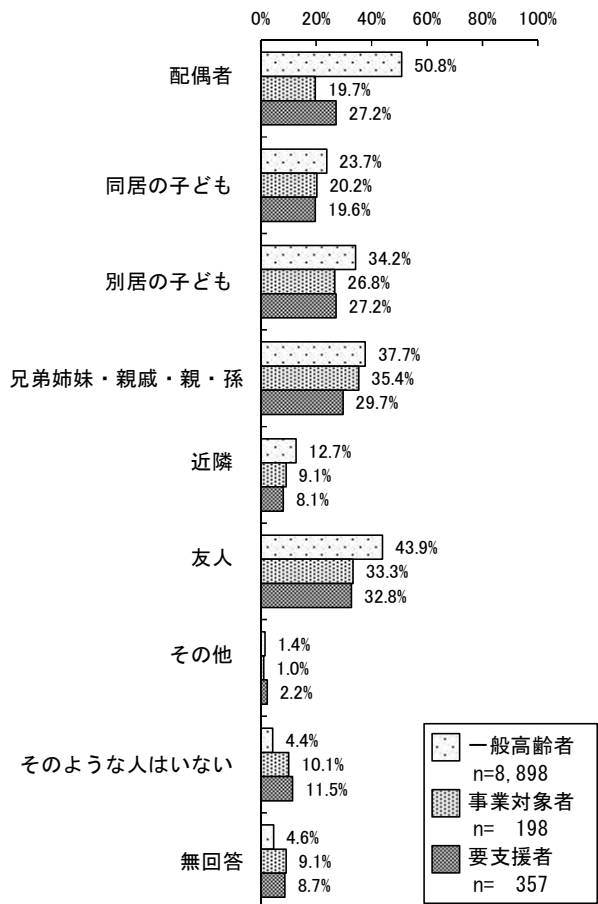


図4.78 心配事や愚痴（ぐち）  
を聞いてあげる人<問6-(2)>



- 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人では、一般高齢者は「配偶者」（57.1%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（34.7%）、「別居の子ども」（31.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（18.2%）となっています。
- 一方、事業対象者・要支援者ではいずれも、「同居の子ども」（41.4%・38.4%）が最も高く、次いで「別居の子ども」（33.3%・33.9%）、「配偶者」（23.2%・30.0%）となっています。
- 反対に看病や世話をしてあげる人は、一般高齢者では「配偶者」（59.4%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（31.0%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.2%）となっています。
- 一方、事業対象者は「同居の子ども」（22.7%）が最も高く、次いで「配偶者」（22.2%）、要支援者では「配偶者」（28.0%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（18.5%）となっています。ただし、「そのような人はいない」（34.3%・29.4%）と回答した方も多くなっています。

図4.79 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人<問6-(3)>

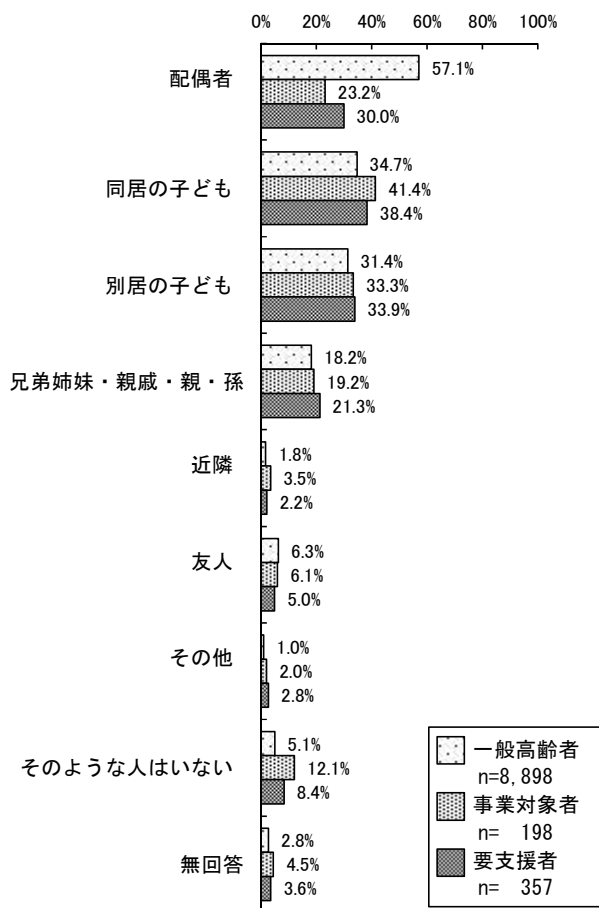
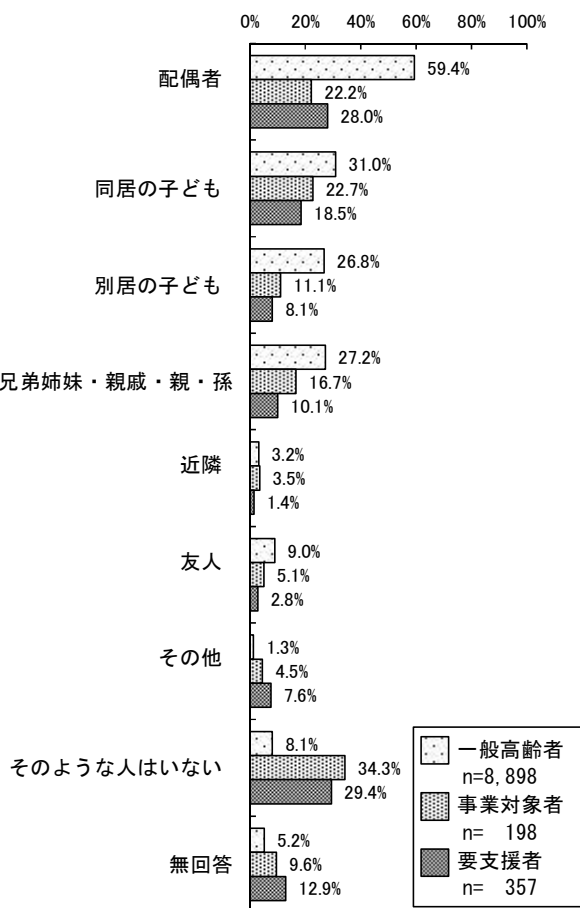
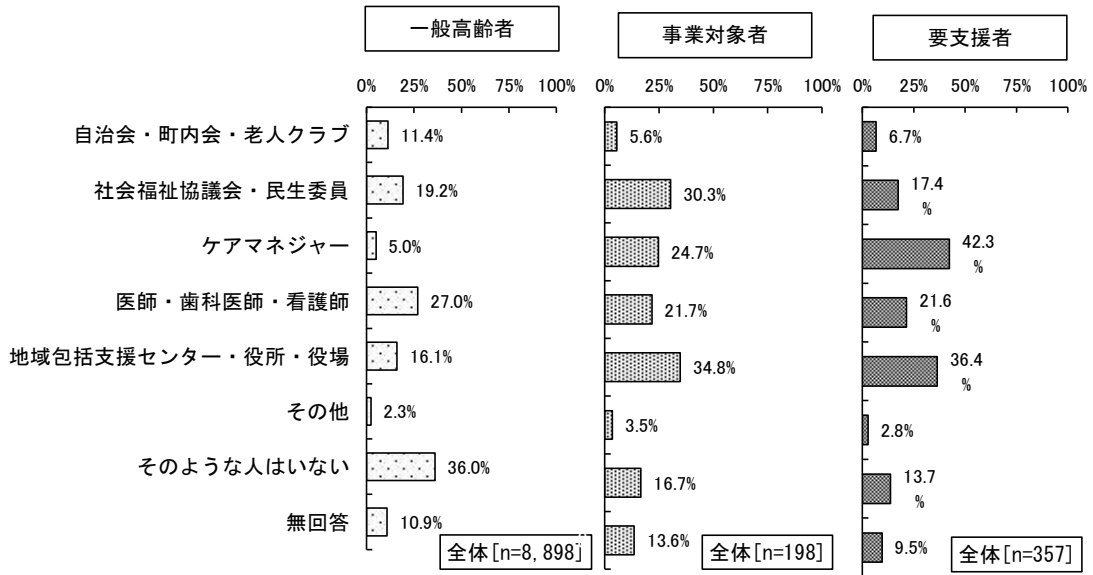


図4.80 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてあげる人<問6-(4)>



- 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手では、一般高齢者は「そのような人はいない」(36.0%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(27.0%)、「社会福祉協議会・民生委員」(19.2%)となっています。
- 一方、事業対象者は「地域包括支援センター・役所・役場」(34.8%)、「社会福祉協議会・民生委員」(30.3%)、「ケアマネジャー」(24.7%)となっており、要支援者は「ケアマネジャー」(42.3%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(36.4%)、「医師・歯科医師・看護師」(21.6%)となっています。

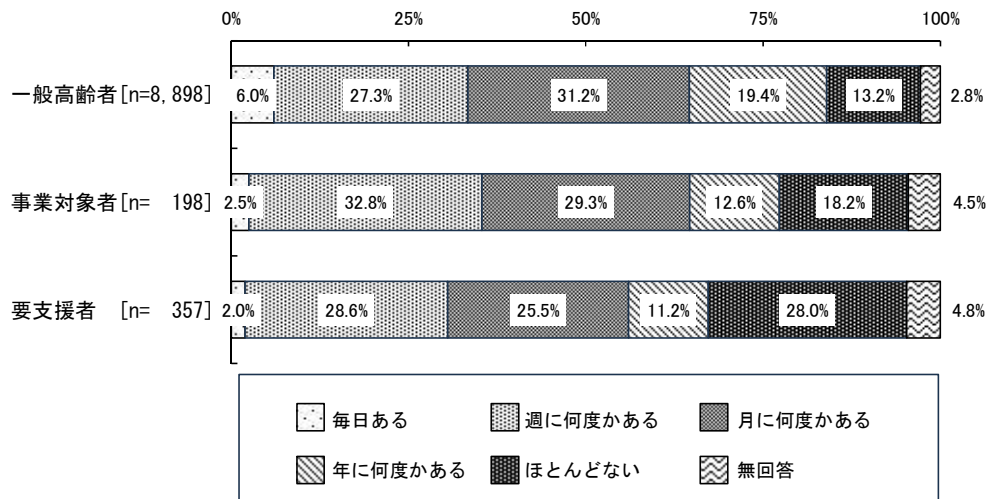
図4.81 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手<問6-(5)>



## (2) 友人・知人との交流状況

- 友人・知人と会う頻度では、一般高齢者は「月に何度かある」(31.2%)が最も高く、次いで「週に何度かある」(27.3%)、「年に何度かある」(19.4%)となっています。
- 一方、事業対象者は「週に何度かある」(32.8%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(29.3%)、「ほとんどない」(18.2%)、要支援者は「週に何度かある」(28.6%)が最も高く、次いで「ほとんどない」(28.0%)、「月に何度かある」(25.5%)となっています。

図4.82 友人・知人と会う頻度<問6-(6)>



○1 か月間に何人の友人・知人と会ったかでは、一般高齢者は「3～5人」(27.0%)が最も高く、次いで「1～2人」(25.6%)、「10人以上」(21.3%)、事業対象者は「1～2人」(31.8%)が最も高く、次いで「3～5人」(22.2%)、「10人以上」(14.6%)となっています。要支援者は「1～2人」(31.7%)が最も高く、次いで「3～5人」(21.3%)、「0人(いない)」(20.4%)となっています。

○よく会う友人・知人はどんな関係の人かでは、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「近所・同じ地域の人」(49.0%・44.9%・48.7%)が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(33.2%・25.8%・16.5%)となっています。

図4.83 何人の友人・知人と会ったか（最近1か月間）＜問6-(7)＞

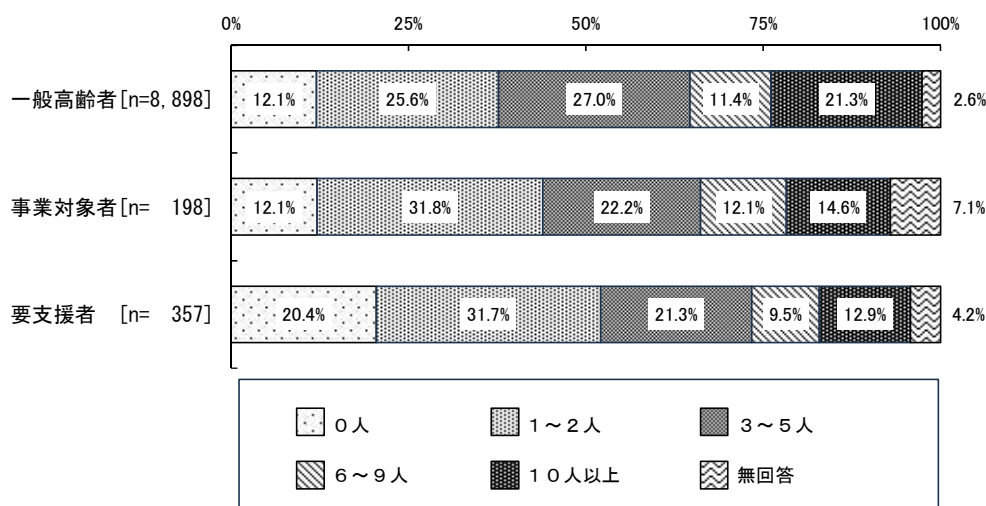
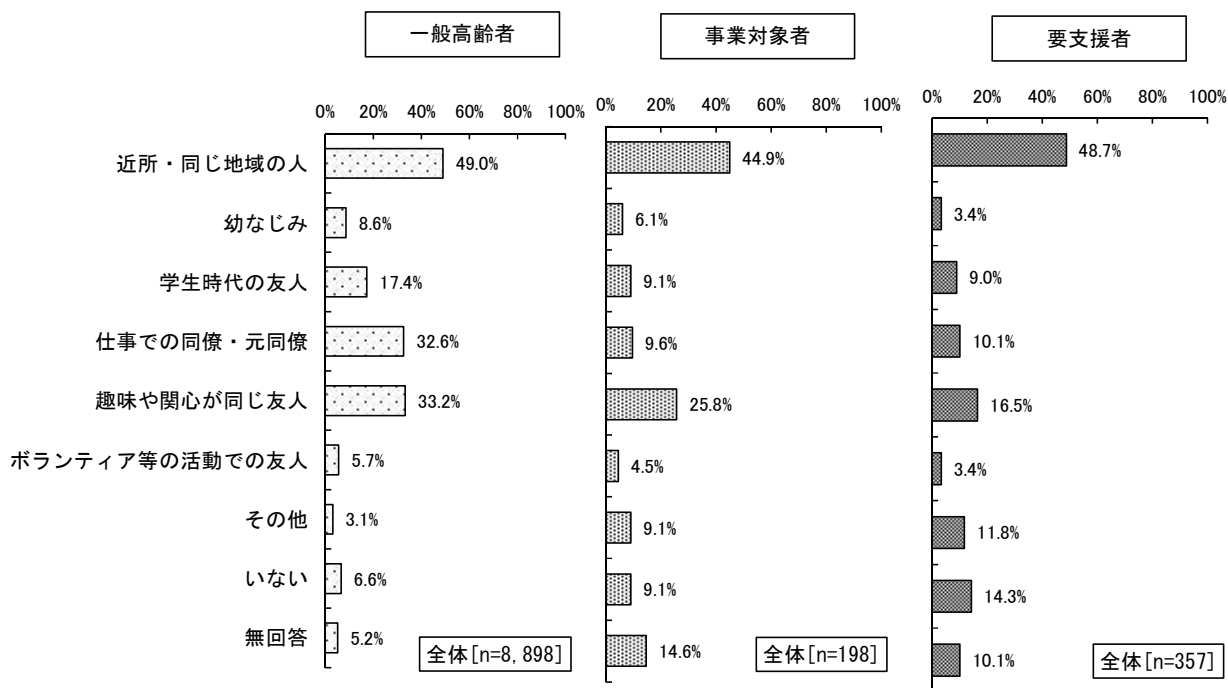


図4.84 よく会う友人・知人はどんな関係の人か＜問6-(8)＞



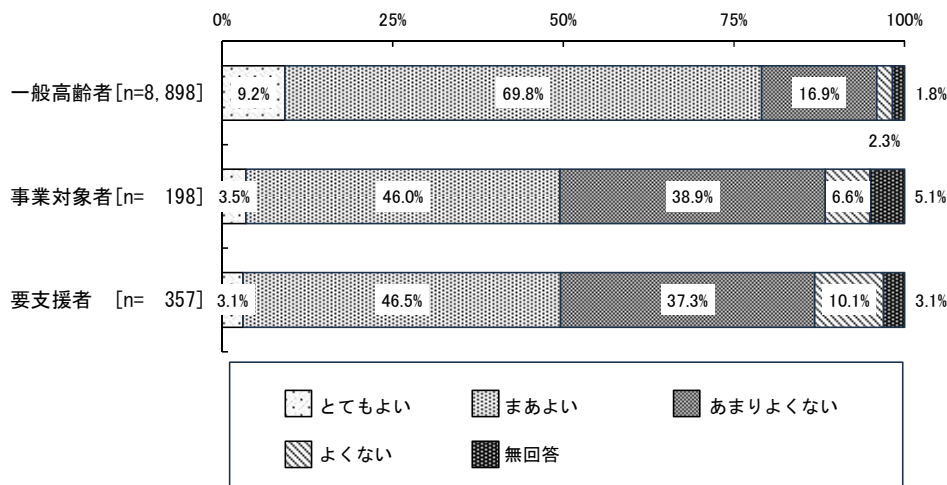


## 7 健康について

### (1) 健康状態

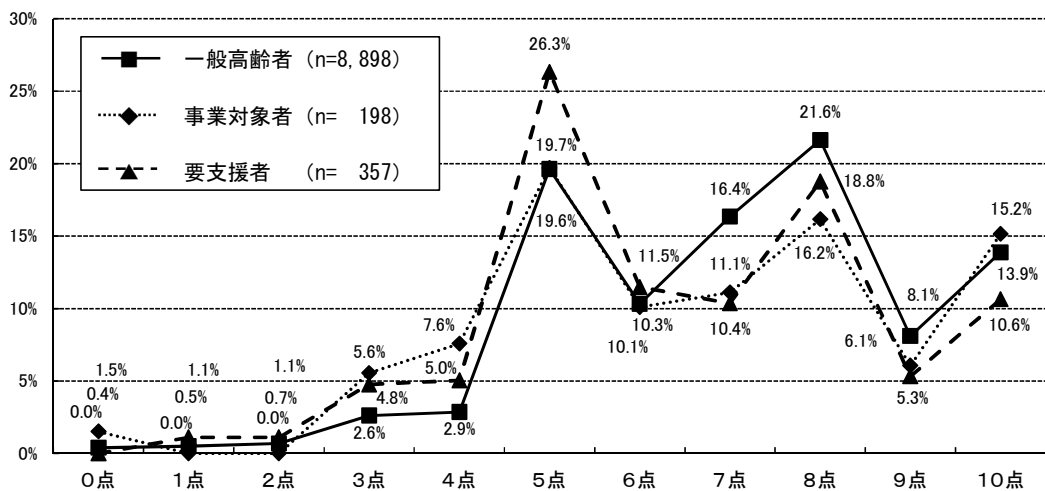
- 主観的健康感をみると、一般高齢者は「まあよい」(69.8%)が最も高く、「とてもよい」(9.2%)を合わせた79.0%が健康と感じています。
- 事業対象者・要支援者は「とてもよい」(3.5%・3.1%)と「まあよい」(46.0%・46.5%)を合わせて49.5%・49.6%となりほぼ半数が健康と感じています。

図4.85 現在の主観的健康感<問7-(1)>



- 現在の主観的幸福感では、一般高齢者は「8点」が最も多く、次いで「5点」、「7点」となっています。事業対象者・要支援者はいずれも「5点」が最も多く、次いで「8点」となっています。

図4.86 現在の主観的幸福感<問7-(2)>



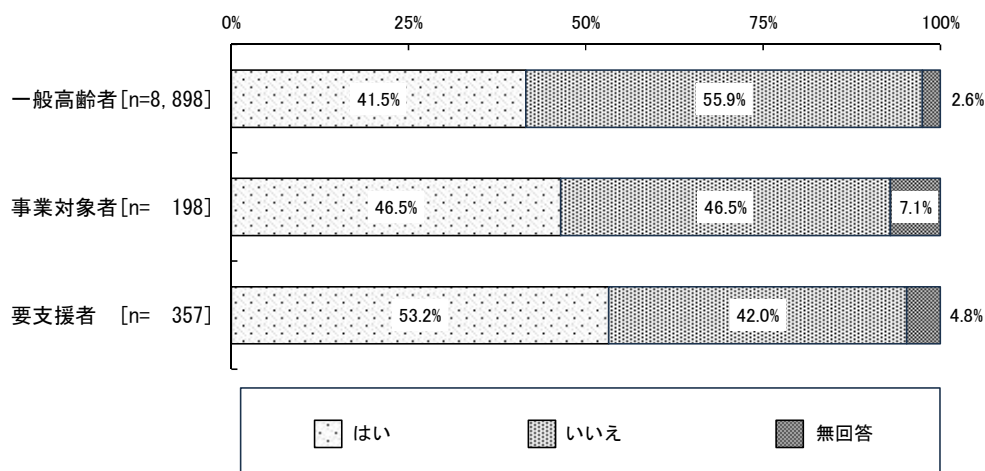
平均点	一般高齢者	7.0点
	事業対象者	6.7点
	要支援者	6.5点

※ただし、無回答者（一般 271 名、事業対象者 14 名、要支援者 18 名）を除きます。

## （2）こころの健康状態

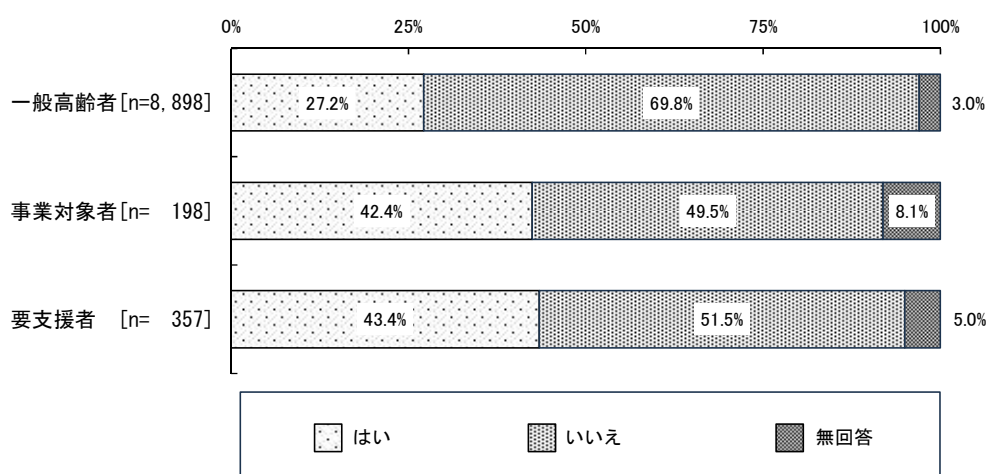
○この1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、一般高齢者は41.5%、事業対象者は46.5%、要支援者は53.2%があったと回答しています。

図4.87 この1か月間、気分が沈んだりする<問7-(3)>



○この1か月間、物事に対して心から楽しめない感じの有無では、一般高齢者は27.2%、事業対象者は42.4%、要支援者は43.4%があったと回答しています。

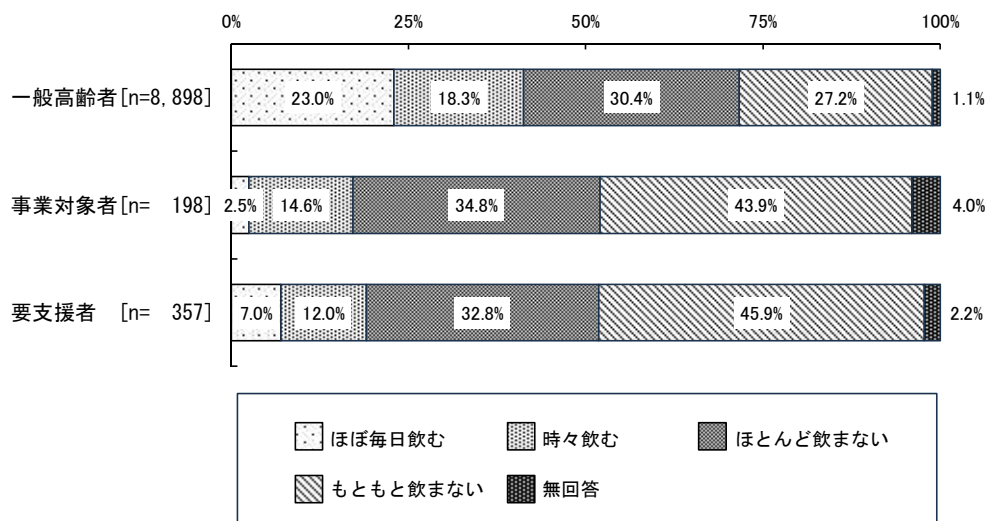
図4.88 この1か月間、物事に対して心から楽しめない<問7-(4)>



### (3) 疾病と喫煙や飲酒の関係

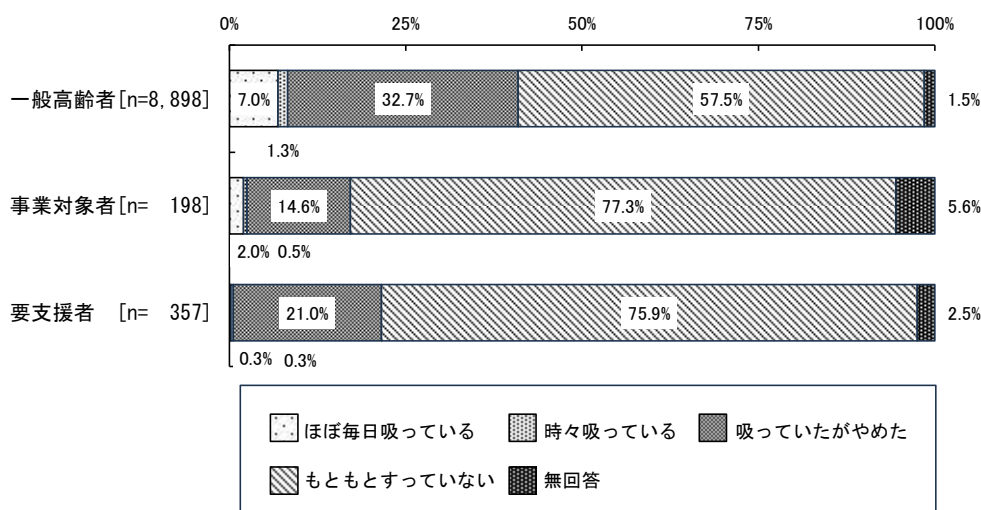
- 飲酒の状況をみると、一般高齢者は「ほぼ毎日飲む」(23.0%)と「時々飲む」(18.3%)を合わせた41.3%が飲酒者となります。
- 一方、事業対象者・要支援者は「ほぼ毎日飲む」(2.5%・7.0%)と「時々飲む」(14.6%・12.0%)を合わせた17.1%・19.0%が飲酒者となり、前者と比べて半数未満となっています。

図4.89 飲酒の状況<問7-(5)>



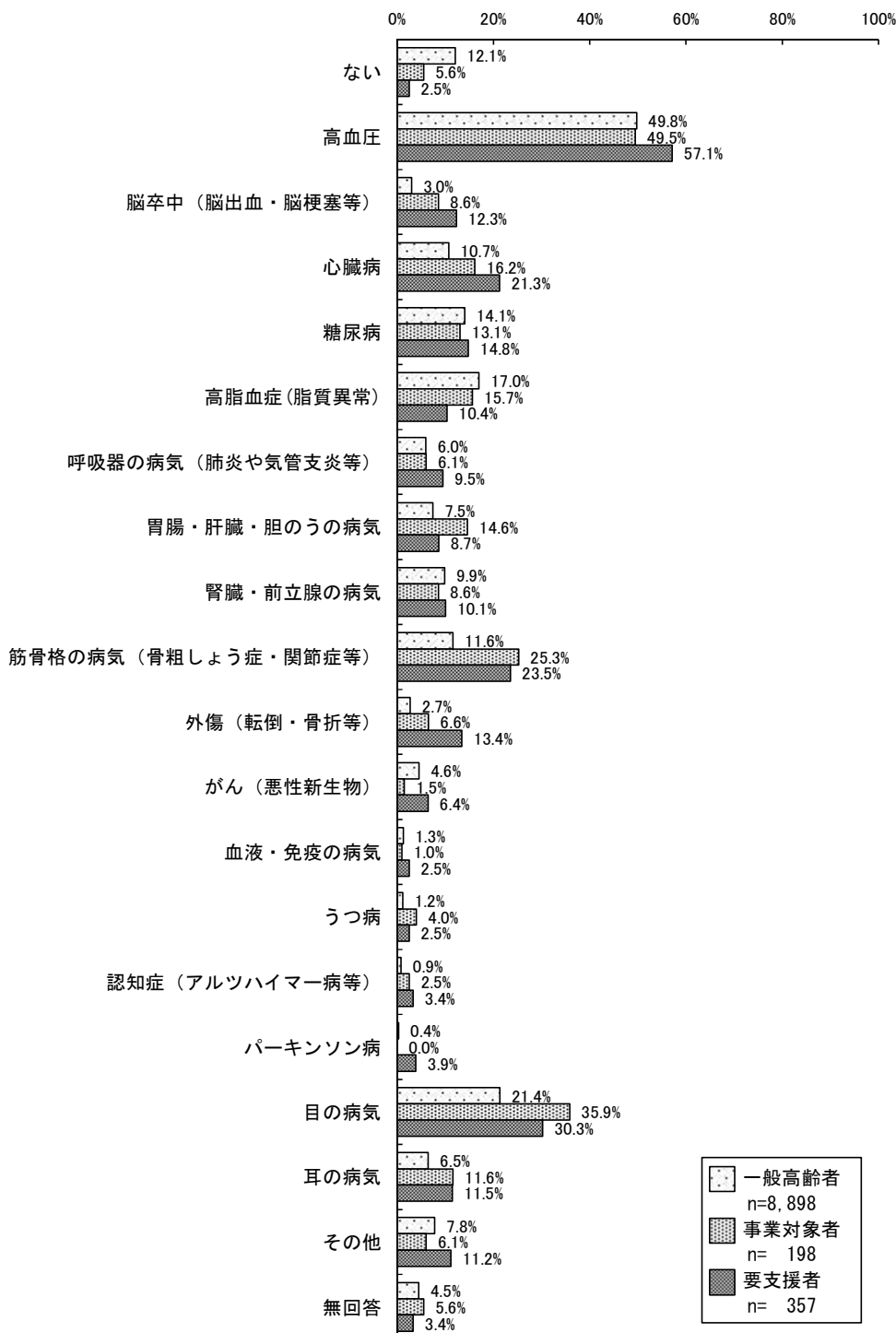
- 喫煙の状況をみると、一般高齢者は「ほぼ毎日吸っている」(7.0%)と「時々吸っている」(1.3%)を合わせた8.3%が喫煙者となります。
- 一方、事業対象者・要支援者は「ほぼ毎日吸っている」(2.0%・0.3%)と「時々吸っている」(0.5%・0.3%)を合わせた2.5%・0.6%が喫煙者となり、前者と比べて半数以下となっています。

図4.90 喫煙の状況<問7-(6)>



○現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、全体では一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「高血圧」（49.8%・49.5%・57.1%）が最も高く、次いで「目の病気」（21.4%・35.9%・30.3%）となっています。

図4.91 現在治療中、または後遺症のある病気<問7-(7)>



## 8 認知症にかかる相談窓口の把握について

- 認知症の症状がある又は家族が認知症の症状がある方は一般高齢者が8.9%、事業対象者が12.1%、要支援者が17.1%となっています。
- 認知症に関する相談窓口を知っている方は、一般高齢者が30.2%、事業対象者が24.7%、要支援者が30.0%となっています。
- 認知症サポーター養成講座を受けたことがある方は、一般高齢者が8.6%、事業対象者が8.1%、要支援者が4.5%となっています。

図4.92 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか<問8-(1)>

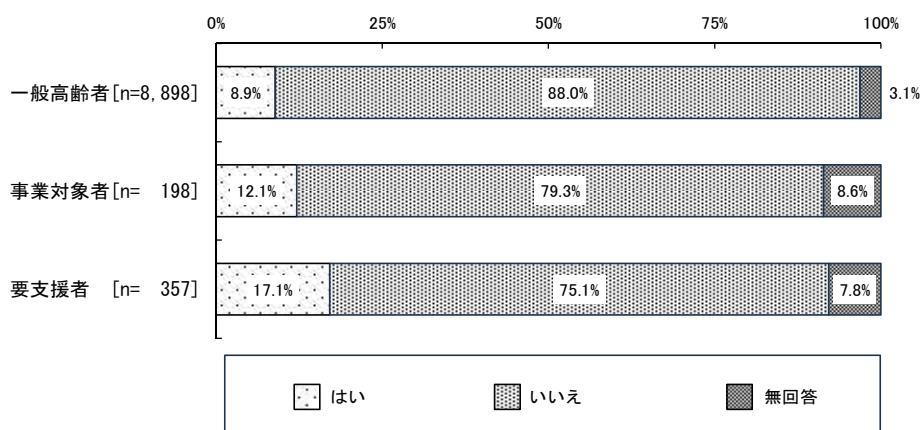


図4.93 認知症に関する相談窓口を知っているか<問8-(2)>

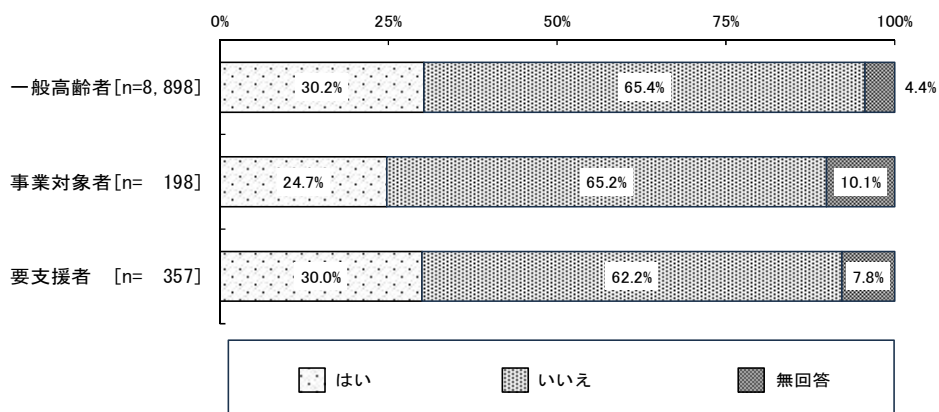
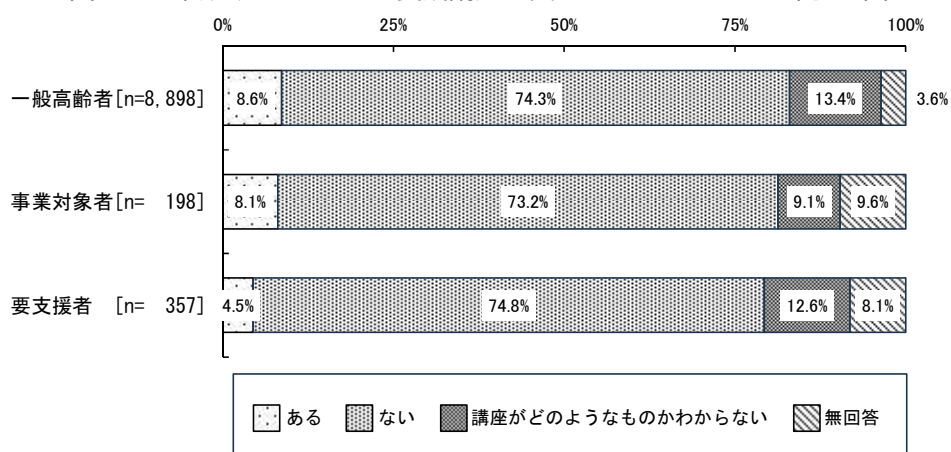


図 4.94 認知症サポーター養成講座を受けたことがあるか<問 8-(3)>





## 9 介護が必要になった場合の生活等について

○介護が必要になった場合の生活場所の希望をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「自宅又は親族等の家で『介護サービス』を受けながら生活したい」（30.2%・32.3%・35.0%）が最も高く、次いで一般高齢者では「施設（特別養護老人ホームや認知症グループホーム等）で生活したい」（19.6%）、「自宅又は親族等の家で『親族等の介護』を受けながら生活したい」（12.9%）、となっています。

○訪問介護（ホームヘルパー）などのサービスの希望をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「受けない」（72.7%・78.1%・75.2%）となっています。

図4.95 介護が必要になった場合の生活場所の希望<問9-(1)>

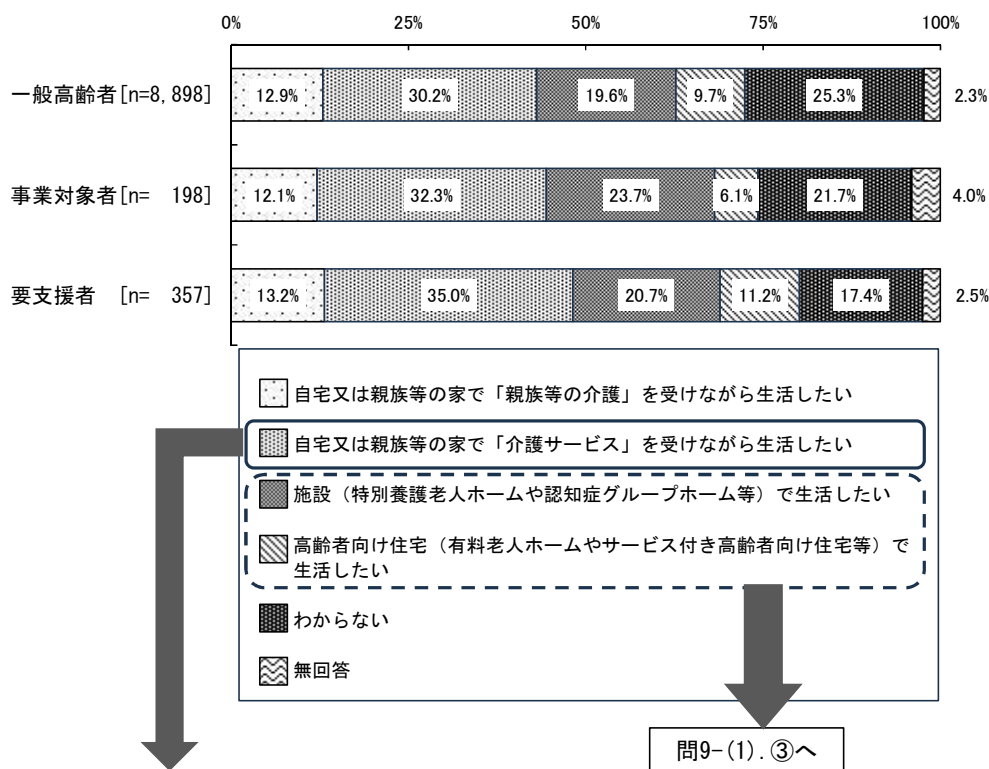
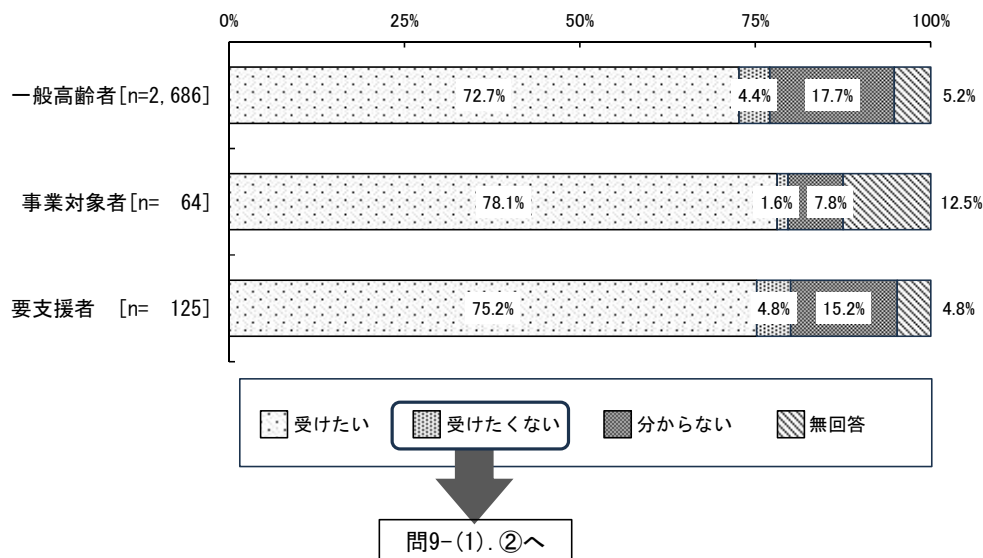
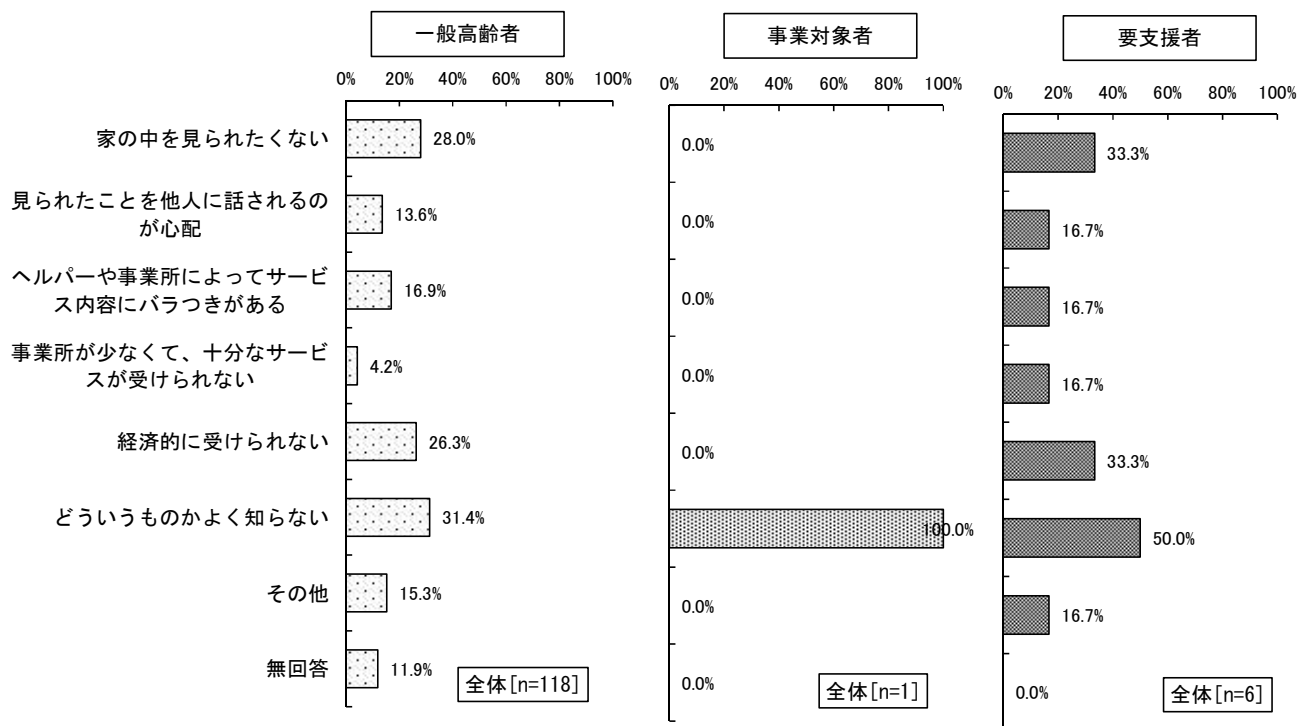


図4.96 訪問介護（ホームヘルパー）などのサービス希望の有無<問9-(1).①>



○「自宅又は親族等の家で「介護サービス」を受けながら生活したい」と回答した方のうち訪問介護（ホームヘルパー）などのサービス希望は7割以上あるのに対し、サービスを受けたくない理由として「どういうものかよく知らない」（31.4%・100.0%・50.0%）を挙げる方がいました。

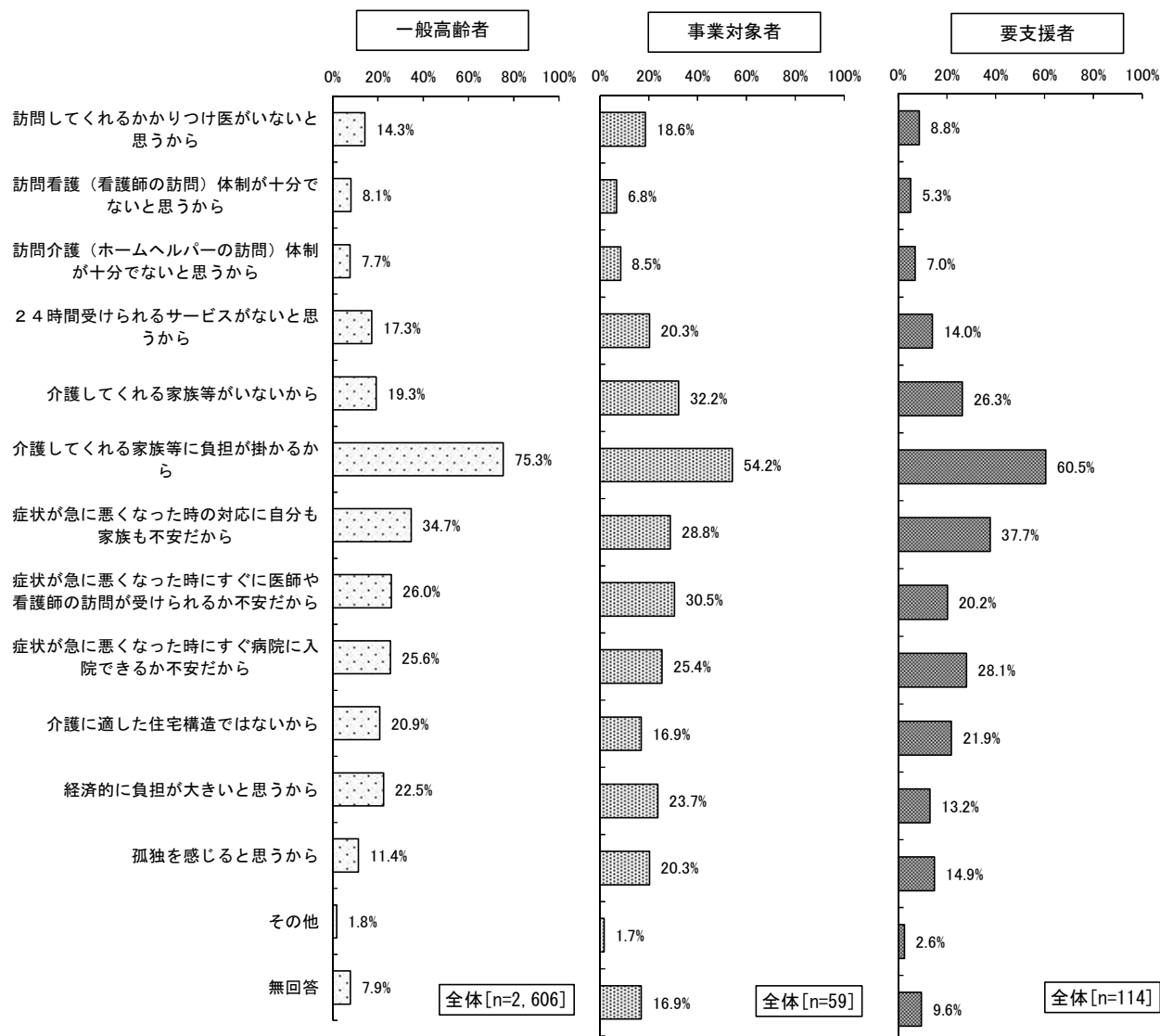
図4.97 サービスを受けたくない理由<問9-(1).②>





○施設や高齢者向け住宅で生活したい理由をみると、一般高齢者・事業対象者・要支援者いずれも「介護してくれる家族等に負担が掛かるから」（75.3%・54.2%・60.5%）が最も高く、次いで一般高齢者・要支援者は「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安だから」（34.7%・37.7%）、事業対象者は「介護してくれる家族等がないから」（32.2%）となっています。

図4.98 施設や高齢者向け住宅で生活したい理由<問9-(1).③>



## 10 もしものときの話し合いについて

○もしものときの話し合いの有無をみると、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の割合を合わせると、一般高齢者は33.4%、事業対象者は38.8%、要支援者は44.9%となっています。

○話し合ったきっかけとしては、一般高齢者は「ご家族等の病気や死」(44.5%)が最も高く、次いで「自分の病気」(38.3%)、「人生の最終段階についてメディアから情報を得た時」(30.4%)となっています。事業対象者・要支援者は「自分の病気」(53.2%・61.3%)が最も高く、次いで「ご家族等の病気や死」(44.2%・28.1%)となっています。

図4.99 もしものときの話し合い<問10-(1)>

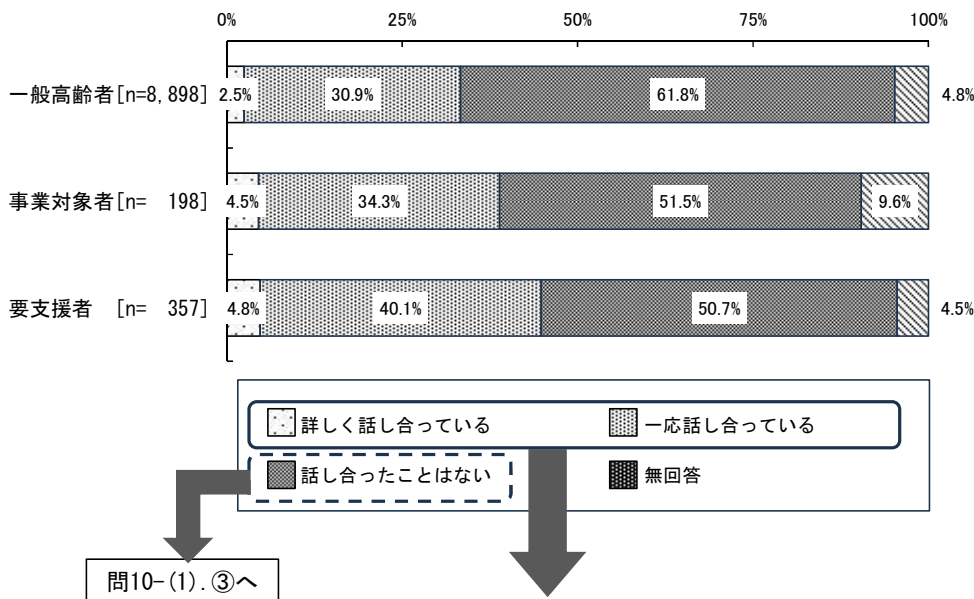
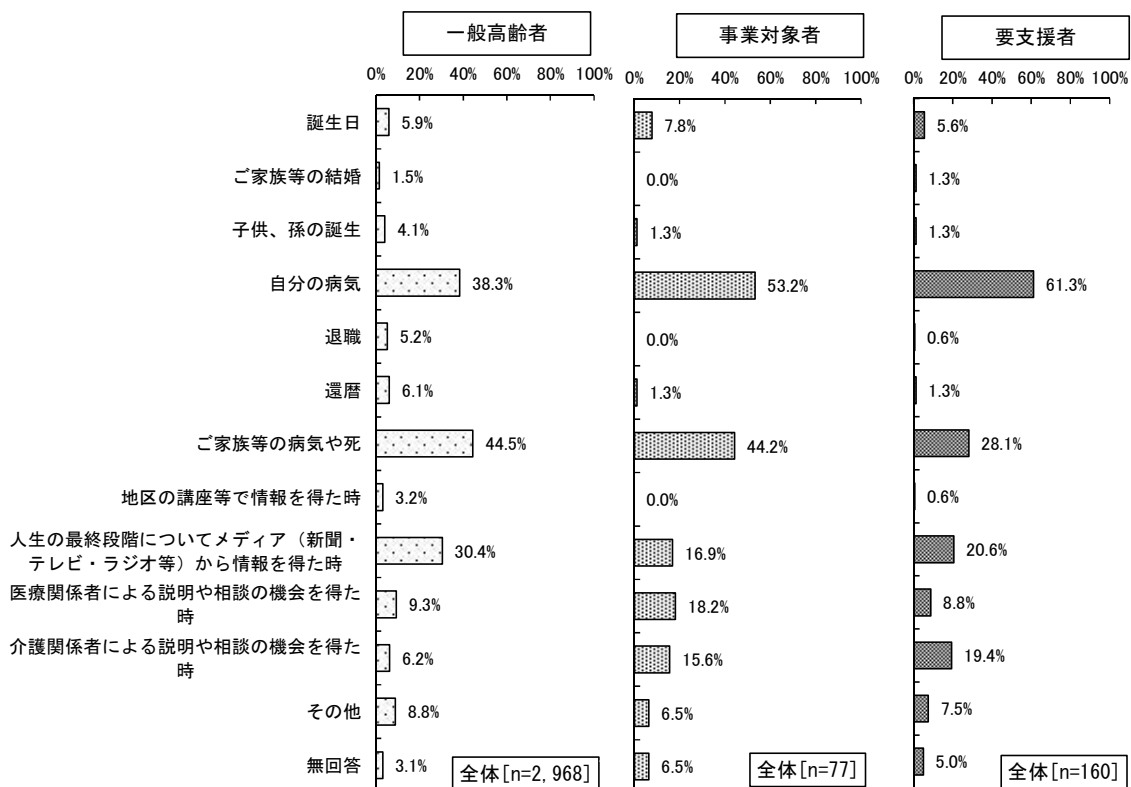
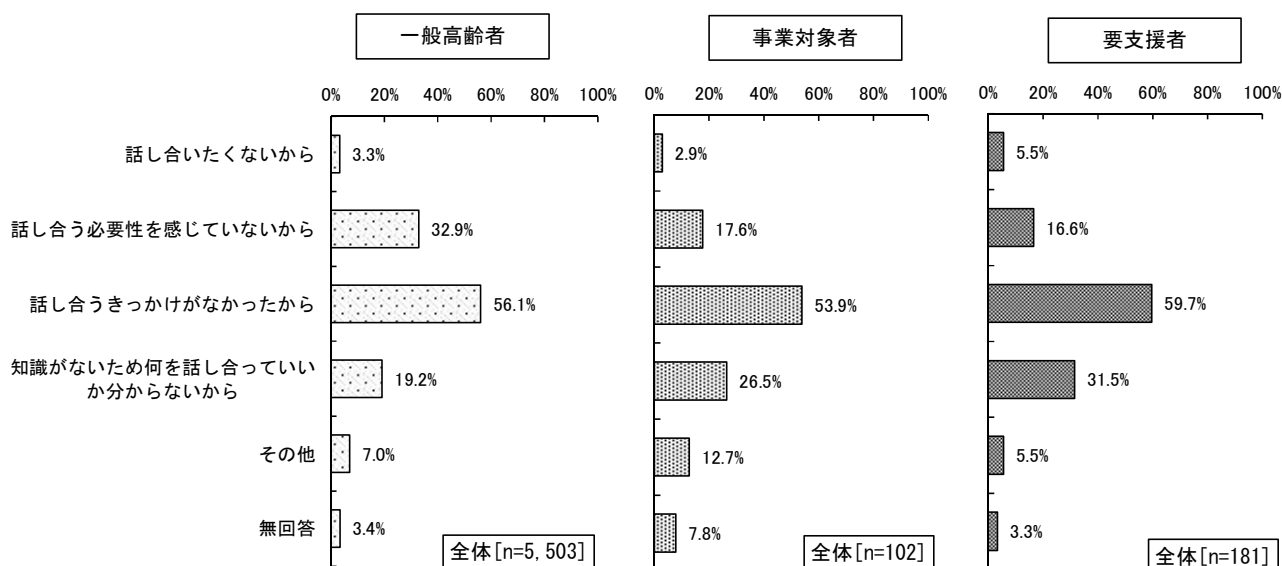


図4.100 話し合ったきっかけ<問10-(1).①>



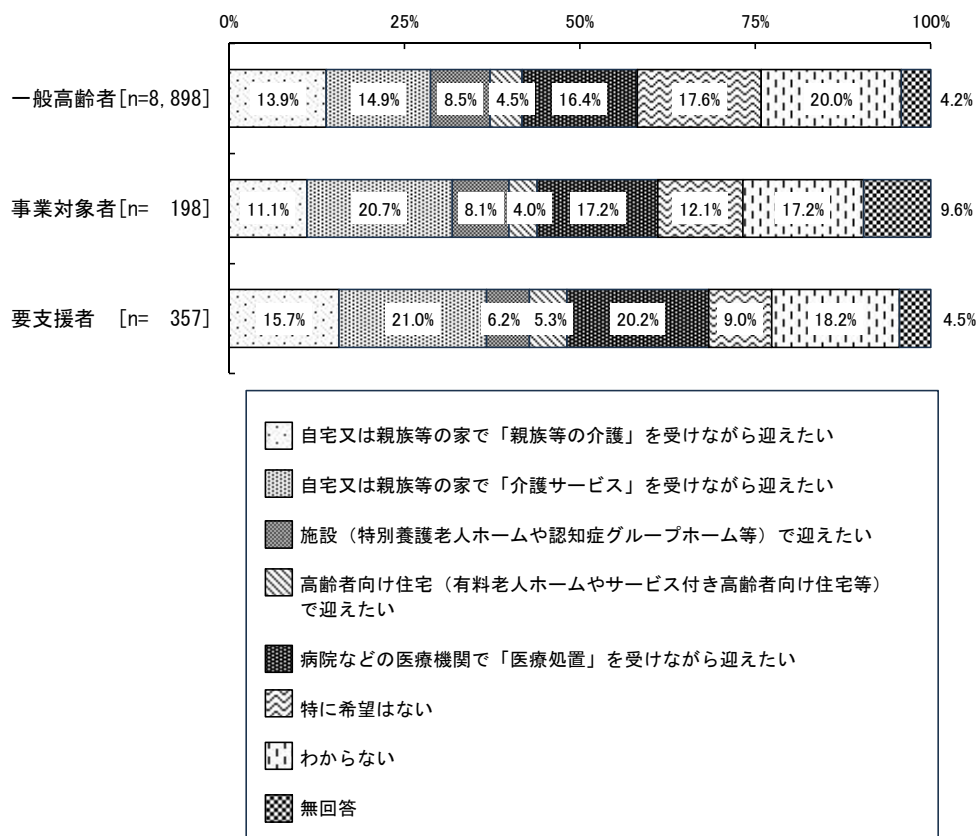
○話し合っていない理由として、一般高齢者は「話し合うきっかけがなかったから」(56.1%)が最も高く、次いで「話し合う必要性を感じていないから」(32.9%)、「知識がないため何を話し合っていないか分からないから」(19.2%)となっています。事業対象者・要支援者いずれも「話し合うきっかけがなかったから」(53.9%・59.7%)が最も高く、次いで「知識がないため何を話し合っていないか分からないから」(26.5%・31.5%)となっています。

図4.101 話し合っていない理由<問10-(1).②>



○どこで、どのように人生の最後を迎えることを希望するかについて、一般高齢者は「特に希望はない」(17.6%)が最も高く、次いで「病院などの医療機関で「医療処置」を受けながら迎えたい」(16.4%)、「自宅又は親族等の家で「介護サービス」を受けながら迎えたい」(14.9%)となっています。事業対象者・要支援者いずれも「自宅又は親族等の家で「介護サービス」を受けながら迎えたい」(20.7%・21.0%)が最も高く、次いで「病院などの医療機関で「医療処置」を受けながら迎えたい」(17.2%・20.2%)となっています。(「わからない」を除く)

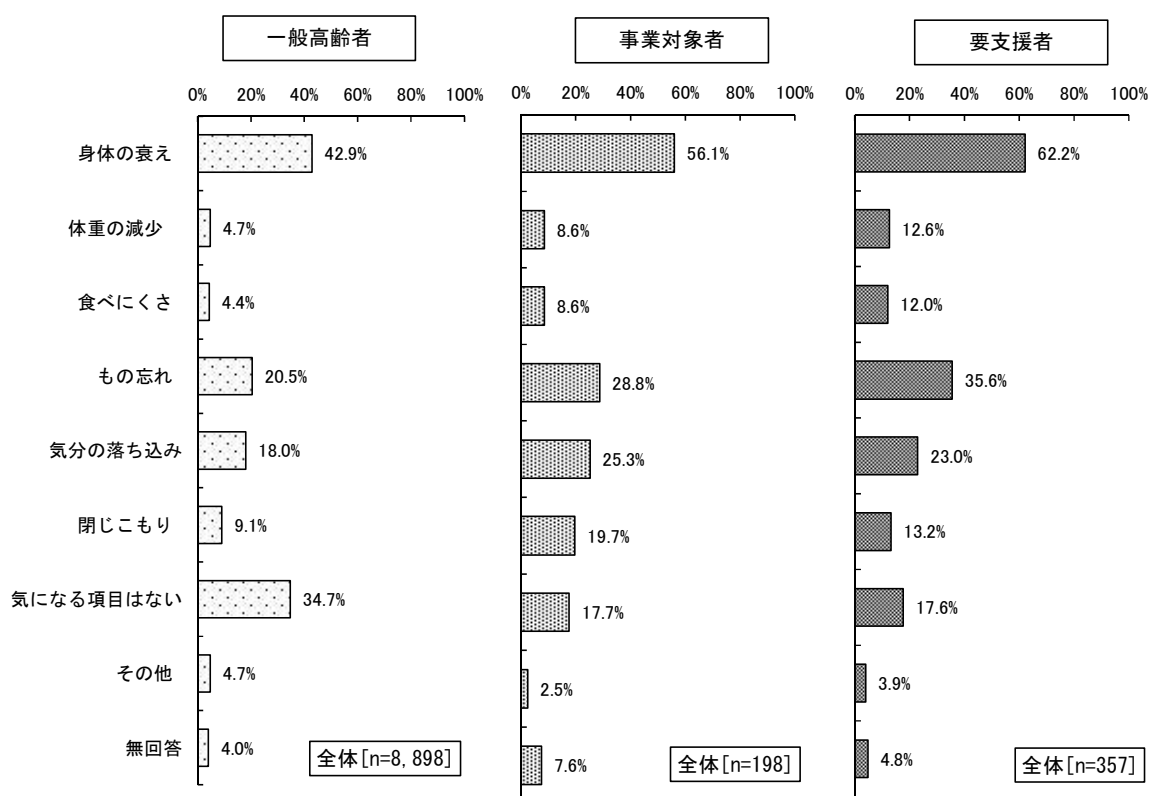
図 4.102 どこで、どのように人生の最後を迎えることを希望するか<問 10-(2)>



## 11 その他

○新型コロナウイルス感染症流行以前（令和元年）と比べ、気になることについて、一般高齢者は「身体の衰え」（42.9%）が最も高く、次いで「気になる項目はない」（34.7%）、「もの忘れ」（20.5%）となっています。事業対象者・要支援者いずれも「身体の衰え」（56.1%・62.2%）が最も高く、次いで「もの忘れ」（28.8%・35.6%）、「気分の落ち込み」（25.3%・23.0%）となっています。

図 4.103 新型コロナウイルス感染症流行以前（令和元年）と比べ、気になること<問 11-(1)>



○生活の中で文化・芸術の鑑賞活動に取り組んでいるかについて、一般高齢者は「関心はあるが取り組んでいない」(42.8%)が最も高く、次いで「関心がなく、今後取り組むつもりはない」(21.5%)、「年に数回程度取り組んでいる」(12.6%)となっています。事業対象者は「関心はあるが取り組んでいない」(46.5%)が最も高く、次いで「関心がなく、今後取り組むつもりはない」(24.2%)、「取り組んでいる」(8.1%)となっています。要支援者は「関心がなく、今後取り組むつもりはない」(35.6%)が最も高く、次いで「関心はあるが取り組んでいない」(34.7%)、「取り組んでいる」(6.7%)となっています。

図 4.104 生活の中で文化・芸術の鑑賞や活動に取り組んでいるか<問 11-(2)>

